

贖罪論 全

英國ダブリュ。アール。デール氏原著
エム。ビ、ハツチンソン 翻譯



明治三十二年
十月出版

日本聖公會出版社

贖罪論目次

第一章	贖罪論ノ必要	三
第二章	贖罪ノ事實ト主耶蘇基督ノ歴史トノ關係	四十五頁
第三章	贖罪事實ニ關シ主耶蘇基督ノ證明	八十一頁
第四章	贖罪ノ事實ニ關シ聖彼得ノ證明	百二十一頁
第五章	贖罪ノ事實ニ關シ聖約翰ノ證明	百六十一頁
第六章	贖罪ノ事實ニ關シ聖雅各ノ證明	百八十三頁
第七章	贖罪ノ事實ニ關シ聖保羅ノ證明	二百五頁
第八章	贖罪ノ事實ニ關シ聖公會歷史的證明	二百九十五頁
第九章	赦罪ノ存否ヲ論ズ	三百五十五頁
第十章	限ナキ義ノ律法ト主キリストノ關係ニ由テ贖罪ノ教理ヲ説明ス	四百七頁
第十一章	人類ト主キリストノ間ニ於ケル關係ニ由テ贖罪ヲ論ズ	四百五十九頁

第十二章 聖書ノ句節ヲ以テ贖罪ノ事實ヲ證明ス 五百十三頁

二

贖罪論

第一章

主耶蘇基督贖罪論

第一章 贖罪論ノ必要

カルビン派神學者ノ泰斗フランシスタンヂン其著「主イエスキリスト
人ノ罪ノ爲ニ挽回ノ祭物ヲ供フ」中ニ記シテ曰ク贖罪ノ教理ハ救拯
ニ與ル緊要ナル方法信仰ノ錨希望ノたちど愛ノ標準斯教眞個ノ基礎
ニシテ基督教會ガ有ズル凡百ノ中ニアリテ最モ貴重ナルモノナリ故
ニ若シ此ル教理ガ完全ニ保有セラル、間基督教ト其教徒ハ其安穩ト
幸福トノ一毫ヲモ損失スルコアラザルベシト雖モ一旦誤テ之ヲ放棄
シ或ハ偏固ナル手段ニ由テ之ヲ欠損スルコアラシニハ基督教理ノ全
組織ハ土崩瓦解スルニ至ラントフ氏ノ言ニ贖罪ノ事實ニ關シテ謂
フモノト見バ其適實ナルコ固ヨリ論ナシト雖モ之ヲ其教理ニ就テ謂
フモノト見バ吾人ハ必ズシモ其恰當ノ言ニアラサルヲ見ル試ニ基督
教會ノ歴史ヲ見ヨ古來多クノ信徒中ニアリテハ主キリストノ死ト赦

罪ノ關係ト明白ニ徹抵シ得ザルモノ尠カラザリシノミナラズ時トシテ主ノ十字架ガ人心ニ及ボス勢力ヲ説明スル重要ナル教理ニ反シテ異見ヲ樹ツルモノアリキ彼等ハ主キリストノ死ハ其言教及ビ其聖生涯ヨリモ人ヲシテ赦罪ニ與ランカ爲メ神ノ慈愛ヲ信賴スルノ情ヲ勵マシ且ツ助成スルモノナルガ此ハ果シテ如何ノ方法ニヨリテナルカ將タ如何ノ理由ナルカヲ説明シ能ハズト雖モ然モ尙ホ主ハ人ノ爲ニ挽回ノ祭物トナリ人ハ之ヲ信ズルニ由リ神之ヲ無窮ノ救拯ニ入レ給フトハ信ジタリ彼等ハ信ズラク人ノ罪ノ贖ハル、所以ノモノハ主ノ死ニ關スル教理ニアラズシテ蓋シ死其物ナリト故ニ假令贖罪ノ教理ハ明確ニ且ツ詳悉セラル、トナシト雖モ主ノ死ハ人ヲシテ神ヲ信ゼシメ其心地ヲ淨潔ナラシムルニ於テ驚ク可キ魔力ヲ有ス蓋シ贖罪ノ教理ヲ神融意會スルハキリスト教徒ヲシテ其心靈的生命ヲ發達セシムルニ與リテ力アルモノトス或ハ「キリストも一次罪の爲に苦を受く義者不義者に代れり是れ我儕を引て神に至らん爲なり」彼前三〇一

八初半)テフガ如キ其他之ニ類似セル聖句ヲ信ジ敢テ寸毫ノ疑ヲ挿マザル者ニアリテ尙ホ主ノ死ト贖罪ノ關係トヲ明瞭適實ニ説明スルヲ憚リ其敬畏ノ念ハ偶這般ノ教理ヲ闡明スルヲ躊躇スルモノアリ彼等ガ罪人ニ代リシ神ノ聖子ノ死ニ對シテ思想シ云爲シ能フ所ノモノハ唯タ二事アルノミ即チ自家罪愆ノ深且ツ大ナルヲ認メテ深ク悔改ノ心ヲ起シ(一)洪大ナル神ノ仁愛ヲ感シ其限り無キ同情ト勢力ヲ敬ヒ且ツ謝スル事(二)是ナリ或ハ又主ノ死ハ深秘ナル奧義ニシテ遠奧ナル神ノ聖旨ノ存スル所到底人カヲモテ窺ヒ知ル可ラザルモノナリトナスモノアリ或ハ神學上教理史ヲ考究シテ贖罪ノ理由ヲ論ズルガ如キハ或ハ人トシテ頗ル差出ガマシキ嗚乎ノ所爲ニシテ異端ニ墮ルノ危険アリトナスモノアリ或ハ神ノ憐憫ヲ完全ニ彰ハスモノ即チ十字架ノ死ヲ考フルキニ吾人人類ノ不完全ナルヲ混淆スルニヨリ却テ贖罪ノ輝キト美德ヲ小ニシ之ヲ隱蔽スルノ恐アリトスルモノアリ將タ又多クノ信徒ハ神カ人類ヲ支配シ玉フトキリストガ人類ノ爲ニ死

玉フタルトノ關係ヲ説明スルニ當リ聽者ハ却テ吾人ノ不完全ナル説明ニヨリ主キリストガ人間ノ罪ヲ贖ヒ玉ヒタルトヲ否ムナラン即チ吾人ノ贖罪ニ關スル説明ハ信シ難キ者ナルヲ以テ人々ハ贖罪ノ事實ヲ信ゼザル可シ是レ危險ナルトナリト思惟スル者アリ贖罪ノ教理ヲ研覈スル事深キヲ加フルニ從フテ更ニ多クノ難解ノ點ヲ發見スルハ何人モ免カレザル所ナル可シ蓋シ贖罪ノ教理ニ付キ誤テ之ヲ解スルトアラシカ開ハ基督教會ノ生命ヲ害スルト太タ鮮ナカラズトス然レモ到底今日ノ神學界ハ此教理ヲ説明シテ餘蘊ナキヲ能ハズ惟フニ此ハ今ノ世ニ於テハ成就セラレザル希望ニシテ吾人ハ將ニ來ラントスル世ニ於テ當面神ニ咫尺スルノ時渙然トシテ氷釋スルヲ俟タサル可ラズ夫レ贖罪ノ教理ヲシテ充分明白ニ説明セント欲セバ豫メ聖父ト聖子トノ間ニ存スル無窮ノ關係ヲ説明セザル可ラズ近世ノ某神學者ハ以爲ラク父子聖靈三位一體テフ名稱ハ神ガ其自ラヲ人類ニ顯現ハシ給フ方法ニ緣テ自然起リ來リタルモノナリト然レモ單リ之レノ

ミニ止マラズ其關係中ニハ尙一層親密ナルモノナクンバアルベカラズ故ニ神即チ主キリストノ父ナル神ハ其榮光アル地位ヲ離レ自ラ聖子ニ代リテ其活動ヲ爲シ玉フトハ到底吾人ノ思想シ能ハザル所ナリ若シ夫レ聖父聖子ニ代リテ其活動ヲ爲シ玉フトアリトセンニ其兩者ノ關係ハ唯タ名義ノ上ニ止マリテ其實何物モナキモノタルナリ然レモ是レ決シテ然ラズ其關係タル既ニ神性ノ内ニ存シテ永遠ヨリ永遠ニ事實タルナリ而シテ主キリストガ神ニ對シテ贖罪ノ功ヲ遂ゲ給フトノ關係ヲ説明スルノ方法ハ唯タ三位一體ノ内ニ存スル相互ノ關係ニヨリテノミナサルルヲ得惜ム可シ三位一體教理ノ發達ハ既ニ其趨歩ヲ凡ソ第十四紀ニ止メタリ蓋シ初代ヨリ第四世紀間ニアリテハ三位一體論頗ル露シク大ニ考究ヲ施サレシト雖モ贖罪ノ教理ニ至テハ寥落トシテ之ヲ説明スル者アラザリキ故ニ當時ノ神學者ハ贖罪教理ト三位一體教理トニハ如何ノ關係存スルカヲ明瞭ニ了悟セルモノアラザリキ此ク初代ニ溯リテ當時代ノ思想ヲ考索セバ贖罪ノ教理明ラ

カナラザルニヨリテ三位一體ノ教理モ自ラ模稜トシテ充全ナル發達ヲ遂グルヲ得ザリキ而シテ三位一體ノ教理ガ層々トシテ發達シナバ贖罪ノ教理ヲシテ稍明瞭ナラシムルヲ得ン

基督教會ノ教理ハ不幸ニシテ齊一ニ發達スルヲ得ズ則チ神ノ聖子、永久ノ道ナルキリスト、宇宙殊ニ人類トノ本原的關係ニ就キテハ基督教會ハ未ダ充全ナル説明ヲ有セザルナリ然レモ此ノ兩者ノ關係ハ主ガ人性ヲ取リテ降臨シ給ヒタル基ニシテ此關係ノ正當ニ説明セラレシニハ難解ナル贖罪ノ教理モ自ラ了解セラル、ニ至ランカ古來多クノ神學者ハ熱切ニ其關係ヲ考究セリ第一世紀ヨリ第四世紀ニ至ル基督教會ハ(ノスチズム)ノ異端ニヨリテ此ノ關係ヲ考究スルノ已ムヲ得ザリキ尋テ監督アタナシヤス其高遠ナル思想ヲモテ之ヲ論シ第十二世紀ヨリ第十五世紀ニ至ル神學者等モ極力之ヲ論究セリ此時代獨乙國ノ神學論ニハ之ニ關スルモノ少カラズ然レモ畢竟スルニ唯議論ノ上ニ止マリテ之ヲ信仰個條トシテ實際ニ發スルモノハ是レアラザ

リキ普通ノ徒信ニアリテハ之ヲ思想ノ上ニ上スモノ未ダ會テ之レアラザリキ然レモ聖パウロハ既ニ千古ノ昔ニ於テ之ヲ道破セリ西一〇一六、一七ニ曰ク『そは彼(キリスト)に由テ萬物は造れたり天に在もの地上に在もの人の見ことを得もの見ことを得ざるもの或は位あるものあるひは主たる者あるひは政を執もの或は權威あるもの萬物かれに由テ造れたり且その造れたるは彼が爲めなり彼は萬物より先にあり萬物かれに由テ存ことを得なり』ト是レ豈ニ天地ノ玄ヲ釣セル高大ノ言ニアラズヤ是レ聖公會ガ未ダ會テ了解シ得ザル所ナリキ例バ此レ遠洋茫茫ノ裡ニ孤在セル蓬來仙島ノ未ダ幾多孤舟遠征ノ客ニモ發見セラレズ其山川風土ハ未ダ何レノ地理書ニモ載セラレズ千古茫茫トシテ知ルモノナカリシガ偶孩舟飄然タル旅客ガエクリナクモ此地ニ航シ唯一回其山川ヲ跋涉シ其溪谷ヲ尋テ其風土ヲ察シ其產物ヲ視之ヲ千古ノ書冊ニ留メシノミ爾來杳冥トシテ其消息ヲ知ル能ハズ自然ノ產物ハ遺棄シテ腐朽ニ任セ可惜幾多ノ財寶ヲ空シク蝕蝕シ去ラシ

ムルカ如ケン豈ニ痛惜ノ極ニアラズヤ「萬物ハかれ(キリスト)に由て造れたり且その造れたるハ彼が爲なり萬物ハ彼に由て存ことを得なり」トハ嗚呼是レ秘奧深遠ナル意味ヲ含ムモノニアラザルカ吾人ハ之ニ由リテ主キリストノ神性ト宇宙トノ緊密ナル關係ヲ知ルヲ得而シテ又贖罪ノ教理ヲ明白ニ指示センガ爲ニハ勢ヒ此ノ關係ヲ明瞭ニ確實ニ考究セザルベカラザルナリ

獨リ之レノミナラズ他ノ問題ニ就キテモ之ヲ哲學的神學的ニ論及スルニ方リテヤ未ダ容易ニ一定ノ説明ヲ下ダシ得ザルモノ多々ナリトス例セバ義ノ律法ノ如キハ之ヲ如何ンカ説ク可キヤ人ハ律法ニ戻リテ罪人トセラレ而シテ主キリストハ其罪ヲ贖ハンガ爲ニ其命ヲ捐テ給ヒキ蓋シ義ノ律法ハ神ノ擅制ニヨリテナサレタルモノナルカ將タ是レ神性ノ自然ニシテ絶對的必要ニ由リテナサレ且ツ永久ニ至ル可キモノナルカ若夫レ後者ヲモテ然リトセバ律法ト神トノ關係ハ如何ナル可キカ律法ハ至上ナル主權ノ地位ニアリ神ハ唯々其律法ノ執行

者トシテ自由ナキモノナルカ或ハ神ハ律法ヲ支配シ萬物ニ超在シテ世ニ廣歌颺拜ヲ受ク可キモノナルカ是等ノ諸點ヲ論スルガ爲ニハ刑罰ノ性質及其必要トヲ考究セザル可ラズ刑罰トハ何ソヤ神ハ道義的人類ヲ創造シ之ヲシテ正道ニアラシメンカ爲メ護ルニ刑罰ヲ以テスルハ是豈ニ過嚴不仁ナル方法ニハアラザルカ律法ノ權威ヲ顯彰スル刑罰ハ律法ノ命令ト全様ナル必要ト不變ノ主意トヲ有スルカ蓋シ贖罪ノ教理ニ就キ眞個嚴肅ナル考究ヲ試ントセハ豫メ先ツ以上ノ點ヨリシテ尋究セザル可ラズ故ニ多クノ敬虔ナル教徒ハ此ハ神ヲ冒瀆スルノ危險アリトシテ其論場ニ進ムヲ躊躇ス以上ノ諸問題中到底現今ノ神學ヲモテハ充分ニ説キ明スト能ハザルモノアリ故ニ世ノ最モ博識ナル士ニアリテモ之ヲ解釋スルヲ俯シテ地芥ヲ拾フガ如ク決シテ容易ナル能ハザルナリ开ハ兎モ角モ神ハ主キリストノ贖ニ由テ人ノ罪ヲ赦シ信徒ハ之ニ由テ安穩能力慰藉等アラユル恩惠ヲ間斷ナク受ケツ、アルハ蔽フ可カラザル事實ナリ故ニ吾人ハ姑ク這般ノ諸問ヲ

差措キテ神カ宇宙ヲ統治シ人類救贖ヲ遂ゲ玉フトノ間ニ在リテハ主ノ死ハ如何ノ關係ヲ有スルヤヲ考究ス可キナリ惟フニ人類ガ其有スル智識ノ極度ヲ脱白ニ明言スルハ是レ神ヲ禮拜スル最モ謙遜ナル仕方ニシテ是レゾ即チ真正ナル智識ノ行爲ト謂フ可キナリ讀者ノ知レルガ如ク在昔ハ神シナイノ頂嶺ニアリテ雲火煌耀ノ裡ニ下リ玉ヒキ而シテ民ハ遠ク離レテ立ツ可キヲ命ゼラレキ何トナレハ民其範圍ヲ乘リ越エテ當面エホバニ見ヘントセバ神威靈驗ニシテ却テ民ノ死ヲ見ルニ至ルコアルベケレバナリ深奥ナル贖罪ノ教義ヲ説明セントスルニ當リ吾人ハ亦彼ノイスラエル人ト全様ナル危険ニ陥ルノ虞アラザルカ吾人ガ神ノ目的ヲ考究スルニ方テハ須ク謹嚴ナル思想ヲ以テセザルベカラズ特ニ神ガ人類ノ罪愆ヲ洗滌シ其疾痛ヲ取除カントシ給フニ方リ如何バカリカ其慈心ヲ揮擢シ玉ノカヲ思フニ當リテハ謙遜ニシテ且ツ謹嚴ナル心ヲ有セザルベカラズ有名ナル學士リチャード・ド・カール曰ク至高ニ在ス者即チ神ヲ知ルハ是レ吾人ノ生命ナリ其聖

名ヲ讚美スルハ吾人ノ善樂ナリ然レモ人類ノ弱キ心ヲモテ神ノ云爲ヲ揣摩スルハ頗ル危険ニ屬ス蓋シ人ノ眞知識トハ神ノ存在ニ就キ十二分ニ知識スル能ハズ否其知識スルコトハ到底人ノ及ヒ難キ所ナルヲ知識スル是レヲ是レ云フナリ其榮光ヲ説明スル能ハズ其宏大ニ接觸スル能ハズ淵默シテ然モ胸襟ノ悟了アル是レ眞個ノ能辨ナリ神ハ至高ノ天ニ在リ吾人ハ低ク地上ニ蠢タリ吾人ハ惴々トシテ其言詞ヲ少ナカラシム可キナリト此言甚タ合理至當ナリト雖モ吾人ハ今日ノ狀態上不幸ニシテ之ニ服スルヲ得ザルナリ蓋シ贖罪ノ教理ニ就キニケノ説明アリ吾人ハ撰ンデ其一ヲ取ラザルベカラズ而シテ吾人ノ取捨スル所ニ隨テ其ノ敬愛ナル禮拜罪ノ懺悔赦宥ノ懇求及感謝ノ如キ自ラ異ナル所アルニ至ル可シニ説明トハ何ゾヤ曰ク(一)主キリストノ死ハ人ノ罪ノ赦ルサルコトニ就キ直接ノ關係アリトスル事即チ之ヲ外部的トスルモノ(二)主キリストノ死ハ神ガ人類ヲ愛シ給フコトノ如何ニ深厚ナルカヲ顯彰スルモノニシテ人心ヲシテ變化セシムルノ方法ナ

リトスル事即チ之ヲモテ内部的トスルモノ是ナリ故ニ單ニ神學者ノミナラズ普通ノ信徒ニアリテモ必ず其何レカヲ撰擇セザルベカラズ若シ人アリ彼ハ主キリストノ死ハ神ノ仁愛ヲ顯彰スル所以ノ道ナルヲ知ルト雖モ人類ノ赦罪ニツキ直接ノ關係アルヤ否ヤヲ知ラズト曰ハンニハ此ハ眞ニ贖罪ノ教理ヲ信ゼザルモノナリトセザルヲ得ズ縱令如何ノ教理ニモセヨ或ハ之ヲ疑ヒ或ハ之ヲ知ラズト云フモノアランニハ其教理ガ其人ニ取リテハ靈妙ナル力ヲ有セズ且ツ愛ノ力ヲ起ス能ハザルモノナル事ハ言フ迄モナキ事ナリ故ニ何人ニアリテモ其自己ガ認テ以テ眞理ナリトスル教理ニアリテハ其教理ノ勢力ハ其生涯ヲ通シテ至大ノ勢力ヲ有スルモノナリトス若シ人アリ彼ハ主キリストノ訓言ト使徒等ノ記録ノ中ニ散點シ且ツ殆ンド凡ノ教會ニ由テ信認セラレタル主ノ死ト人類赦罪トノ間ニハ直接ノ關係アルヲ知ルト云ハンニハ彼ハ其襟裡ニ贖罪ニ就キ既ニ充分ナル説明ヲ有セルモノナリトセザルヲ得ズ惟フニ彼ハ神ノ宇宙統治ト其本質トハ主キ

リストノ死ニ由リ初メテ満足スルノ必要アリトノ事ヲ必ズシモ了解スルヲ欲セザル可シ然レモ彼若シ主ハ人ノ罪ノ挽回ノ祭物ナリト間斷ナク信スルヲ論ルルアルニアラズンバ彼ハ既ニ十分ナル贖罪ノ説明ヲ有スルモノトセザルヲ得ズ

今若シ新約全書ヲモテ吾人ノ信憑スベキ權威ヲ有ス可キ書ナリトセバ吾人ハ贖罪ノ教理ヲ受ケ入レザル事能ハザルナリ主キリストノ死ニ就キ會テ云ヘルアリ曰ク『キリストは罪人の爲に死給へり』ト又曰ク『義者即ちイエスキリスト不義者の爲に苦を受く』ト此等ノ言及ヒ之ト相類シタル聖書ノ本文ハ之レヲ贖罪ノ説明ト謂フ可キナリ若シ之ヲモテ然ラズトセバ此等ノ言一モ意味ナキノ文字トシテ殘ル可シ苟モ以上ノ句ヲモテ緊要ナル意味ノ含蓄セラレタリト信ズルモノナランニハ主キリストノ死ハ人類ノ利益トナルモノナルカ將タ主キリストハ人類ニ代リテ死シ玉ヒシモノナルカ其何レカヲ信ゼザル可カラザルナリ

使徒等ハ其著書ニ於テ主キリストノ死ト其結果トヲ指シテ之ヲ贖トハ稱セリキ此語ヲモテ之ヲ無意味ノ語トスルハ果シテ至當ノ事ナラシヤ當時贖トハ奴隸ヲ放キテ自由ナルモノトナスノ價ヲ指示シタリキ苟モキリスト教徒ノ義務トシテハ謙遜忠實ニ本語中ニハ主キリストノ死ニ就キ如何ノ意味ヲ有スルカヲ沈潛考究セザルベカラズ人類ノ罪愆ト主キリストノ犠牲トノ間ニハ緊密ナル關係アル事ハ使徒等カ確信セシ所ナリ又主ガ人類ノ爲ニ痛楚ヲ甘受シ給ヒキテフ事ニ就キテハ彼等ハ諸種多樣ノ筆ヲ以テ之ヲ記述シヌ故ニ意リナク新約全書ヲ研究スル人ニアリテハ必ズ此關係ニ就キ何ニカノ説明ヲ有セザルベカラズ即チ「キリスト我儕ノ罪ノ爲ニ苦を受ク」トノ意味ハ或ハ之ヲ主キリスト吾人ノ身ニ代リテ痛楚ヲ受ケ玉ヒシトシ或ハ之ヲ主ガ深ク吾人ノ情ヲ體恤シ玉フヤ吾人ノ罪ハ恰モ主自身ノ罪ノ如ク見ユルニ至ル事ナリトシ或ハ之ヲ世ノ善人義士ガ神ニ忠事スルノ結果惡人ノ爲ニ苦慮セラレ終ニ非命ニ斃ル、ガ如ク人類ノ邪僻タル

心ハ自然ニシテ正義ヲ嫌惡シ其極途ニ主キリストヲ慘殺スルニ至リキ故ニ主ハ罪ノ爲メニ痛楚ヲ受ケ給ヒシモノナリトナスカノ中孰レカ其一ナリトセザルベカラズ而シテ是レ其孰レナルニモセヨ贖罪ノ説明ナリトス

吾人ハ今主キリストノ死ヲ論ズル新約書中ノ語ニ據リテ贖罪ノ意義ヲ考究セザルベカラズ約第壹、二〇二ニ曰ク「彼は我儕ノ罪ノ挽回ノ祭物なり」第に我儕ノ爲のみならず徧く世ノ爲ノ挽回ノ祭物なりト聖ヨハネハ本文ニ於テ神ハ主キリストニ由テ吾人ヲ赦ルシ玉フトハ言ハズシテ却テ主ガ挽回ノ祭物トナリ玉フニ由リテ神吾人ヲ赦ルシ玉フトハ記シタリキ吾人ハ本文ニ由リテ挽回ノ祭物ノ献ゲラル、ハ將ニ神ガ人類ノ罪ヲ赦ルシ玉フ前ニ當リテ必要欠グベカラザルモノナルトヲ知ルヲ得又主ガ挽回ノ祭物タリトハ果シテ何ノ意味ナルヤハ説明ヲ俟タズシテ本節ニ於テ明カニセラレキ故ニ吾人若シ本節ヲ其儘ニ信ズルト得バ是レ吾人ハ取モ直サズ贖罪ノ眞意ヲ了解スルモノ

ト見テ差支ナカルベシ而シテ人或ハ之レガ説明ノ當否ヲ論ジ深ク討究スルヲ肯テセザルハ却テ異端邪徑ニ墮ルノ虞アリトセザルヲ得ズ夫レ神ハ人ノ如ク私意ニ任セテ或ハ震怒シ或ハ殘刻ナル刑罰ヲ與エ若クハ人ノ如ク理由モナキ懇求ニ由リテ人ノ罪ヲ赦ルスガ如キ放漫ナル所業ヲ爲シ給フト思惟スルガ如キハ思想ノ暴漫ナル之ヨリ甚ダシキハナク神威ヲ冒瀆シ主ノ犠牲ヲ辱シムルモノト謂フ可キナリ爰ヲ以テ贖罪ノ教理ニツキ之ヲ考究スルニ粗笨ナル思想ヲ以テスルハ事ノ頗ル危険ナルモノナリト雖モ然モ亦之ヲ忽諸ニ付シテ其考究ヲ肯テセザルモ其危険ノ事タルヤ一層甚シカルベシ吾人若シ聖書考究ノ結果主キリストノ訓言ト使徒等ノ著書ガ神ノ聖旨ヲ顯彰スルモノナルヲ信ゼンニハ吾人ハ人類ノ罪愆ト主キリストノ死ト及ビ主ノ死ト贖罪ノ間ニハ如何ノ關係存スルカ各自其説明ヲ有セザルベカラズ願フニ其説明タル畢竟不完全ト不適當トヲ免カルベカラザルベシト雖モ一ノ説明ヲモナクシテハアルベカラザルナリ

論者或ハ曰ク吾人ハ神ノ稜威ノ嚴ナルヲ畏敬スルニヨリ隨テ人類ガ主キリストニヨリ罪ノ赦ヲ得ベキヲモ信ゼザル可ラズ然レモ之ヲ説明スルハ敢テスベキニ非ラザルナリト然レモ贖罪ノ事實ニヨリテ現顯セシメラレタル神政ノ主意及ヒ神性ノ圓滿ヲ了悟スルヲ欲セズシテ之ヲ高閣ニ束ヌルガ如キハ是レ神民ノ正ニ受クベキ洪益ヲ放棄シ且ツ聖書ノ靈示ニ反スルモノト謂ハザルベカラザルナリ詩篇第百十九〇百三十節ニ曰ク「聖言ヲちひらくれば光を放ちて愚なる者を悟らしむ」下舊約時代ニ於テ神ノ默示ハ今日ノ如ク明白ナラズ故ニ神子輩ハ神ノ榮光ノ一層明白ナル顯現即チ聖子ノ降臨ヲ望メリ然レモ當時ニアリテモ神ノ聖言ハ決シテ曖昧模糊ナルモノニ非ズシテ明光ノ認ムベキモノ嚴乎トシテ存シタリキ神若シ其聖旨ヲ默示センコトヲ欲セバ其默示タルヤ必ス規則正シキ進步ヲ爲シタルヲ知ル可キナリ蓋シ人心ヲシテ善業ニ慣レシメンガ爲ニハ其當初ニ權利的命令ヲ與フルハ事ノ尤モ要ヲ得タルモノナリ何トナレバ人ハ正義ノ永久ニ亘リテ

吾人ノ爲ス可キ義務タルヲ知ルノ前ニ當リテ其爲ス可キト爲ス可ラザルトヲ指示スル明瞭適實ナル命令ニ由テ其道德性ヲ鍛鍊セザル可ラズ故ニ其初メニハ神ノ命令ヲシテ檀制的ナリトシテ多少ノ厭惡ヲ免レズト雖モ漸次化シテ神ヲ謳歌スル敬虔ナル讚美トハナルベキナリ神ノ世嗣タルベキ信徒モ其初メハ僕ノ如クナリシト雖モ「アバ」父ト呼ブ子供トハナルニ至ル實ニ神ハ外部的權威ノ鏈鎖ヲ解キテ之ヲ奴隸視スルヲナク之ヲ實子トシテ遇シ玉フ今ヤ期既ニ滿チキリスト教徒ハ義務ト幸福トニツキ完全キ自由ヲ受ク可クナリヌ而シテ主キリスト吾人ヲ釋キテ自由ヲ得サシメ玉ヒタレバ吾人ハ正ニ確トシテ樹立セザル可ラズガラテヤ（拉五〇一）吾人ノ得タル此ノ自由ハ單リ古昔ノ艱辛ナル律法ノ軛ヨリ釋ル、ノミナラズ主キリスト、合体調和スルニヨリテ父ナル神ト一層親密ナル戚屬ノ親ニ與ルヲ得シム夫レ神ガ其神性及其聖旨ヲ人類ニ顯彰シ給フ所以ノモノハ何ゾヤ是レ他ナシ純ラ此自由ニ關スルヲアレバナリ或ハ又假令神ノ啓示ノ道ニ準ジ吾人ガ行フ

ベキ行爲ト雖モ亦此ノ自由ト相涉ラザルベカラザルベキナリ主キリストノ命令ハ人心ヲ抑制スルノミナラズ又完全ナル道德ヲ了解セシムルニアリ故ニ若シ此等命令ノ主意ニシテ曖昧糲稜ナランニハ吾人ニ取リテ是レ無用ノ長物タルノミ或ハ又此等命令ノ一字一句ヲ文字通りニ解シテ之ニ準ハントセバ其害ヲ蒙ルル鮮カラザル可シ例ヘバ「爾に求むるものには手へ借らんとする者を卻くる勿れ」太五〇四二、「人の罪を定ると勿れ恐くは爾曹も亦罪に定られん」太七〇二「然ば何を食ひ何を飲何を衣んとて思わづらふ勿れ」太六〇三一「若汝の一手又は一足汝を礙かさば之を斷され」可九〇四三四五「若し爾の一眼汝を礙かさば之を扶出せ」可九〇四七ノ如キ命令及ヒ之ト類似セル多クノ命令ヲ見テ之ヲ文字通りニ解釋シ其一字一句ニ拘泥セハ何ノ用ヲモナサル可シ惟フニ此等命令ノ目的タル頗ル高尚ナルモノニシテ吾人ヲシテ完全ナル道德ニ就キ純潔高尚ナル觀念ヲ懷カシメンガ爲メナルヤ明カナリ若夫レ吾人ニシテ此等高尚ナル觀念ヲ懷キテ其胸襟ヲ去

ラシメズンハ吾人自身ハ是レ取モ直サズ一ノ法命令ナルナリ新約書中ニアリテ重要ナル教理ヲシテ了セシムルノ方法モ亦之ト相同シ看ヨ眞個ノ教理ハ信仰箇條ノ文体トハ自ラ相異レリ神ハ新約書中ニ於テ躬自ラ其教ヲ垂レ玉フ例セバ主キリストノ神性ニツキ多クノ箇所ニ記サレタルハ「肉体ノ中ニ顯現セル神ナリ」テフ事是ナリ此ハ蓋シ神學者等ガ主キリストノ神性ヲ論ズルノ論據ナリトス然レモキリスト教徒モ主キリストヲ尊崇シ且之ヲ禮拜スル所以ノモノハ上掲ノ本文ヲ盲目的ニ信ズルガ故ニ非ズシテ此ハ全ク新約全書ヲ通シテ精細ナル研覈ヲ施シ其證明スル所ヲ採リ使徒等ノ「我儕その榮を見るに實に父の生たまへる獨子の榮なり」(約一〇一四)「我儕自ら聞きて此は誠に世の救主と知たればなり」(約四〇四二)ト言ヒケンガ如ク彼等モ同様ニ思惟スル所アレバナリ故ニ吾人ハ神ガ「諸の政と權威と能力と宰治また此世のみならず來らんとする世にも凡て稱ふる所の名の上に置き天の處にて己の右に坐セシメ玉フタル主キリストヲ敬畏禮拜ス」(弗一〇

二)吾人ハ彼ガ王ノ王君ノ君ナルヲ知リテ至誠ニシテ彼ニ服従ス主キリスト曾テ約シテ曰ク「我に従ふ者は暗中を行かず生の光を得るなり」(約八〇十二)又爾曹若し我道に居らば爾曹眞理を識らん(約八〇三一)三二ト吾人ガ最初主ノ權威ニ由リテ受ケ入レタル眞理モ漸ク融解シテ遂ニハ吾人ノ血肉トシテ同化攝入セラル可シ吾人ハ是ニ至リテ渾然主キリスト、同化スルニ至ル可シ

夫レ心靈的教理ヲ直接ニ了悟シ得ンコトハ人力ノ得テ及ビ難キ事ナルハ疑ヒナキ事實ナリ假設又之ヲ了悟シタルモノニアリテモ之ヲ規矩整正ナル文体ヲモテ記述セン事ハ到底能ハザル事ナリトス曾テ主キリストニ由リテ約束セラレタル清キ心ノ者ノ神ヲ見得ル事ト神學者等ガ神性ニ付キ論ズル所トハ甚タ相徑庭ス然レモ主キリストガ死シテ以テ人ノ罪愆ノ爲メニ挽回ノ祭物トナリ玉フテフ事ハ是レ決シテ人ノ到底知識シ難キ與義ナリトシテ研究ノ精神ヲ杜絶スベキ理由トハナス可ラズ而ノ又此ノ秘義ヲ知識セン事ヲ企テタレバトテ是レ又

決シテ譴ム可キ潜越ノ所業トハ爲ス可ラズ
讀者ノ知レルガ如ク凡ソ神學ノ眞理ハ吾人ノ五官ニ由テ知識セル結
果ヲ平易明白ナル言語ヲモテ説明スルヲ其能事ナリトス斯ノ如ク神
學上ノ教理モ吾人ノ心靈上ニ白々地ニ靈現セルヲモテ他ニ顯示ス
可キモノタルナリ凡ソ人ハ二ケノ状態ト尤緊密ナル關係ヲ有ス曰ク
形而下曰ク形而上即チ一ハ形狀、音響、色澤ニ由テ知り得ベキモノ一ハ
靈心ノ感知ニ由テ知り得ラルベキモノ是ナリ此ノ二ケノ方法ニ由テ
吾人ノ知識スル所ハ縱令不完全ナルヲ脱レズト雖モ其直接ノ點ハ之
ヲ多シトセザルヲ得ズ形而下ナル万有ニ就キテハ學術之レガ説明ヲ
與エ形而上ナル未來若クハ心靈的眞理ニ就キテハ神學之レガ説明ヲ
與フ抑モ吾人人類ハ罪累纏傳セル被造物ニ屬スルヲモテ創造主ナル
上帝ヲ見ントヲ企ツルガ如キハ是レ疑モナク譴ム可キ潜上ノ事ナル
ナリ故ニ熱心謙遜ナルキリスト教徒モ動モスレバ誤解シテ不完全ナ
ル人類ガ遂ニ朽チハツ可キ今ノ世ニ於テ主キリストノ贖罪事業ヲ見

神ノ精細ナル豫想ト深旨トヲ了解センガ爲ニ聖靈ノ啓牖ヲ求ムルガ
如キハ是又譴ム可キ潜上ノ沙汰ナリトス然リト雖モ吾人ハ容易ニ之
ニ默從スルヲ得ザルナリ蓋シ主キリスト曾テ約一七〇三ニ於テ曰ク
「永生とは唯獨の眞神なる爾と其遣はし、イエスキリストを識る是な
り」ト想フニ是ハ主ガ吾人ヲ獎メテ神ノ超絶セル稜威ト主キリストノ
慈惠トヲ深く了悟ス可キヲ且望ミ且祈ル可キヲ以テシ玉フモノニ非
ズヤ故ニ吾人ガ之ヲ神通默會シ精細眞率ナル文字ヲモ記述シ其眞理
ヲ明ニセンコトハ必ズシモ譴ム可キコトニアラザルナリ此ク吾人ガ聖靈
ノ啓牖ニ浴シテ知り得タル知識ハ眞ニ是レ贖罪ノ教理ナルナリ吾人
ハ以下ノ諸章ニ於テ主キリストノ死ト人類赦罪ノ緊密ナル關係ヲ叙
述シ而シテ更ニ其關係ノ存スル所以ト主意トヲ研究セントス即チ先
ツ贖罪ノ事實ヲ確定シ置キ進ンデ贖罪教理ノ説明ヲ試ム可シ
贖罪ノ事實ヲ確定ス可キ唯一ノ方法ハ他ナシ之ニ關スル聖經ノ章句
ヲ拈出シ秩然之ヲ排列スルニアリ(第十二章ニアリ)然レモ吾人ハ今此

ノ捷徑ニヨラズシテ更ニ他ノ一法ヲ採ラントス則チ吾人ハ贖罪ノ教理ニツキテ使徒等ノ思想シ確信セル所ノモノヲ指示セントス蓋シ之ヲ爲ンガ爲ニハ斷章分節個々ノ章句ヲモテハ到底其意義ヲ明ニスルヲ能ハザルベシ惟フニ使徒等ノ書タルヤ隨時必要ニ應ジテ著述セラレタルモノニシテ其書中ニ於テ往々特殊ノ教理ヲ説明シ或ハ特殊ノ義務ヲ獎勵スルガ如キ多クハ是レ其教理ト義務トヲ説ク可キ自然內部的ノ必要ニヨルニアラズシテ寧ロ當時代ニ於ル基督教會ノ所信ト氣風トヲ壞滅スベキ種々ナル危険アルニヨリテ或ハ唯タ一時ノ出來事ニヨリテ著述セラレタルモノナルベシ例セハ哥林多後書ニ於テユダヤノ信徒ヲ救恤センガ爲ニ義務ヲ獎勵スルガ如キ或ハ其前書ニ於テ人類ノ甦生ヲ論スルガ如キ其必要ノ點ヨリシテ之ヲ言ヘハ固ヨリ同日ノ論ニアラズト雖モ二者孰レモ之ヲ記述スルニ均シキ行數ヲ以テス或ハ羅馬書ニ於テ人ハ第^タ信仰ニヨリテ義トセラル、ヲ論スルガ如キ或ハ哥林多前後書ニ於テ卑猥陋劣ナル業事ヲ論ズルガ如キ是レ

當時ノ必要ニ應ジテ論ゼル所ニシテ兩者ガ吾人ニ相渉ル必要ノ度ニ至リテハ固ヨリ天地雲壤ノ差異アリト謂ツ可キモ其之ヲ記述スルニハ同行數ヲ費シヌ此等ノ例ニ由テ之ヲ見レバ使徒等ノ著書ニ於テハ一教理ヲ教示スルニ當テ記述ノ詳否ト明否ノ度合トハ必ズシモ其教理ノ肝要ナルモノト否トニヨラズ寧往々ニシテ重要ナル教理ハ單辭隻句ノ中ニ記セラル、アリ惟フニ是レ此ル重要ナル教理ハキリスト教徒ノ懷裡ヨリシテ除キ去ラル、虞少ケレバナランカ是レヲ概言スレバ使徒等ノ著書ニ於テキリスト教徒ノ或ハ失ヒ易ク或ハ變ゼシメ易キ危険アル事實ニ付テハ論ズル事其多部分ヲ占ム例合バ聖パウロガ前ニハ偶像教徒ニシテ今ハ之ヲ舍テ、キリスト教會ニ列リタルモノニ向ヒテ其書ヲ贈ントスルニ方リ偶像禮拜ノ非行ヲ戒メ或ハ神ノ唯一ナルヲ論ズルガ如キハ是レ決シテ恰當貼切ノ事ニ非ズ苟モキリスト教徒トナリタランモノハ偶像教ノ迷蒙ト其所業トヲ脱却セルモノナル事言フ迄モナカル可シ又或ハナザレノイエスハ神ノ聖子ニシ

テ人ノ救主ナル旨ヲモ教示スルノ要ナル可シ何トナレバ吾人ハ只此點ヲノミ確信シテキリスト教會ノ一員タルヲ得可キモノナレバナリ故ニ使徒等ノ著書ノ性質ヨリスレバ其書中ニ斯教ノ基礎タル重要ナル教理ハ教示セラルベカラザルベキナリ如何トナレバ其基礎的教理ハ既ニ業ニ各人ノ信受スル所ナルベケレバナリ蓋シ惟フニ其著書ノ目的タル既ニキリスト教徒ガ受ケタル教ノ原則ヲモテ之ヲ實際ニ應用セシムルニアリ即チ行爲ヲ洗鍊シ幸福ノ希望ヲ抱キ艱難ニ素シテ妥如タルガ如キ是レナリ惟フニ其書中ニ於テ感謝祈禱ノ事ノ記サルハ是等應用的教訓ノ結果ナルナランカ

若夫レ上來叙述ノ事ヲモテ是ナリトセバ使徒ノ信條ヲ知ランガ爲ニ其著書中ヨリ直接ニ之ヲ證明スル言句ヲ類彙セントスルガ如キハ決シテ上乘ノ策ニアラズ故ニ吾人ハ一層困難ニシテ直接ナラザル方法ヲ探ラザルベカラズサレハ吾人ハ使徒等ガ其所信ヲ教示セル一二ノ章句ノ如キハ之ヲモテ直接證明ノ部分ニ類彙スルヲ得ザルナリ例令

バ哥林多前書十一章二十節以下章末ニ至ル直接ナル目的ハ輕心ニシテ聖餐大禮ヲ汚瀆スルヲヨリシテ戒心スベキ事及ヒ這ノ禮典ヲ大ニ敬重セシメンガ爲ナリ故ニ聖パウロハ熱心ナル教徒ヲシテ渠ガ將ニ聖卓ニ近カントスルニ當リ震懼ス可キ辛辣ナル言辭ヲ用ヒタリ蓋シ彼ハ本書ヲ録スルノ少シキ前ニ當リテ哥林多教會ヲ建設セリ而シテ哥林多ノ信徒ハ間モナク彼力懇到ナル教誨ヲ忘失シテ聖晚餐ヲ受クルガ如キ尤モ謹嚴ナルベキノ時ニ當リテ彼等ハ飽食過飲ノ陋態ヲ演ジヌ是豈大ニ耻ヅ可キノ事ニ非ズヤ故ニ彼ハ言ヲ極メテ譴責シヌ今若シ假ニロマ教會ノ教職若クハキリスト教會中ノキヤソリック黨教職ヲシテ此ノ場合ニアラシメントセバ惟フニ彼等ノ言ハ左ノ如クナランカ曰ク「聖別ニ由テ主キリストハ已ニ此ノ〔パン〕下葡萄酒ノ中ニ存ス而シテ已ニ聖別セラレタル〔パン〕下葡萄酒トハ主キリストノ躰ト血ニ變化セルヲモテ今主キリストハ實ニ聖壇ノ上ニアリ故ニ爾曹ハ其飽食過飲ニ由テ主キリストヲ汚辱シツ、アリト

然レモ聖パウロノ言ハ此ノ如クナラズ彼ハ十一章二十八節ニ於テ人自ら省て後そのパンを食し其杯を飲む可し下ハ云ヘリキ是レ彼ガ聖別ニ由テ主キリストハ已ニ此パン下葡萄酒ノ中ニ在ス而シテ已ニ聖別セラレタルパン下葡萄酒トハ主キリストノ體ト血ニ變化セルモノナリトノ信仰ヲ有セズ且之ヲ教示セザリシ事ノ確乎タル證據ニアラズヤ之ヲ別言スレバ彼ガ説ク所ハ主ハ決シテ聖別セラレタルパン下葡萄酒ノ中ニ在スナシトノ事是ナリ此ハ固ヨリ明白ニ録サレタル章句アリト言フニハアラザレモ第十一章二十節以下三十四節ノ所論ニヨリ明白ニ推知スルコトヲ得ルナリ今更ニ一例ヲ以テセンカ約壹〇四〇二三ニ曰ク凡そイエスキリストの肉體となりて臨り給へる事を認はず靈は神より出づこれに由て神の靈を知る可し凡るイエスキリストを認はざる靈は神より出るに非ず即ちキリストに敵するもの靈なり此者の將に來らんとする事は爾曹が聞ける所なり今すでに世に居り下若夫レ主キリストノ人性ヲ稟ケ給ヒタル證據ヲ求メント

スルモノアラバ本文ノ如キハ之ヲ證シテ餘リアル可シ而シテ使徒及初代ノ信徒ガ主キリストノ神性ヲ信ジタリシ事モ尤モ明白ニ證シ得ラル可シ聖ヨハネハ如何ノ必要ニヨリテ主キリストガ肉體ヲモテ臨リ給ヘルテフ事ヲ此クハ熱切ニ論ジツルカ惟フニ是レ當時ノ信徒ガ惟リ主キリストノ神ノ聖子ニシテ純全タル神性ヲ有シ玉フコトヲノミ信ジテ主ノ人性ヲ稟ケ玉ヒシヲ忘失セルガ所以ニハアラザルカ蓋シ神ガ人性ヲ稟クルテフ事ハ哲學上信據シ難キ事ニシテ何人モ之レガ爲ニ惱マサレザルハナカル可シ故ニ現今此ノ解シ難キコトヲ除去センガ爲ニ多クノ學者ハ主キリストノ神性ヲ否定セリ然レモ第一世紀ニ於テ多クノ信徒ハ其心中主キリストヲ神ナリト信ジタルノ極遂ニ主キリストノ人性ヲ否定セリ豈奇ナラズヤ

夫レ主キリストノ眞ニ神性ニ在スハ新約全書ニ照シテ使徒等ノ確信セル教理ナリキト知ルヲ得新約書中ニアリテ多クノ章句ハ直接ニ此ノ教理ヲ教示セリ縱令又此等直接ノ章句ヲ除去シテ尙ホ其證明ヲ求

メントスルモ吾人ハ其餘リノ章句ニ於テ間接ニ使徒等ノ所信ヲ證スルヲ得蓋シ新約書ノ全体ハ主キリストノ天ノ默示ヲ授ケラレタル教師ニシテ圓滿具足セル人類ノ模型ナルノミナラズ完全ナル神性ヲ有シ給フ事ヲ證明シテ餘アリ主キリストハ使徒等ノ思想ノ源泉ナリ彼等ガ説教ノ中心點ナリキ人類ノ義務ハ繋リテ皆彼ニアリ彼ハ信徒ノ希望ノ礎石ナリ凡ソ信仰ニ由リテ救ハル、モノニ取リテハ主ハ實ニ智、義、聖、贖罪タルナリ又救ニ與ラザル人類彼ニヨリテ世ノ終末ニ至リテ無窮ノ亡ニ落ツ可キナリ主キリストガ人性ヲ取リテ世ニ臨ミ給フ前世界ノ歴史ハ一ノ意味ヲ含蓄セリ即チ救主ノ降臨ヲ待望メル事是ナリキ而シテ彼ガ世ニ臨ミ給フ時世界ノ歴史ハ此ニ正ニ終局ヲ告グ可キナリ主キリストニ由テ五倫ハ一層聖潔ニ且完全ナルモノトセラシテ見做サル彼ハ神ト同等ナル禮拜ヲ受ク可キモノナルノミナラズ神ガケルビム、セラビム、ニヨリテ敬事セラレ給フ如ク彼モ亦凡ノ信徒

ニヨリテ敬事セラレ給フ可キナリ實ニ使徒等ハ彼ニ由テ活キ又動キ又存在ナシタリキ彼ノ意旨ハ彼等ノ則ル可キ標的タルナリ彼ノ榮光ハ彼等ノ標準的目的ナリ彼ノ賞辭ヲ領スルハ彼等ニ取リテハ尤モ有價ナル賞與ナリキ以上ハ是レ新約書中ニ縱横織緯トシテ織込マレアルモノナリ

新約書中ニ教示セラレタル主キリストノ要求即チ彼ガ信徒ノ心靈ヲ支配シ玉フ絶對的權力ハ彼ノ神性ヲ信ズルニヨリ始メテ真正鞏固ナル證明トナルヲ得コレ實ニキリストノ神ナルコニ就テノ最上乘ノ證明ナリトス而シテパウロ、ペテロ、ヨハネ、ガキリストノ神性及神力ヲ有シ玉フ、及ビ神ノ所爲ヲ爲シ給フ、等ヲ直接ニ指示シタル數多ノ節ハ以上ノ證明ヲ補助スルモノナリトス

以上吾人ガ主キリストノ神性ニ就キ用ヒタル論法ハ又之ヲ贖罪ノ教理ニモ應用スル事ヲ得可シ新約書中ノ間接的章句ニヨリテモ使徒等ガ主ノ死ヲモテ人ノ罪ノ爲ニ贖エラレタル挽回ノ祭物ナリト信シタ

リシ事ヲ知ルヲ得若夫レ使徒等ニシテ這般ノ教理ヲ信ゼザリシトセバ彼ノ述作ハ無用ノ長物ナル可キナリ而シテ又此ノ信仰ハ義務實行ノ基礎ナリキ若シ使徒等ノ信仰ニシテ神ガ人類ノ罪ヲ赦ルシ玉フハ主キリスト人心ヲ變化セシメ玉フノ結果ニアルモノナリトセバ其用語ハ多クノ場合ニ於テ甚ダ異リタルモノナラザルベカラズ然リ彼等ノ所信ハ決シテ如此ナラズ神ハ只主ノ贖罪ノ故ニ由リテ人ノ罪ヲ赦ルシ玉フトハ信ジタリキ而シテ此ハ其神學的道德的教訓中ニ織緯トシテ織リ込マレアルナリ而シテ此ハ實ニ彼等ノ宗教的生活ノ根本ナリ若シ誤テ此ノ中心點ヲ否定センカ新約書ノ大部分ハ意味ナク力ナキモノトシテ了ル可シ

若シ斯如四福音書ヲ探テ這般ノ證明ヲナサンガ爲ニ主キリストガ其死ノ性質ト目的トヲ指示シ玉ヒタル語詞ノミヲ類彙セルノミニテハ決シテ充分ナリトハ謂フ可カラザルナリ但シ此ハ次章ニ於テ説明ヲ試ムベケレハ姑ク茲ニ之ヲ欠グ

贖罪問題ニ就キテハ人或ハ當今之ヲ考究スルノ必要ヲ見ザルナリト思惟スルモノアリ蓋シ現今ノ神學界ガ深奥ナル學識ヲ有スル神學者ニ乏キハ實ナリ而シテ其熱心ニ討究セラレタル諸般ノ教理ガ可惜辨毫ノ嘆ヲ發スルモ亦實ナリトス然レモ吾人ハ之ヲシテ眞ニ其考究ヲ不必要ナリトスルヲ得ザルナリ吾人ハキリスト教會ノ勸建者ナル師父等ガ主キリストノ死ハ如何カ人類ノ贖罪ナルカヲ垂教セルハキリスト教會ニ取リテハ尤モ感謝ス可ク尤モ肝要ナル事ナリト信ズルナリ

基督教會ノ勸建者ナル師父等ノ著述ナル新約全書ハ現今ノ尤モ進歩セル人民ノ宗教思想ノミナラズ尙ホ其文明及ヒ政治上ノ進歩ニ就キ影響ヲ與フ可キ一大實力ヲ有ス故ニ贖罪教理ノ説明ハ歴史研究上必要ナルモノナリトス

吾人ハ又哲學研究ニ當リテ諸先輩等ガ數世紀間潛心考究セル至難深奥ナル疑問ノ夥多ナルヲ見ル然リ而シテ贖罪ノ事實ニ就ケル眞説明

ハ此ノ疑問ヲ解釋スルニ恰當セル幫助ヲナスモノナリ故ニ贖罪教理ノ説明ハ哲學研究上欠グ可カラザルモノナリトス然リト雖モ吾人ガ贖罪ノ事實ト教理ニ關シ茲ニ論究ヲ試ントスル主眼ハ蓋シ左ノ如シ

夫レキリスト教ガ人ノ現當及未來世ニ於ケル大切ナル利益ヲ獎勵スルノ力ハ只ガ^ルバリ山上主キリストノ贖罪ニヨリテノミナリトス故ニ贖罪教理ノ説明ハ惟リ基督教會ノ爲メタルノミナラズ基督教徒各自ニ取リテ尤モ必要ナルモノナリトス

キリスト教ハ現今實ニ恐ル可キ危險ニ遭遇セリトハキリスト教家モ非キリスト教家モ共ニ均シク配慮スル所ナリトス然レモ吾人ハ斯教ノ實力銷沈シ榮光ノ正ニ消失スベキ兆候トシテハ之ヲ見ルヲ得ザルナリ夫レキリスト教會^ノ劫建後現今ニ至ル既ニ十八世紀ヲ經過シ又而シテ今ヤ斯教ノ勢力ハ亞細亞ノ文明國民中ニモ漸次擴張セラレツ、アリ又中央及南部亞弗利加ノ野蠻人民モ逐日文化ノ域ニ入ラントセ

リ教育道德及眞宗教ハ太平洋上ノ諸島ニアル民族ニモ與エラレツ、アリ而シテ多クノ反抗アルニモ拘ハラズ歐米諸國民中ニ於テ依然大勢力ヲ有セリ今ヤ基督教ハキリスト教國一般ノ信仰及ヒ^{イヒツク}遺傳語ノ中ニ確トシテ扶植セラレキ多クノ信徒ハ心ニ深ク斯教ヲ確守シ深キ尊敬ヲモテ熱切ニ之ニ奉事セリ何ヲモテ之ヲ證スルカ吾人ハ之ヲ證スルニ斯教ガ到ル處或ハ嫌疑セラレ或ハ激烈ナル憤怒ニ會ヒ或ハ輕侮賤辱其他^{アラユル}當有反對論ヲモテ攻撃セラレ仇敵ノ間斷ナキ咒詛ノ中ニ斯教撲滅ヲ努ムルヲモテセントス

基督教會ノ歴史ニヨレハ今ヲ溯ルコト一千前歐洲諸國ニ於ケルキリスト教役者等ハ政治上ノ權威ヲ有シタリシモ今ヤ幸ニシテ之ヲ有セス當時ニアリテハ學術及ヒ教育ノ事業ハ一ニ羅馬教會ノ學者ノ掌裡ニ歸シヌ往昔^ノ羅馬帝都ヲモテ世界ノ中心トセシ政治的遺傳ト主義トハ又等シク羅馬教會ノ聖職者等ノ錦囊ナリキ渠等ハ或ハ知識或ハ勇氣或ハ立法學或ハ普通上ノ知識及ビ完全ナル組織或ハ神ノ權威ノ代

表者或ハ永久ナル神ノ惠憫ヲ來タス可キ唯一ノ仲保ナリテフ事ヲモテ剛健粗朴無識ニシテ唯偶像ニ拜跪スル底ノ民族ヲ支配ナシタリキ但シ此等ノ民族ハ第四世紀ニ於テ恰モ洗水ノ氾濫スルガ如ク羅馬帝國ニ侵入セリ而シテ彼等ハ第八世紀ニ至リ悉ク羅馬教ニ服從セリ爾來歐洲諸國ニ於ケル帝王ノ權力ト財權トハ幾ンド羅馬教會掌裡ノモノナリキ北海ヨリ地中海ニ至ル歐洲諸國ニ散點スル宏壯ナル會堂及教役者ノ邸宅ハ高價ナル大理石美麗ナル彫刻物及ヒ金銀珠寶ヲモテ裝飾セラレ巍然トシテ聳立セリ當時ニアリテハ諸國ノ宰相及ヒ全權公使等ハ多クハ羅馬教會ノ監督等ナリキ有力ナル聖職者ハ赫々タル貴族ヲシテ光ナカラシメ或ハ其野心ヲ挫折セシムルヲ得タリキ人或ハ以上ノ時代ヲモテ信仰ノ時代ト稱セリ然レモ此ル信仰ハ或ハ神ノ語ヲ畏ミ受ケ或ハ神ガ罪ヲ赦ルシ玉フ事或ハ艱難ニ際シテ神ノ慰籍ヲ受クル事或ハ約束ニヨリテ死ノ觀念ヲ超脱シテ無窮ノ榮光ヲ望ム底ノ信仰ニハアラザルナリ當時ノ信徒ハ主キリストニ頼ラズシテ寧ロ

其教職ニ依賴セリ神ノ權能ト慈惠ニヨレル全キ喜樂ト安心トヲ享クル事ヲセズシテ寧ロ羅馬教會ノ壯大ト其勢力トヲ驚キ且ツ畏ミヌ而シテ教會ノ主權者等ハ漸クニシテ奢侈孱弱ニ陥リ正ニ腐敗ヲ極メントスルニ當リ文化セル國民ノ能力ハ徐々其頭ヲ擡ゲ漸ク其發達ヲ遂ゲヌ而シテ茲ニ信仰ノ時代モ亦終ヲ告ゲキ吾人ハ歴史上多々ノ原因ニヨリテ宗教改革ト稱セラル、モノ、起リタルヲ見ヌ古昔ノ哲學者詩人雄辨家ノ著述ハ活版機械ニ由テ廣ク世間ニ頒布サレヌ而シテ教育ノ實權ハ惟リ教職ノ手中ニアルノミナラズ今ヤ分タレテ普通諸人ノ手中ニ落ツルニ至リキ皇帝及ヒ政治家ハ基督教會ノ教職ヨリ政治上ノ主義方針ヲ學ビ而シテ自ラ支配セント決神スルニ至リ而シテ彼等ハ羅馬法王ヨリ派遣セラレタル聖職ノ干涉ヲ拒絕スルニ至リキ斯クシテ羅馬教會ト各國政府トノ間ニハ漸々巨淵ヲ生ジ諸國皆默然トシテ羅馬教會ノ操縦ニ任ズルヲ非理ナリトシテ認メヌ今ヤ歐洲ノ諸國多クハ羅馬教會ノ羈絆ヲ脱シテ自由國トハナリヌ蓋シ往時宗教改

革前ニアリテハ基督教國ハロマ教會教職ノ權威ニ委任シテ怪マザリシモ曾テキリストノ權威ニハ毫末モ委任スル事ヲセザリキ換言スレバ彼等ノ目的ハキリストニアラズシテ寧ロ教會ニ存シタリキ宗教改革前ニアリテロマ教會ノ方針タルヤ努メテ無宗教ト不信仰トヲ抑壓スルニアリキ然レモ事ノ實際ハ甚ダ然ラズシテ多クハ斯教ニ悖戾スル底ノ心事ヲ懷キ強烈ナル慾情ニ縱セ賤陋ナル不徳ノ行爲ヲナシテ願ミズ靦然トシテ偶像崇拜ヲナシヌ改革後人心抑壓ノ手段ハ無端毀タレヌ故ニ非キリスト教的ノ思想ハ自由ニ議論文章ノ上ニ發表スルヲ得タリキ改革前ニアリテハロマ教會ハ不可犯的權威ヲモテ歐洲諸國ヲ支配シタリキ今ヤ少數ナル國民ノ主キリストノ權威ニ悖戾スルモノアリト雖モ多クノ國民ハ其信倍々活潑々ナルモノアリ然レモ現今ニアリテハ非キリスト教家ハ其懷疑不信ノ箇所ヲ公然表白スルノミナラズ然モ且ツ之ヲ能辨ニ辨論セリキ彼等ハ古代文學ト現時ノ新學術ヲモテ其懷疑不信ヲ擴張ス彼等ガ主キリストノ特殊ナル天啓及

ビ命令ニ對スル反抗心ハ頗ブル深刻ニシテ且ツ非讓歩的ノモノナリキ然レモ信不信ノ其衝突セル現今ノ状態ハ古昔ニ於ケルヨリモ寧ロ佳ナルモノナリトス信仰ノ方面ニアリテハ此世ノ幫助ハ便宜取リ去ラレタリ故ニ當時ニアリテハ信仰ノ凱歌ハ眞個純粹ニシテ唯主キリストノ聖語ト聖靈ノ冥助ニ由リテノミナリトス基督教會ガ世ノ不信仰ト劇闘スルニ方リテハ須ク堅忍豪膽些トノ間斷ナク熱心忠實ニ諸テノ手段ヲ廻ラシテ之レガ攻戰ノ方策ヲ講ゼザル可ラズ即チ學藝、教育若クハ論理能辨ノ諸學ヲモテ主キリストノ爲ニ奮闘セザルベカラザルナリ然レモキリスト教會ノ眞戰闘力ハ惟ダ道德ト靈トノミ是レナリ之ニ由リ神ノ王國ハ凡テノ時代ヲ通シテ不信仰ニ打チ勝チヌキリスト教徒ハ單リ斯教ノ權威ヲ教示スルノミナラズ須ク熱心忠實ニ之ヲ宣傳シ聽者ヲシテ自然ニ其權威ヲ悟了セシメザルベカラズ故ニ吾人ハ這般ノ教説ニ由テ聽者ヲシテ心中自ラ自家ノ罪愆ヲ知覺セシメ隨テ其罪愆ニ對スル神ノ震怒ヲ惶ミ恐レ其慈愛ニ縋ガリテ赦罪ヲ

宛ムルノ希望ヲ生ゼシム可キナリ吾人ハ凡ノ人ヲシテ人ハ神ナル父ト血族ノ親アルモノナルヲ了悟セシメ之レガ證據ヲ明白ナラシメザル可ラズ然ラバ主キリストノ御聲ヲ聞ケルモノ教役者諄々ノ言ヲ俟ズシテ直ニ莊嚴ナル上帝ノ神威ニ接シ自家ヲ放テ之ニ委任スルニ至ル可キナリ主キリストハ自ラ義ニ在マシナガラ不義ナル人類ヲシテ上帝ニ復歸セシメンガ爲ニ架上ノ死ヲ遂ゲ玉ヒシテ事實ヲ信ジテ凡ノ人心ハ其希望ヲ満足セシメラレキ斯クシテ神ノ慈愛ト其柔和トヲ顯現セル主キリストハ能ク知ラレタリキ此レ働キヲナサシメンガ爲メニハ聖靈常ニ神ノ役者ト俱ニ在マシテ之ヲ指導シ之ヲ祐助シ給フナリ蓋シ聖靈ハ不可思議ナル力ヲ現ハシテ人心ノ疑惑ト絶對的ニ神ノ眞理ヲ否定スル謬妄ナル思想トヲ剖析シ玉フナリ若夫レ人心ノ深秘ヲ開テ之ヲ見バ神ノ眞理ト相冥合スル所決シテ少カラザル可シ視ヨ人心ハ神ガ世界ノ終末ニ至リ善ヲ賞シ惡ヲ罰シ其應酬ヲ正フシ玉フ事ヲ感得スルニアラザルカ人ハ到底其心裡ヨリ神威ヲ惶ムノ

情ヲ取り除クヲ能ハズ偶々神ニ近カンヲ欲シテ氣ヲ焦ツトハ雖モ其及ビ難キニヨリテ曾テ心ヲ安ンズル事ナシ人ノ神ヲ知ルヲナカラシカ現世ノ快樂ハ其何レニモセヨ無聊寂莫到底哀觀ヲ脱カレザルナリ而シテ神ハ人類ヲ超越セルモノトハ思ヒナガラ尙ホ人類ヲ棄テ置キ給ハズ幸福ヲ與エンガ爲ニ人類ニ近寄り玉フベシトノ希望ハ薄弱ナリトハ雖モ尙ホ縷々トシテ其心中ニ絶エザルモノアルナリ以上ハ是レ人類道德的生命ノ中心ニシテ且ツ不朽ノ元素ナリ主キリストノ贖罪ニ由リテ指示セラレタル教理ト法律トハ之レト直接ノ關係ヲ有ス故ニ縱使人類ノ知識的狀態及ビ社會的狀態ハ其如何ナルニモ拘ラズ贖罪ノ事實ハ凡ノ時代ヲ通シテ人ノ主要ナル必要ヲ満足セシム故ニ吾人ハ神ノ公義ト仁愛トハ人ノ罪ト悲ト疑トヲ除キ給フニアルヲ信シ須ラク主キリストノ死ノ力ニ頼ラザルベカラズ而シテ苟モ斯教ヲ宣傳セントスルニ方リテハ何人ト雖モ先ツ自家ノ心中ニ一新靈ヲ受ケザルベカラズ凡ノ時代ニ於テキリスト教會ノ熱心ナル事

業ハ主キリストノ十字架ニヨリテナサレタリキ而シテキリスト教會ノ靈力ノ標徴ト凱旋ノ預言ハ常ニ十字架ニ在リ
吾人ハ本書ニ於テ主キリストノ死ハ罪ヲ贖フ所以ノモノナルヲ證セ
ンガ爲ニ或ハ充分ナル力ヲ添フルヲ能ハザランヲ憾ム或ハ神ノ聖性
人類ノ生涯及ビ心靈的宇宙法ト贖罪ノ關係トヲ明白ニ指示スル能ハ
ザランヲ憾ム然レモ若シ本書ノ讀者ニシテ主キリストノ犠牲ノ奧義
ト其榮光ニツキ一層深嚴ナル思想ト尊敬トヲ懷クニ至ルヲアランカ
吾人ガ本書述作ノ勞亦酬ヒタリト謂ツ可シ

贖罪論

主耶蘇基督贖罪論

第二章 贖罪ノ事實ト主耶蘇基督ノ歴史トノ

關係

全章所陳ノ贖罪ノ事實及ヒソノ教理論ノ基礎ハ主イエスキリストハ神カ肉體ヲ受ケ人性ヲ取リテ人間ニ顯現ハレ給ヒシモノナリテフ點ナリ而シテソノ人間ニ神ヲ顯現ハシ給フタル方法ハ舊約時代ノ預言者及新約時代ノ使徒カ神ヲ彰表ハシタルモノト異レリ例之出埃及記三十三章十一節ニ曰ク「人が其友にもいふ如くにエホバモーセと顔を合せてものいひ給ふ」ト約翰傳十二章四十一、二節ニ曰ク「預言者イザヤは實に主の榮光を視き」トアリ聖パウロハ加拉太書一章十二節ニ於テ其宣傳シタル福音ハ之ヲ人ヨリ受ケタルニアラサルヲ示シテ曰ク「蓋我之を人より受ず亦教られず惟イエスキリストの默示によりて受たればなり」ト聖約翰ハ其第一書一章二節ニ於テ「この生命既に顯は

れたれば我儕之れを見て證をなす即ちもと父と偕にありし者にて我儕に顯れたる永遠き所の此生命を爾曹に傳ふト言ヒ自己及ヒ他ノ使徒等ノ職務ヲ告示シキ職務トハ何ゾ他ナシ默示ニ由テ受ケタルヲ他人ニ告知スルヲ是ナリ由是觀之彼等ノ言フ所ハ皆其見聞ニ係ル所ニシテ唯ダ之ヲ言傳セルニ過ギザル也キリストニ於テハ則チ然ラス彼ハ親自ラ其教ノ本源ニテアリキ希伯來書記者ハ「キリストは神の榮にして亦た光輝なり其性質は神にして亦た神の權能なり」ト云ヘリキ約翰傳十四章ニ見エタル「ビリボガキリストニ對ヒテ主よ我儕に父なる神を示し給へ然ば足れり」ト云ヘリシ時「イエス彼ニ曰給ヒケルハ我かく久く爾曹と偕に在りしに未だ我を識らざるか我を見し者は父なる神を見しかり何ぞ父なる神を我に示せと云ふや」ト以上是等ノ點ヨリシテ觀察シ來レハ主ノ使徒等モ我儕ト等シク人性ノ弱キヲ稟ケ亦タ屢々失誤ニ陥リタルノ蹤明ニシテ竟ニ彼等モ亦タ我儕ト共ニ罪アル人類タルヲ免カル、ト能ハサリキ然レモ幸ニ上帝ノ光寵彼等ノ上

ニ在ルカ故ニ彼等ハ其榮光ニ接シ深ク之ヲ心地ニ留メ其ノ神ヨリ教エラレシ事及ヒ其耳聞目睹ノ事舉ゲテ之ヲ世人ニ傳へ又書冊ニ筆シテ之レヲ後世ニ傳フ是ニ於テカ眞正ナル主ノ教訓ハ之レヲ使徒等ノ書中ニ發見スルヲ得ル也左レバキリストノ眞正ナル教訓ナルモノハ神カ使徒等ヲ使人トナシ其ノ言ヲ以テ教エ玉フタルモノナレバ敢テ預言使徒等ノ行爲又ハ其斷エサル勤勞モ甲斐アル明友ヲ得テハ喜ヒ執拗キ仇敵ノ爲ニ窘迫メラレテハ哀キ叫聲ヲ舉ケシガ如キ悲喜憂歡交ニ來リ紛緒綜麻ヲ斷チタランカ如キ榮譽アル彼等ノ生涯モ彼等ガ宣傳エタル神ノ默示ニ就テハ全ク必然ナラザル也然レモ翻テキリストニ就キテ之レヲ思フニ主ガ曾テ閱歷シ給ヘル喜ヒノ事モ悲ミノ事モ悉ク是レ主ノ教訓ヲ實際ニ顯彰スル所以ニシテ事最モ重要ニ屬スルヲ知ルナリ何ヲ以テ主ノ行爲ハ總テノ人類ニ相關スル所アルカ曰クキリストハ其行爲ヲ以テ吾人人類ニ明カニ神ノ性質ノ如何ヲ解示シ給ヒキ是レ尤モ深ク人類ニ關係ヲ有スル所以ナ

リ
神ガ人類ヲ憐憫ミ給フノ深キハ舊約聖書ニ記サレタルニ由テ明ラカ
ナリ而シテ此書ヤ則チ直チニ神ノ言ト云フヲ得可ケレハ主カ教エ給
ヒシ言教ハ舊約ノ言教ヨリモ優リタリト云フヲ得ンヤ舊約ノ言教ト
主ノ言教ト等ク是レ神ノ言教ナリ其間豈ニ軒輕スルヲ容レンヤ則チ
言ヲ換ユレバ是レ聖靈ノ言ナルノミ已ニ言教ニ於テ其異ヲ見ズ然モ
キリストノ行爲ハ吾人ヲシテ一層明白ニ神ノ慈愛ヲ悟ルヲ得シム
主ハ確カニ其行爲ヲ以テ其言フ所ヲ實現セシメ給ヒキ之ヲ例スルニ
彼ノ癩病患者ガキリストノ許ニ來リ其病ノ癒サレンヲ乞ヒシニ當
リテヤ主ハ眞ニ其手ヲ伸ベテ彼ガ上ニ按キ开ヲ癒ヤシ給ヒキ此ハ三
福音書ノ共ニ記載スル所ノ一記事ナリ試ニ首ヲ回ラシテ當時ヲ想ヒ
見ヨ世間並ノ交際ヲ斷タレタル憐ムヘキ癩病患者ニハ親族ノ誰彼ハ
言フマデモナク家ノ者サヘ手ヲ觸ルサヘ厭ヒシニハアラザルカ嗚呼
何ゾ無情ノ極ミナル然ルヲ主ハ更ニ之レヲ厭フノ氣色モナク親ヲ病

者ノ傍ニ進ミ行キテ懇ニ其手ヲ按キテ之レヲ癒シ給ヒキ之レヲ見
モノ誰レカ其慈悲ノ洪大ヲ仰ガサル者アラシヤ尙一例ヲ舉ゲンニ主
ノ最初ノ知己ナルバプテスマノヨハネガ無殘ノ最期ヲ遂ケシヲ聞給
ヒテハ哀悲痛哭之レカ爲ニ弟子ト偕ニ曠野ニ退キテ胸中ノ悲懷ヲ遣
リ給ヒキ此クテ後大勢ノ者共主ノ行方ヲ探シテ主ノ許ニ群ガリ集ヒ
シカバ主ハ敢テ之ヲ避クルヲセズ牧者ナキ羊ノ如ク哀レニ思シテ
彼等ノ中ナル病ノ者ヲ療シ給ヒキ馬太ハ之レヲ其第十四章十四節ニ
記シテ「イエス出て多くの人を見て之を憫み其病者を醫せり」ト云ヒキ
斯クノ如ク凡テ人世ノ艱難ニ遭遇スルニ當リイエスハ之ニ同情ヲ表
シ給ヒキ尙一例ハ路可七章十一節以下十五節ニ記サレタルモノニシ
テ此ハ「ナイン町ノ近傍ニテアリシ事ナルガ主イエスト一面ノ識ナキ
寡婦ガ一人ノ愛子ニ先ダ、レ深キ歎キニ沈ミテ世ヲ果敢ナクモ思ヒ
ナシ力ナク野邊ノ送リヲ營マントテ蕭々トノ櫃ヲ擁シテ行ク途上端
ナクモ主ハ之レニ會シテ哀ヲ催フシ櫃ニ手ヲ按ケテ之レヲ甦ラセ給

ヒタリシガ十五節ニアル「イエス之れを其母に予せり」ハ以テイエスキ
リストノ情愛ノ如何ニ宏大ナルカヲ知ルニ足ルベシ然リ尙一層ノ體
恤ト仁愛ヲ表給ヒタルハラザロノ死及ヒ其甦ノ話ナルガ主ハ曩キニ
ガリリヲ去リ給ヒシ後其ノ賣タサレ十字架ニ釘ケラレ給フノ時迄エ
ルサルムノ近地ニ滞在シ給ヒタリシガ主ハ自己ノ正ニ直チニ受クベ
キ困難ヲ明知シ居給ヒキ然ルニ主ハ其來ルベキ困難ニハ頓着シ給ハ
ズマリアノ悲哀ト哭泣及ビ彼ト共ニ來リシユダヤ人ノ泣聲ヲ聞見シ
「其心を働めしめ身振ひたり」約一〇三三而シテマリア及其友ハ墓地
マデ共ニ來ランコトヲイエスニ乞ヒシカバ「イエス涕を流したまひり」三
五茲ニ主ハ其神タル權能ヲ以テラザロヲ甦ラシメント決意給ヒキ實
ニ親友ノ悲哀ハイエスノ心ヲ刺激シタリ實ニ彼ハ體恤ノ極ミ涕ヲ流
シ給ヒキ而シテ主イエスノ體恤ハ獨リマリア及ヒ其友ニ對シテノミ
ナラス多クノ人ノ悲哀即チ寂然タル未亡者ノ万万シカモキリストヲ
知ラズマリアノ信仰ヲ有セス慰メ無ク在ルモノ、困難ヲ思ヒ遣リテ

キリストハ涕ヲ流シ給ヒキ以上四ケノ事實及ヒ之ニ類スル多クノ事實
ヲ考フルニ當リ彼ノ「我を見し者は父を見しなり」テフキリスト自身ヲ
指示スルノ靈語ニツキキリストノ聖跡ハ神ノ慈愛ニツキ舊約全書ヨ
リモ一層深キ感ヲ起サシムルモノナリ例之詩篇百三篇十三、四節ニ曰
ク「エホバ即ち神の已を畏るゝものを憫み給ふことは父が其子を憫む
が如しエホドは我儕の造られし狀を知り我儕の塵なることを念ひ給
へばなり」ト是實ニ味フ可キノ言ニアラズヤ而シテ此詩ノ言中神ノ體
恤ノ如何ハ歴然トシテ見得ラル、ニアラズヤ試ニ此言ヲ挈ツテ之レ
ヲキリストノ行爲ニ相對セバ其間少シノ差違ナク主ハ其言ヲ所悉ク
之レヲ身ニ實踐シ給ヒシヲ見ン故ニ主ノ行爲ハ直ニ是レ眞正ノ教ヲ
顯ハスモノナリト云フ可キ也

贖罪ノ教理及ヒ主イエスキリストノ神タルコトヲ拒ム輩モ尙ホ主ハ凡
テ既往ノ師ヨリモ一層能ク神ノ限リナキ慈愛ヲ現ハス者ナルコトヲ承
認スルガ主ガ此世ニ來リ給フタル結果ハ罪人が熱心ニ神ノ憐憫ニ頼

リ之ヲ信スルヲナリ而シテ此ハ主ノ言ニ由テノミナラス又其行爲ニ由テナリトス神ガ深ク罪アル人類ヲ憫ミ給フハ舊約全書ニ處々記サレタリ尼希米亞記九章十七節ニ「汝は罪を赦るす神にして恩恵なり憐憫なり怒ること遅く慈悲深くましまして彼らを棄て給はざりき」トアルガ如キハ子ヘミヤガ當代ノ人ニ對ヒテ神ノ聖旨ノ如何ヲ知ラシメタル者ナリトス又約拿書四章二節ニ「开は我汝は矜恤ある神憐憫あり怒ること遅く慈悲深くして災禍を悔たまふものなりと知ばなり」トヨナハ神ノ慈惠ノ優渥ヲ信スルカ故ニ此クハ云ヒヌ又以賽亞書一章十八節ニ曰ク「エホバ即ち神云ひたまはく率我儕どもに論らはん汝等の罪は緋の如くなるも雲の如く白くなり紅の如く赤くとも羊の毛の如くならん」ト全五十五章七節ニ曰ク「悪きものはその途を棄て邪僻ヨコシヤなる人はその思念をすてエホバ即ち神に反れさらば憐憫をばせしたまはん我儕の神に返れ豊に赦を與へたまはん」ト是皆神ガ人ノ罪ヲ寛ニシ且ツ之レヲ赦ルシ給フノ惇キヲ言表ハセルモノニアラズヤ此點

ニツキ吾人ハキリストノ言ヨリモ寧ロ以上ノ句ヲ引用スルモノナリ尙之レヲキリストノ言ニ徴センカ路可傳十五章ニ掲ケラレタル失ヒシ羊若クハ紛失セシ金ノ譬喩ノ如キ或ハ放蕩息子ノ物語ノ如キ何レカ是レ神ノ慈惠ヲ顯ハサルモノゾ吾人カ前ニ引ケル舊約ノ句節ト相符フテ違フコトナキニアラスヤ但此等譬喩タル彼ノバリサイ人ガ非難シタルキリストノ行爲ヲ説明スル爲ニ語ラレタルモノナリトス偕獨リ主ノ言教ニ於テ然ルノミアラス其行爲ハ確カニ神ノ聖旨ヲ表顯セラレタルモノナルコト何人モ之レヲ知ルニ難カラジ想ヒ見ヨ主ハ神ノ聖子天地万有ノ造リ主也天下何物ノ光榮カ之レニ如カン而シテ其性ノ聖且義ナル豊ニ濁世ノ者ト能ク相容ル、コトヲ得可キモノナランヤ然レモ主ハ自ラ謙虛ニシテ敢テ身ヲ下タシテ一般ユダヤノ人々ヨリハ與ニ齒ス可ラズトテ擯斥セラレタル所謂稅吏罪アル徒ト交ハリ寛ギテ互ニ語り膝ヲ交ヘテ飯食ノ臺ヲ偕ニシ給ヒキ柔和ニシテ温キ心ハ諄々トシテ道ヲ彼等ノ間ニ説キテ倦ムコトヲ知ラズ彼等ヲシ

テ罪ヲステ、永遠ノ生命ニ與ラセント且暮思ヒテ勞シ若シ飄然トシテ悔改シ決然トシテ道ニ志スモノニハ慰藉ヲ與ヘ誘獎ノ手ヲ添ヘ更ニ彼カ前途ニ掛念シ給フ、人ノ前ニ三度迄主ヲ知ラズト言ヒ張リシベテロニ對ヒ無言ニシテ溢レントスル慈眼ヲ注ギ給ヒシ時彼ハ倏チニシテ其心ニ反リヌ其他主ト偕ニ十字架ニ釘セラレタル大罪人モ其罪ヲ悔ヒテ赤子ノ心ニ立チ返ヘルニ及ビテハ主ハ赦罪ヲ宣言シテ今日我トトモニ樂園ニアルベシト宣ヒキ主ハ世界人類ノ罪ノ赦ノ爲メニ十字架ノ苦キ杯ヲ嘗メ給ヒテ神ノ洪大ナル慈惠ヲ表顯ハシ給ヒキ是レ預言者使徒等ノ爲シ能ハザリシ所ナリトス

神ノ至仁至愛ハキリストニ就キテ既ニ業ニ之レヲ知ルヲ得テ餘アリ而シテ主ノ一生涯ノ歴史ハソノ「我を見し者は父を見しなり」テフ聖語ニ適合セリ吾人ハ同時ニ尙ホ一ノ記スヘキヲ存スルヲ見ルソハ主ガ吾人ニ命ジ給ヒシ誠命ノ事即チ是ナリ主ノ誠命トハ何ゾ其如何ヲ知ラント欲セバ聖書ニ記サレタル主ノ言行ニ就テ之レヲ察セザル

可ラズ而シテ單ニキリストノ言教ノミニ就テ考フレバ其教ノ半ヲ失フベシ彼自身ハ實ニ人間ニ對シテ眞光生命ナリ即チキリスト自身ハ取モ直サズ神ノ語ナリトス人少シク思ヒテ聖書ニ潜メバ釋然トノ解スル所アラン是故ヲモテ吾人ハ聖書中特ニ四福音ヲ以テ光輝アル至要ナル記録トス聖パウロト云ヒ聖ヨハネト云ヒ聖ペテロト云ヒ彼等ガ其書ニ記シタル所ノモノ何レカ四福音書ニ記サレタル主ノ言教ト性行トニ基セザルモノアランヤ例合バ聖パウロハ其書ニ於テクリスタアン信仰ニツキ充分ニ説明シタルガ四福音書中ニハ斯ル説明ナシ而シテ四福音書中ニ在ルキリストノ力ノ憐憫ト權威ハ共ニ人間ノ心中ニ信仰ヲ勃起セシムルモノナリ若シ四福音書ヨリ主ガ自己ヲ信スヘキヲ宣フタル語句ヲ除去スルモ尙ホ人間ハ主ノ行爲ニ由テ彼ヲ信スヘキヲ知リ得ベシ而シテ聖パウロノ書中信仰ニ就テノ教ハ全ク此教ニ適合セルモノナリ且パウロハ屢救拯ヲ受クル爲ニハ主イエスキリストヲ信スヘキヲ宣傳シキ若シ四福音ヲ讀ミテ主キリスト

ノ行爲ノミヲ見又ソノ神ノ子ナルコトヲ知リタラン人ハ救ヒヲ受クル爲ニハ主キリストヲ信スヘシト云ハン彼ノ『我を信せよ』テフ聖語ヲ聞クノ前ニテモ彼ノ行爲ヲ見ルコトニ由リ罪ノ赦ヲ受ケ永遠ノ生命ノ賜物ヲ受クル爲ニ全心ヲ捧ゲテ以テ彼ニ頼ルヘキモノナリトス聖ヨハ子ガ神ハ愛也トノ確言ノ如キモ之レヲキリストノ言教中ニ求ムルモキリスト自ラ我ハ愛也ト宣ヘル如キ成語ハ竟ニ發見スルヲ得サルヘシ然レモ主ノ生涯ニ於ケル千行万爲ノ貫穿セル一條ノ金糸ハ確カニ愛ノ一字ニ止マリキ即チ此愛ヤ發シテハ慈善トナリ忍耐トナルヨハ子ハ三年ノ日月主ト苦樂ヲ偕ニセルモノ彼深ク主ノ平生ニ發明スル所アルガ主ノ一身ニ表顯セル高貴ナル性情ヲ捕ヘテ直チニ彼ハ上天ノ性情ヲ揣摩シテ神ハ愛ナリトゾ叫ビ出デニキキリストガ人類ヲ贖ヒ給フコトハ實ニ其言教ニ於テ顯ハサレタルノミナラズ其言教ト共ニ其性行ノ内ニ於テ最モ多ク顯ハサレタリキ實ニキリスト降世主一ノ目的ハ人類ヲ罪界ヨリ救拯スルノ事ナリキ蓋シ福音ノ世ニ存在ス

ル所以ノモノ人類ノ罪過ヲ贖フノ道ヲ傳ルカ爲メナランヤ四福音ニ録サレタルキリストノ言教ハ唯ターニ斯道ノ爲メノミ然レモ四福音ニ録サレタルキリストノ言教ノミナランニハ之レヲ以テ吾人ノ信仰ト行爲トノ完全ナル模範ト云フヲ得ザルヘシ吾人ハ主ノ言教ト共ニ其生涯ノ行動及ビ主ノ使徒等ガ靈牖ノ下ニ書キ記シタル教訓トヲ合セテ始メテ吾人ノ完全ナル模範タルヲ得ベシ主ノ言教ト其聖爲トハ是レ双輪兩翼ニシテ遂ニ偏廢ス可カラザルモノナリ然レドモ或ハ問フテ云ハン馬太傳五章ヨリ七章ニ亘ルノ山上垂訓中ニハ何が故ニ主キリストヲ信ズベキノ義ヲ説カザリシヤト此ハ餘リ困難ナル疑問ニモアラザル可シ如何トナレバ主ガ山上ニテ垂レ給ヒシ教訓ナルモノハ既ニ神ガ舊約全書ヲ以テ定メ玉ヒシ其贖罪犠牲ナル者ヲ信シタル者ノ爲メニ説カレタルモノニシテ之ヲ辨^{わか}ヘズシテ猥リニ其間ニ是非ヲ挿ム可ケンヤサレバ主ハユダヤノ宰ニコデモニ向テハ人ノ新ニ生ス可キ事ニツキ又神ノ子ヲ信ズベキ事ニツキ誨ヘ給

ヒシニアラズヤ及葡萄ノ樹ト其枝トノ譬ヲ以テ其弟子等トノ關係ノ甚ダ親シキモノアルヲ説キ給ヒシニアラズヤ主ハ此ノ如ク必要ナル教訓モ信徒ノ爲メニ説カレタル山上垂訓ノ中ニハ重テ之レヲ説クノ必要ヲ見出シ給ハザリシナランカ』

主ハ實ニ此世ノ爲メニ生誕シ且ツ甦リ給ヒキ此最大事實ニシテ福音ヲフモノ、成立スル根元也別言スレバ主キリスト自身ハ即チ完全ナル福音ナリキ豈ニ主ガ別ニ一個ノ福音ナルモノヲ掣エテ之レヲ説カシガ爲メニ生誕セラレシモノナランヤ既ニキリストニヨリテ福音ハ成リヌ信徒ハ之レニヨリテ其行クベキノ道ヲ學ビ其聖キ生涯ヲ標準トシテ歩ムベキヲ教ヘラル然モ此ニ一ノ注意スベキハ主ハ人ヲソ自ラヲ信スルコトヲ厚カラシメンガ爲メ其言教ヨリモ寧ロ其行爲ニ重キヲ置キ給ヒキ而シテ其行爲モ最モ力アル教訓ナリシナリ詩篇十九篇一節ヨリ四節ニ曰ク「もろもろの天は神のゑいくわらを現し穹蒼はるの手のわざをしめすこの日言葉をかの日につたぬこのよ知識をかの

よにをくる語らず言はずその聲きこゆるにそのひびきは全地にあまねくその言葉は地のはてにまでおよぶ神はかしこに惟渥を日のためにまふけたまはり」下如此キリストハ其聖爲ニ於テ言教ノ外別ニ贖罪ノ眞義ヲ表明シ給ヒキ凡ソ壯麗ナル建築物若シクハ名工ノ手ニ成リシ稀世ノ畫圖ノ如キ或ハ瀟腸錦心ヨリ詠ミ出レタル詠歌ノ如キ縱令人アリテ一々好所ヲ指摘シテ説明ヲ加フルニアラズトモ誰ガ一見直チニ其佳作ナルヲ知ラザルモノアラシヤ之レヲ偉人ノ跡ニツイテ視ルモ亦然リ彼ノ英雄豪傑ノ士ガ一朝事ニ當リテ其勇氣ヲ百倍シ不屈ノ精神ト不撓ノ耐忍トヲ倍々發揮シ敢テ其身ヲ犠牲トスルヲ辭セザルガ如キ高尚偉大ノ芝罈ニ接シテハ誰ガ欽仰ノ念ヲ禁ズルモノアラシヤ主ハ其生前曾テ自家ノ行爲ヲ説明スルガ如キ一語ヲモ出シ給ハザリキ然レ其高潔ナル行爲ハ人ニ隠ル、一ナクシテ歴然トシテ世ノ義人ノ眼ニ映シヌ彼ノ使徒等ガ聖靈ノ默示ニヨリ著レタル新約書中ノ書ナル者ニ曰ク基督教ハキリストノ行爲ト功績トヲ基礎トシテ

成立セシ一大宗教ナリト主ハ實ニ神ノ永遠キ道ニシテ即チ「神の榮の光輝」その眞像なりき主ノ行爲ト其死トハ尤モ深長ナル意味ヲ有ス主ノ金口ヨリ吐キ出サレタル語ニハ神ノ聖旨ヲ顯ハス深キ教ノ含レアリキ然レトモ主ノ言教ヲ以テ全ク神ヲ顯シ得タリトスルハ抑モ早計ニシテ神ノ性質ハ主ノ言教ト其行爲ニ由リテ完全ニ顯ハサレタリキ以テ上ノ諸點ヨリ考察シ來レバ彼ノ豫言者及ビ使徒等ノ言ハ悉ク皆神ノ默示ヲ蒙リテ記サレタルモノタルヤ明ナリ主ノ救拯ニツキ頗ル重要ナルモノトス然レモ彼等ガ終生孜々トシテ道ノ爲メニ盡シタル万種ノ行爲ノ如キハ人類ノ救拯ニツキ聊モ相關スル所ナキ固ヨリ言フヲ俟タザルナリキリストハ其言教ニ於テノミナラズ其聖爲ニ於テ神ノ聖旨ヲ顯彰シ給ヒシヲ以テ吾人ハキリストノ言行鋪タル四福音書ヲ研究スルコトノ切要ヲ見ル如何トナレバ吾人ガ开ヲ研究シ行ク中ニハ主ノ生涯ノ行爲ヲ知ルト共ニ又主ガ人類ノ罪ヲ讀ヒ給フト云フコトノ眞義ヲサエ覺悟スルニ至ル可ケレバナリ

四福音書ハ主ノ一代ノ行事ヲ載セテ頗ル簡明ヲ極ム而シテ此四福音書ヲ通シテ讀ムモノハ每端モ茲ニ一大不思議ニ打タレザルヲ得ズンハキリストガ苦楚ヲ受ケ此クテ後死シ給ヒケル事柄ノ他ノ記事ニ比シテ餘リニ深切ニ記サレタル是レナリ則チ馬太モ馬可モ路加モ約翰モ等シク筆ヲ擲フテ其死ノ狀ヲ委シク書冊ノ上ニ遺シヌ何ゾ夫レ其死ヲ描クニツトメタルヤ試ニ今少シク之ヲ論ゼンカキリスト生誕ノ記事ノ如ク唯馬太ト路加ニヨリ錄サレ而シテ此ニ記者ハ主ガ惡魔ニ試セラル、爲メニ曠野ニ往キ給ヒシノ記事ハ之ヲ委シク筆スルヲヲナセシモ馬可ニ至リテハ之レガ爲メ僅ニ一節ヲ費シタルニ過キザリキ又有名ナル山上ノ垂訓ハ馬可ト約翰ニハ一ツノ錄サル、コトナク特ニ約翰ノ如キハ主ノ山上變貌及ビ聖餐ノ大禮ヲ立テゲツセマテニ苦ヲ受ケ給ヒシ事柄ノ如キハ遂ニ錄スルコトナカリキ四福音書中主ノ教ニ至重ノ關係ヲ有スル甦ニ就テハ唯各一章中ニ簡短ナル記事ノ之レガ爲メニ遺サレタルマデナリキ昇天ノ記事ノ如キハ馬太約翰

ハ之レヲ録セズ馬可ハ唯僅カニ之ヲ筆シ獨リ路可ノミ充分ニ之レヲ記セリ以上ノ諸事實ハ基督教ニ取リテハ重要ナル位置ヲ占ムベキ事柄ナルニモ拘ラズ或事柄ノ如キハ僅ニ唯其一部分ニ記サレタル迄ナリキ然レモ之レニ反シテユダガイエスヲ解タシ主ガ兵卒ノ手ニ捕ハレカヤバノ廳ニヒカレテ不正ノ審判ヲ受ケペテロガ主ヲ知ラズト拒ミ群民等ガ人ヲ殺セシバラバヲ免セト叫ビ方伯ピラトガ不正ノ宣告ヲナシ主ヲ十字架ニ釘ケ罪標ヲ建テシコト及ビ主ガ十字架上ニアリテ從容トシテ死ニ至ルマデ知力體力ノ確乎タリシノ如キ是等ノ記事ハ四福音書ヲ通シテ何レモ細密ニ書キ録サレタリキ何カ故ニ四人ノ記者ハ筆ヲ揃エテ主ノ苦ト其死トヲ此クマデ細カニ録シタルゾ其ハ固ヨリ其苦ト其死トノ寧ロ主ガ一生涯ノ多端ノ行爲ニ比ベテ絶對的至重ナルガ爲メナラザランヤ實ニキリストノ死ハ人類ノ罪過ヲ贖フノ唯一ノ道ナレバナリキリストノ死ニ就キテハ舊新約全書ニ會テ詳ニ記サレタリキ然レトモ彼ノ有名ナルアブラハム・モーセ・アロン及

ビダビデノ如キ功業赫々タル列祖ノ死ヲサエ舊約書ハ之レヲ録スニ頗ル簡短ノ筆ヲ用ヒタリキ其他皆此ノ如キニ過キズ新約書ニ記サレタル使徒等ノ死モ亦決シテ詳細ニ録サレタルニハ非ラズ例令ヘバヤコブガ殺サレタル事柄ノ如キ使徒行傳十二章二節ニ於テ「かつ及をもてヨハ子の兄弟ヤコブを殺せり」ト記サレタルノミ又彼ノステパノノ虐殺事件ニ就テ之レヲ見ルモ記者ハ彼ガ積誠ノ吐露セラレタル長説教ヲ録スルニ謹慎ノ筆ヲ用ヒテ而シテ却テ彼ガ虐殺セラレタル一段ニ至リテハ之レヲ數句ノ内ニ輕叙スルニ止マリキ想フニ當時ユダヤ國著作ノ風トシテ人ノ死ヲ描クコトヲ避クルノ傾キアルコト蓋シ覆フ可ラザルノ事實ナリキ然レモ四人ノ記者ガ等シク筆ヲ染メテキリストノ死ニ關スル事柄ヲ細大洩ラスコトナク書キ記サンコトヲ務メタル所以ノモノ實ニ彼等カ衷心キリストノ死ノ如何ヲ記憶セシメ且ツハユタヤ國人ガ有司等ト謀リテ無殘ニモ「めつしや」ナルキリストヲ弃テ願ミサリシ其非行ヲ知ラシメンガ爲メ之レヲ細叙スルノ必要ヲ有シ

タリキ加之キリスト全ク死ヨリ更生シ給ヘルノ一大事實ヲ証明セン
ガ爲メ力ヲ極メテ其死ヲ録スルコトヲナセルナリ然リ然レモ一層適切
ナル理由ハ左ノ如シ

少シク心ヲ潜メテ四福音書ヲ讀ンニハ曾テ主ガ自己ノ死ニツキテ豫
メ弟子等ニ語り給ヒシコトヲ發見スルヲ得ベシ主ノ死ハ實ニ教義上至
要ノ關係ヲ有ス故ニ主ノ死ニ付此ハ何ニガ爲ニ死シ給ヒシカトノ疑
問ノ明ラカニ鮮釋セラレンガ爲メ之レヲ筆スルニ頗ル意ヲ用ヒタリ
キ今キリストガ其死ニ就キ豫メ告ケ給ヒケル一二例ヲ擧ケンカ彼ノ
バプテスマヨハ子ハ主キリストノ受洗以來常ニ主ハ語りシニ由リ多
分主ノ贖罪ノ目的ヲ知了シ居タリシナラン故ニ彼ハ其弟子ニ主イエ
スキリストヲ指シテ其ノ人類ノ罪科ヲ贖ヒ給フ救世主ナルコトヲ証明
シテ曰ク『世の罪を任ふ神の羔を觀よ』(約一〇二九)ト所謂『世の罪を任ふ
神の羔』トハ是レユダヤ國人ガ神殿ニ詣テ、神ニ謝シテ犯シタル罪ノ
赦ヲ乞ハシガ爲ニ朝夕日毎ニ一頭ノ羊ヲ献ケ特ニ又安息日ニハ朝夕

各二頭ノ羊ヲ献ゲシ故例ヲ引キテ主ハ宛モ羔ノ如ク人ノ罪ノ爲メニ
身代リトシテ立チ給ヒシヲ云フ也是ノ故ヲ以テヨハ子ハイエスヲ觀
テ直ニ彼ヲ『神の羔』ト呼ビタリシナリ

蓋シ神ハキリストナル羔ヲ罪ノ犠牲トシテ吾人人類ニ與ヘ給ヒシノ
ミナラズ抑モ亦キリストガ自ラ献ケラレタルキリストナル犠牲ヲモ
喜ンテ納ケ給ヒキ而シテイエスキリストノ贖罪事業ハ唯タ獨リ當時
ノユダヤ人ニカ、ハルノミニアラズ即チ廣ク全世界人類ノ罪ヲ贖フ
犠牲タルヤ言フヲ俟タザルナリヨハ子ガ『世の罪を任ふ神の羔を觀よ』
ト言ヒケンモ亦宣ナラズヤ

抑モイエスキリストノ贖罪トハ宗教上頗ル重要ノ事ナリトス故ニ主
ハ在世ノ砌屢贖罪ニツキ自ラ語り給ヒヌ加之主ハ又身ヲ以テ贖罪ノ
實ヲ顯ハシ給ヒキ又約翰傳二章十九節ヨリ二十一節ニ記サレタルキ
リストガ傳道ノ初年即チ主ノ傳道生涯ニ於ケル第一逾越節ノ日ニキ
リストハユダヤ人ニ向ヒテ爾曹此殿ヲ毀テ我三日ニシテ之レヲ建シ

ト宜ヒキコレニダヤ人キリストヲ殺ロシ神殿ノ神聖ヲ亡ボストニツケル豫言ナルガ神ハ其宮殿ノ代ハリニ爾來主キリスト及ビ靈ニ由テ彼レト繫カレタルモノ、内ニ住ミ給フ可シ

其後數日ニシテ主ハニコデモニ告ケテ約翰傳三章十四節ニアル如ク「モーゼ野に蛇を擧げし如く人の子も擧げらるべし」ト語り其後主ハカペナウンノ會堂ニテ「我が死するは此世の人の爲めに生命を與ふるが爲めなり」ト(約六〇五—ヨリ五六マデ)説キ給ヒキ然レモ此ハユダヤ人ニ取リテハ信シ難キ言ニ之レヲ聞キシキニ信者サエモ躓キテ主ヲ離ル、ノ悲シキ事ニ至リス馬太傳十六章廿一節ニアル如ク主ハ己ガ苦ヲ受ケテ死ニ就キ第三日甦ル等ノ事ヲ此時ヨリ弟子ニ示シ始メ給ヒキ又主ノ山上變貌ノ際(路九〇三一)「モーゼトエリヤ偕ニ顯ハレテ主ガエルサレムニ於テ死シ給ハン」トニツキ語り合ヒキ翌日主ハ山ヲ降りテ途スガラヨハテ、ペテロ、ヤコブノ三人ニ堅ク口留メシテ主カ死後甦リ給フ迄此ノ見シ事共ヲ語ル勿レト禁シ給ヒキ(可九〇九)之レヨリハ

後ノ事ナリシ主ハ弟子ニ向ヒテ其死ヲ告ケ給ヒキ馬太傳七章廿二三節ニハ「ガリラヤを周流ときイエス彼等に曰けるは人の子人の手ニ解されかつ殺されて第三日に甦るべし」ト弟子之れを聞きて甚だ哀めり」ト記サレタリ又主ハエルサレムニ於テ自己ヲ善牧者ナリト宣給ヒ且其生命ヲ捐ツル事ニツキ三度其生命ヲ捐ツルハ羊ノ爲メナルヲ二度宣給ヒキ即チ「我は善牧者なり善牧者は羔の爲めに命を捐つ」(約一〇一—)「我れ羊の爲めに命を捐ん」(一五)「我再び命を得んが爲めに命を捐つるなり」(二七)ト主ハ三年ノ公生涯ノ終エルサレムニ登リ給ヒシガ彼ハ十二ノ弟子ニ我今死ノ刑罰ヲ受クベシト語り給ヒキ(太二〇〇—一七、一八)「恰モ其途スガラノ事ナリシゼベタイノ子ヤコブトヨハテノ母ハイエスノ許ニ往キテ其二人ノ子ヲ天國ニ於テ一人ハ其右ニ其一人ハ左ニ大臣トナラシメ給ヘト願ヒシ時主ハ彼ニ向ヒテ暗ニ其死ヲ示シ給ヒキ」(太二〇〇—二二)又カンラン山ニ座シテ此世ノ終末ニ就キ語り給ヒシ時モ亦其死ヲ示サレタリ(太二六〇—二)又主ガベタニヤノシモンノ家ニア

リケル時マリアガ臘石ノ器ヨリ香油ヲイエスノ頭ニ注ギシ時モ主ハ是レ我ガ葬ノ爲メニ豫メ爲セルモノナリト語り給ヒキ(可一四〇八)是等ノ諸點ニツキ仔細ニ觀察ヲ下ス時吾人ハ主ノ三年ノ傳道生涯ニ於テ屢々以上所陳ノ死ニ近キタルヲ指示給フタル聖語ハ此不幸ナル事實ニ出會フ爲メニ弟子達ノ心ヲ準備セシメンガ爲ナルノミナラズ主ハ時ニ隨ヒ處ニ隨ヒ死ノ暗黒ガ常ニ其身ヲ蔽フヲ自ラ覺悟シ之レヲ語り給エルヲ知ルニ於テ餘リアリトス而シテ此ノ死ノ暗黒コソハ人ノ罪ヲ贖フヲ顯ハスモノト云フ可也然レモ主ハ如此其死ヲ自ラ覺悟シ給ヒシニモ拘ラズ其死期ノ刻々相迫ルヲ見テ衷心憂愁ノ情ニ堪へ給ハザリキ路加傳十二章五十節ニ「われ受くべきノバプテマスあり其成遂げらるゝ迄は我痛いかばかり乎」ト此ハ主ガ死スルノ前一年バカリノ時語り給ヘルナリ又主ガ十字架ニ釘ケラレ給フノ數日前ニ當リテ四五ノ異邦人相伴フテキリストニ謁センか爲メエルサレムニ來リシガ主ノ弟子ピリポトアンデレーハ彼等ヲ主ニ紹介センガ

爲メ伴フテ主ノ許ニ往キケレバ主ハ彼等ヲ見テ限ナク喜ビ給ヒヌソハ例令何處ノ人ニテモアレ皆主ノ救ニ與ルコトヲ得ルノ好摸範タルベキヲ以テナリ故ニ主ハ約翰傳十二章廿三節ニ彼等ニ答テ曰ケルハ「人の子榮光を受べき時いたれり誠に實に爾曹に告ぐ一粒の麥もし地に落て死すば惟一にて存んもし死せば多くの實を結ぶべし」ト斯ク主ハ一方ニハ喜ビ給フト同時ニ他ノ一面ニハ其非命ノ最後ヲ思フテ悲ニ禁エ給ハザリキサレバ主ガ全二十七節ニ「今我が心憂悼めり何を言はんや父よ此時より我を救ひ給へと言はんが否これが爲に我この時に至るなり」ト宣ヘルモノ其悲懷ノ消息ヲ傳フルモノニアラザランヤ聖餐ノ大禮ヲ設給ヒシ夜主ハ其席ニ列ナルモノ、内我レヲ離レテ欺ヲ敵ニ通シ機アラバ我レヲ敵手ニ解サントスルモノアルヲ見テ幾何バカリ其心ヲ痛メ給ヒシゾ(約一三〇三)サレド彼ノ裏切者ガ其席ヲ去ツテ己ガ成サントスルノ途ニ走リシ時主ノ心ハ再ビ平靜ニ返ヘリテ温言モテ深ク其弟子ヲ慰メラレキ即チ彼等ヲ呼ブニ奴隸ヲ以テセズ

我友ト云ヒ其談話ハ彼等ノ爲メニ深キ慈愛ト柔和ヲ顯ハシ玉ヒキ談話終リテ彼ハ彼等ノ爲メニ祈ヲナシ給ヒキ(約十七章參照)而シテ此祈禱ノ語タル主ガ父ナル神ト親交ヲ有スルコト及ビ其心ハ天ノ榮光ヲ以テ充タサレアルコトヲ證スルニ足ルモノナリ此クテ師弟ノ間ニ開カレタル此ノ貴キ筵モ閉ヂラレテ主ハ弟子ヲ伴フテ禱ノ爲メニカンラン山ノゲツセマテノ園ヘト赴キ給フ時恰モ滿月ニ際シ萬象悉ク光ノ美ニ蔽ハレタリ此ル晴夜ニ當リテ四方ノ眺望ハ人心ヲ驚カスモノナク皆之レニ平和ヲ與フルモノナリ然ルニ主ノ心中突然ニシテ大ナル恐惶生ジヌ即チ主は甚しく憂ひ哀しみを催し(可一四〇三二、太二六〇三七)トアリ故ニ主ハベテロヤコブヨハテニ向ヒ我心いたく憂ひて死ぬるばかりなり(太二六〇三八)ト宣ヒキ主ハ三人ノ弟子ヲ伴フテ尙園中ノ奥深く進ミ給ヒシガ其心ノ憂サニ禁ヘヤラデ何時シカ三人ノ弟子ヲモ離レテ一層奥エハ進ミ給ヒ又其處ニテ主ハ身ヲサクバカリノ憂ノ爲ニ血ノ如キ汗ヲ流シ渾身衰ヒ懼キ三度マデ父よ若しかなは

此杯を我より離ち給へ然と我心の従を成んとするに非ず聖旨に任せ給へ(下禱り給ヒキ馬太傳廿六章三十九節ヲ看ヨ)何ゾ其言ノ衰フシテ切ナルヤ由此觀之主ノ人ナル性質ハ其侮辱セラレ苦慮セラレ且ツ殺サル、コトヲ如何ニ厭ヒ給ヒシカヲ知ルニ足ラン然レモ猛然トシテ一度其死ヲ決シ給フヤ神ノ聖旨ノマニ甘シテ其死ヲ受ケ給ヒキ茲ニ吾人ノ考究ス可キ問題ハ純粹無垢罪過ノ累ナキイエスキリストハ何ガ故ニ其死ニ當テ此ク悲哀ニ陥リ給ヒシカ之レヲ古今ノ歴史ニ徵スルニ凡ソ聖人ト呼バレ善人ト稱セラルモノ誰カ其死ニ臨ンデヤ從容自若滿身ノ喜悅ニ湛ヘラレテ死ニ就クモノニアラザランヤ看ヨ聖パウロノ如キ彼ハキリストノ一弟子ニアラズヤ而シテ彼レハ其死ニ就キテ少シノ躊躇スル所ナカリキ看ヨ幾多ノ殉教者ハ或ハ刀ニ刺サレ或ハ猛獸ノ圈ニ投ケ入レラレテ銳キ爪牙ニ擘レ或ハ火刑ニ處セラレ其他アラユル極刑ニ其身ハ火裡一片ノ雪ノ如ク消エ行クモ凜タル其信仰ハ遂ニ能ク刀火鼎鏝ノ屈スル所ニアラザリシニハアラザ

ルカ古今ノ義人其其死ヲ見ルヤ固ヨリ歸スルガ如シ然ルヲ主キリス
トハ大節ニ臨ミナガラ何カ故ニ其死ヲ厭ヒ之レヲ悲ムコトヲセラレ
シカ主ハ曾テ弟子ニ「汝等喜べそは我父の許に行けばなり」ト宣ヒキ(約
一四〇二八)而シテ主ハ自ラ其死ニ就キ云フベカラザル悲ヲ抱キ玉ヒ
シガ如キ抑モ是レ何等ノ矛盾ゾヤ蓋シ此間何等ノ消息カアル「凡ソ刑
人ノ刑場ニ引カレテ架上ニ釘セラレ將ニ其命ノ斷タレントスル時ニ
當テヤ其受ケタル傷ノ爲メニ烈シキ熱ヲ引起シ或ハ群リ居ル觀者ノ
目前ニ人生最大ナルノ耻辱ト不名譽トヲ蒙ル誰カ此際ニ臨ンデ喜色
アルコトヲ得ンヤ然レモキリストノ悲ミ且ツ憂ヒ給ヒシ所以ノモノ
豈ニ如此ノ故ナランヤ四福音ノ記者モ決シテ主ハ其等ノ耻辱不名譽
等ノ如キ事ノ爲メニ憂ヒ悲ミ玉ヒシトハ記サバリキ蓋シキリストノ
憂愁悲歎ハ外ナル體軀ノ故ニアラスシテ内ナル靈ノ苦痛ナリシヤ明
白也サレバゲツセマ子ノ非常ナル苦ミハ只タガルバリ山上ノ十字架
ノミヲ以テ説明シ得可キ也キリストノ十字架ニ釘ケラレシ所以ノモ

ノ是レ人類ノ罪惡即チ人情ノ欺騙殘酷ニシテ神ヲ厭忌スルノ然ラシ
メタルモノニ外ナラズ抑モキリスト降生ノ目的ハ神ヲ離レシ流離漂
泊ノ人類ヲシテ再ヒ神ノ許ニ歸ラシメ之ヲシテ至善ノ人トナスガ爲
ニアラズヤ然ルニ當時ノ人衆其洪大ナル恩惠ニ沐浴シナガラ之ヲ謝
スルノ道ニ出デズシテ却テ酬ユルニ惡ヲ以テス即チ極惡貪望ナル教
職ハ其ノ權力ノキリストニ由テ殺ガレンヲ恐レ彼ノ生命ヲ奪ハン
ト謀リキ僞證人ハ神ノ聖子ナルキリストヲ以テ神ヲ瀆ガスモノナリ
ト訴エキ僞友ハ彼ヲ仇敵者ニ賣渡シキ而シテ義シカラザル有司ハ彼ヲ
無罪ナリト告ゲシモ遂ニ死罪ヲ以テ之ヲ擬スルニ至ル彼ユダヤ人ノ
反覆常ナキヤ其曾テ讚美ノ聲ヲ擧ゲタル口ヲ以テ俟チ亦咒詛ノ聲ヲ
叫ブ又彼等ハ主ヨリ多クノ幸福ヲ得タリキ而シテ今ハ主ガ彼等ニ其望
ム所ノ此世ノ榮華ヲ與エ給ハザリシ失望ノ極遂ニ彌テ主ヲ十字架ニ
釘ケヨト狂呼シ又羅馬人ナルユダヤノ方伯ポンテオピラトハ一度ハ
主ニ無罪ヲ宣告シナガラ忽チニノ衆口ヲ畏レ自家ノ良心ヲ欺キテ之

ヲ死罪ニ解タシタリキ實ニ此短期間ニ起リタル事實ハ主ノ仇敵者ノ變ラザル殘酷心ト其友ノ甚薄弱ナル心トヲ現ハスニ足ル見ヨ主ノ捕ハレ給フヤ其弟子等ハ言甲斐ナクモ蛛蝸ノ子ヲ散ラセル如ク逃ゲ失セ死ニ至ル迄モ主ニ從ハント誓ヒタルベテロサヘ三度主ヲ識ラズト言フニ至リキ嗚呼主ハ實ニ不正ナル宣告ノ下ニ二人ノ殺人犯者ノ間ニ十字架上ニ釘セラレ給ヒキ此時ニ當リテヤ唯僅カニ二三ノ婦人ト一人ノ弟子トノミ其十字架ノ許ニマデ隨ヒヌ實ニ主ハ凡テノ人ニ見棄テラレ給ヒシカノ如ク見ユ今ヤ主ノ胸中ハ千愁万恨交々來ルノ時ニシテ殆ンド痛苦ノ頂ニ達セシニモ拘ラズ安然トシテ之ヲ耐ヘ忍ビ給ヒキ而シテ主ハ此痛苦ノ爲ニ悲シミ給ヒシニ非ス何トナレバ主ハ其未ダ十字架ニ釘セラレザルヤ口常ニ我獨居るにわらず父我ト偕に居リ給フノ言ヲ(約一六〇三二)絶チ給ハザリキ然レモ一度十字架ニ釘ケラレ給フヤ神ハ主キリストヲ遣テ、之レヲ離レ給ヒタレバ主ハ甚寂然トシテ獨居シ玉ヒキサレバヨソ主ハ大聲ニ叫ビテ吾が神吾が神な

んが我を遣て給ふや(太二六〇四六)ト言玉ヒキ何ガ故ニ主ハ此ク苦キ叫聲ヲ發シ玉ヒシヤ惟フニ主ハ其當時ニ於テ常ニ不變ノ信仰ト限りナキ愛トヲ以テ神ノ聖旨ニ任カセ玉ヒキ然ルニ今ハ此ク神ガ十字架ニ釘リテ死玉フ主ヲ全ク遣テ玉ヒキ此ニ於テ主ハ悲ヲモテ其靈ヲ神ノ手ニ返ヘシ玉ヒキイエスハ神ヨリ遣テラル、トヲ悲苦ニ堪難シト思ヒ給ヒキ彼ハ實ニ其苦ニ由テ死玉ヘリ而シテ彼ノ死ハ表面上ノミナラズ内心ノ苦痛ニ由リテナリトス即チ十字架ニ釘ケラル、ノ苦ミノ結果ニアラズシテ神ガ彼ヲ遣テ玉フタル結果ナリトス此死ハ殉教的ニアラズ如何ニシテ之ヲ説明スベキヤ今キリストノ生涯ニ就テ之ヲ見ヨ主ハ實ニ曾テ一度モ罪ヲ犯カシ玉ハザリキ彼ハ神ノ愛シ玉フ獨子ナルニ其生涯ハ實ニ苦痛ノ生涯ニシテ其間神ノ最モ肝要ナル工ハ其手ニ由テ成サレタリキ彼ハ悔改メザル罪人ノ當サニ受クベキ神ノ怒ヲ受玉ヒキ即チ彼ハ神ノ聖前ニ於ケル喜ビヨリ捨テラレ神トノ幸福アル交接ヨリ離サレタルモノナリ吾人ハ如何ニシテ主ノ悲痛ノ秘

義ヲ説明スルコトヲ得ンカ主ハ上帝ノ至愛ヲ罪アル人類ニ顯ハサンガ爲メ身ヲ卑フシテ世ニ降り且全ク罪ナキモノナルニ彼ハ遂ニ神ヨリ遣テラル、ノ極ニ至リ玉ヒキ主ハ實ニ吾人人類ヲシテ神ニ導ク唯一ノ道途ニシテ世亦別ニ途ナルモノアルベケンヤ然レモ主ガ自ラ十字架ニ釘セラレ玉フノ時ニ當リテヤ神ノ聖子タル彼自身スラ自ラ神ノ許ニ行クヲ得ザリキキリストハ神ノ聖子ナル獨子ニシテ亦タ其聖旨ニ適フノ愛子ナルニ人間ノ厭忌ニ由テ十字架ノ苦痛ヲ受ケ給フノミナラズ其苦痛ノ真中ニ於テ神ノ慰メナル恩恵ヲ失ヒ遂ニ吾神吾神何ゾ我ヲ捨テ給フヤト宣フニ至リキ然ルニ或ハ誤リテ説テ曰ク重大ナル苦痛ヲ受クルニ當リ神ニ對シテ誤想ヲ吐露シ其苦痛終ル時ニ前言ヲ食セント欲ス即チ酷キ苦痛ヲ受クルニ由テ吾儕ハ誤想スラク吾神ハ我ヲ遣テ給ヘリト然レトモキリストニ於テハ斯ル誤想ハ到底ナシ難ク其言タル絶對的眞實ナリトス或ハ又誤解スラク信者ニシテ病患苦痛ノ故ニ絶望暗黒ナル境遇ニ居ラバ是レ即チ神我ヲ捨テ給フコ

トナリト然レトモキリストニ於テハ亦此種ノ誤解ヲ爲能ハザルナリ所謂吾神吾神何ゾ我ヲ遣給フヤトハ眞實ナル事柄ヲ間違ヒナク指示スルノ言ニシテ又主ノ一生涯ノ歴史中種々ノ事實ヲ説明スルノ語ナリトス主イエスハ其死ハ恐ル可キ十字架上ナルヲ及ビ其時ニ至ラバ神ヨリ遣テラレ玉フベキヲ其一生涯中絶エズ知覺シ玉ヒシヲ以テ日々其死スベキヲ考ヘ且ソノ死ノ日ニ近ツクニ從ヒ恐レ玉ヒキサレバコソ其歴史中ノ多クノ重要ナル事實アリシ場合ニハソノ死スベキヲ告示玉ヒキ例之彼得ガ爾はキリスト活神の子なりト云ヒシトキ主ハ彼ニ對シ其死スベキヲ示玉ヒキ(太一六〇六)又節筵ノ時或キリシヤ人キリストニ見エント乞ヒシキ主ハ又之ヲ彼等ニ告玉ヒキ(約一二〇二)且又ソノ死玉フ前夜即チ賣タサレ玉フタル夜ニ主ハ其死ト苦楚ヲ紀念スル式ヲ立テ、再ヒ來ルマデ常ニ此式ヲ行ヘ(路廿二〇一九)トハ命玉ヒキ以上諸點ヲ考察シ來ラバ主キリストノ受玉フタル烈キ苦痛即チ神ニ遣テラレ玉フタルハ人間ノ罪ヲ贖フニツキ格別ナ

ル關係アルヲ知ルニ足ラン蓋キリストハ人類ガ其罪累ノ爲メニ將サニ受ク可キノ刑罰ノ苦痛ヲ盡ク自ラ十字架上ニ受ケ玉ヒキ羅馬書四章廿五節ニ曰ク「イエスは我儕が罪の爲めに解たされたり」ト又哥林多前書十五章三節ニ「キリスト我儕の爲に死す……」ト彼得前書三章十八節ニ曰ク「キリストも一次罪の爲めに苦を受く義者不義者に代れり」ト加拉太書三章十三節ニ曰ク「キリスト既に我儕の爲に神に誼はるゝものとなりて我儕ヲ贖ヒ玉ヘり」ト此等ハ是レキリストノ死ニ就キテ使徒等ヲ通シテ聖靈ノ語り玉フ所ニアラズヤ而ノ是等ノ言ハ如何ニ善ク預言者イザヤノ言ニ符合スルヤ以賽亞書五十三章四節ヨリ六節ニ曰ク「マコトに彼はわれらの病患をおひ我儕のかなしみを擔へり彼はわれらの愆のためには傷けられわれらの不義の爲めに碎かれみづから懲罰をうけてわれらに平安をあたふ其うたれし痕によりてわれらは癒されたり」エホバは我等凡てのものゝ不義を彼の上に置たまへり」ト此ハ主ノ十字架土ノ痛苦ハ人類ノ罪ヲ全ク贖フノ價值アルヲ

示スノ言ニアラズヤ若シ吾人ニシテ信ヲ茲ニ置クヲ得ズンバ罪ナキキリストノ苦痛ト其神ニ遺テラレ玉ヒシ事ニヨリ人類ガ望ヲ神ニ繋グモ是レ空ナラン今若シ神ガキリストヲ十字架ニ遺テ玉フタルハ人間ノ罪ヲ贖フ爲メナリト説明セザレバ主ノ十字架ニ遺テラレ玉フハ吾人ニ指示スラク天ヨリ降り人性ヲ取リタル完全ニシテ聖ナル者ハ神ノ助ケト仁愛ニ頼ルモ絶エズ平安ヲ受クル能ハズ且又此十字架ニ掛ルノ事實ハ神ガ限ナキ仁愛ニ由テ罪人ヲ捨テザル恩惠ノ證據ニアラズ反テ全ク神ヲ愛シ全ク彼ニ仕事スルモノガ尤モ艱難ナル場合ニ出會フニ當リ神ハ彼ヲ捨テ、顧ミザルノ證左ナリ換言スレバ主イエスキリストノ死ニシテ實ニ人間ノ罪ヲ贖フナラザリセハ是ハ人間ヲシテ恐怖ト絶望ノ域ニ陥ラシムルモノナリトス

贖
罪
論

第
三
章

主耶蘇基督贖罪論

第三章 贖罪ノ事實ニ關シ主耶蘇基督ノ證明

前章ニ於テハ主イエスキリストハ其洗禮ヲ受ケ給フタル時ヨリ常ニ其死スベキヲ記臆シ給ヒシヲ其死ノ時ノ近クニ從ヒ彼ハ悲ミ恐レ給フタルヲ及ビ其十字架ニ懸リ給フ時ニ父ナル神ハ彼ヲ見捨テ給ヒタルヲノ三要點ニ就キ論ズル所アリシガ四福音記者亦此三點ヲ尤肝要ナリトノ説キ、此章ニ於テ吾人ハ主ハ其死スベキヲ説クニ當リ以上三點ニ如何ノ説明ヲ附シ給ヒノフ問ニ答フル所アラントス主キリストニシテタトヒ其苦楚ト贖罪ノ關係ニ就キ説示シ給フ所ナキニモセヨ尙以上三點ハ眞ナリト信ジテ可ナリ然ルニ幸ニモ主ハ自己ハ何ノ爲ニ死スベキヤニ就キ明瞭ニ其弟子ニ垂示給ヒキ主イエスハ屢々其死ニ就キ或ハ間接ニ或ハ偶然ノ出來事ニ由リ或ハ譬喩ヲ以テ或ハユダヤ教ノ禮式ヲ以テ之ヲ語示シ給ヒキ然レモ是等ノミニテハ尙ホ

教ヲ立ツルニ足ラズ人間ノ信仰ヲ喚起スルニハキリストノ死ニ就ケル教ヲ明白ニ疑念ナキ様顯ハスハ必要ナリトス然ルガ故ニ主イエスハ其説明ヲ與フル爲ニ尤モ主要ナル祝節日ヲ撰給ヒキ而シテ該説明ヤ弟子達ノ問ニ對シ又ハ仇敵者ノ侮辱的言語ニ應ジテ語給ヒシモノニアラズ自己ノ意向ト特ニ之ヲ說示シ給ヒシナリ彼ハ之ヲナスニ例言ヲ用給ハズ尤モ明白ニ直接ニ且簡單ニ語給ヒキ而シテ該説明ヲ守リ且ツ或ハ失意セラレ或ハ變更セラル、ノ危險ヲ防グ爲メニ主イエスハ格別ナル一禮典ヲ立テ、其説明ト相結合セシメ給ヒキ斯クシテ世ノ末日マデ凡テノモノ、心中主ノ死ト理由ヲ忘レザラシメ玉ヒキ一禮典トハ何ゾヤ聖餐式即チ是ナリ蓋シ聖書中聖餐ニ就キ記サレタル四個ノ記事アリ則チ馬太福音傳二十六章馬可福音傳十四章及ヒ路加福音傳二十二章並ニ保羅ガ哥林多人ニ書キ贈リタル前ノ書簡十一章ノ四ツニ人若シ仔細ニ聖餐ニ關シテ知ルコトアラント欲セバ須ラク右四書ニ就テ互交參稽スルヲ要ス試ニ今其要ヲ提ケテ之ヲ語ラン

カ主ガ敵ノ手ニ解タサレ給フノ宵十字架ニ釘ケラレ給フ前夜主ハ三大祝節ノ其一ナル逾越節ヲエルサレムノ或樓房ニ守リ給ヒキ而シテ一坐皆卓ヲ圍ンデ食ニ就クノ時主ハ先ツパンヲ執リ神ニ謝シ之ヲ掣キテ弟子等ニ予ヘテ曰ひたまひけるハ取りテ食せよ此は汝らの爲めに予ふる我身なり汝ら之をなして神を記念せよ又食してのち葡萄酒を盛りたる盃を執りて謝し彼らに予へて言たまひけるは汝ら皆この杯より飲め此は新約の我血にして罪を赦さんとして汝ら及び衆の人のために流す所のものなり汝ら之をなして飲む毎に我を記念せよト由是觀之主ガ死給フコト即チ其肉ヲ擘キ其血ヲ流ガシ給フノ一事ハ確カニ吾人々類ノ爲ニ其罪ヲ赦サントテ爲シ給ヘルモノナルコトヲ知り得テ餘リアルベシ今晚經ノ記事ニ付キ四家ノ記スル所ヲ見ルニ皆各多少ノ相違アルヲ發見スルヲ得ン之ヲ例スレバ馬太ト馬可ニ於テハ主杯ヲ執リ彼等ニ予ヘテ此ハ衆ノ人ノ爲ニ流ス我血也ト記サレ保羅ノ書簡ニ於テハ主イエス賣タサル、夜、パンヲ取り祝シテ之ヲ擘キ曰ケ

ルハ取リテ食セヨ此ハ爾曹ノ爲メニ擘カル、我體ナリト記サレ路加ニ於テハパンヲ取リ之ヲ擘キテ弟子等ニ予へ此ハ爾曹ノ爲ニ予フル我身體ナリ我ヲ記ン爲ニ此ヲ行セ又食シテ後杯ヲ取リ曰ケルハ此杯ハ爾曹ノ爲ニ流ス我血ニシテ立ツル所ノ新約ナリト記サレキ如斯其文字ノ上ニ於テ較相異ナルガ如キト固ヨリ之レアリト雖モ其意味ノ存スル所ニ至テハ敢テ一毫モ異ナルナシ則チ主ハ十字架上ニ其身ヲ擘キ其鮮血ヲ流シ給ヘルハ偏ニ人類ノ罪愆ヲ赦サンガ爲ニシテ別言スレハ主ガ死刑ノ慘死ヲ甘受シ給ヒシ所以ノ目的ハ人ノ罪ヲ赦シテ之ヲ救拯スルニアリキ

若シ仔細ニ福音書ヲ研究センモノハ主ノ死シ給フノ事ヤ是レ人類ノ罪愆ヲ赦サンガ爲ニシテ更ニ他意ナキヲ知ルヲ得ン而シテ主ハ決シテ其自ラ天ヨリ降り人性ヲ稟ケテ生存シ剩サヘ幾多ノ苦患ニ遭遇シ給ヘルガ如キ或ハ人生ノ試惑ニ會シ窮乏ノ裡ニ處シ饑餓困憊シ玉ヘルガ如キ是等ノ事實ハ一モ人類ノ罪愆ヲ赦サンガ爲ニ然ルモノナル

トヲ明言セラレタルハアラザルナリ主ハ尤モ明白ニ人類ノ罪愆ヲ赦サンガ爲ニ死スルトヲ告ゲ給ヒキ

人若シキリストノ教訓ヲ玩誦セバ神ガ人類ニ對シテ一面ニ於テ嚴トシテ正義ヲ執リ給フト共ニ亦他ノ一面ニ於テ温乎トシテ慈悲ノ眼ヲ垂レ給フヲ知ルヲ得ン故ニ吾人ハ謹ンデ此教訓ヲ服膺シ從前重キ來リタル罪過ヲ悔改シ上天ノ愛ニ身ヲ托シ深ク之ヲ信ズル所ナカルベカラズ若シ夫レ然ラズンバ人ハ途ニ主ガ説キ給ヘルガ如ク末日其臺前ニ於テ嚴カナル宣告ノ下ニ永遠ノ刑罰ヲ受ケズンバ已マザルベシ左レバコソ戰々トシテ敢テ之ヲ脱ル、ノ途ヲ講ゼザルベカラザルナリ

又主ガ嘗テ説キ給ヒタル遊蕩子ノ譬喩ヲ聞ケ人ハ彼ノ遊蕩子ノ如ク其罪ヲ悲シミ碎ケタル心ヲ抽デ、全ク其罪過ヲ悔改メザルベカラズ若シ一度心ヨリ其罪ヲ悔改メンカ自ラニシテ亦神恩ノ優渥ナルヲ信スルニ至ルハ更ニ疑フ所ナシ四福音書ニ記サレタルキリストノ片言

隻句モ人心ヲシテ再ビ神ニ歸ラシムルノ力ヲ有ス然モ人類ノ罪過ハ之ニ由リテ遂ニ赦サルベカラズ蓋シ人ヲシテ再ビ歸ラシムルノ力ハ何處ヨリ來ルカ惟フニキリストノ凡百ノ行動、不思議ナル行爲及其教訓ト人ノ爲ニ涙ヲ流シ給ヒシガ如キ恐ラクハ是レ人ヲシテ神ノ許ニ引着スルノ最大求心力タリシヤ固ヨリ疑ヲ存セズト雖モ是等凡百ノ行動云爲ハ贖罪ノ一事ニ就テ功アルニアラザルナリ唯獨リキリストノ死ハ人類ノ罪過ヲ赦スノ權威アル唯一ノ道ナルノミ

既ニ言ヘルガ如クキリストガ人類ノ罪過ヲ赦シ之ヲシテ再ビ神ニ歸ラシメ給フノ理由ハ其教訓ニ由ルニアラズ其不思議ナル能力アルガ爲ニアラズ此ハ全ク主ガ十字架ニ慘死ヲ遂ゲ給ヒシ此ノ一事ニ由ルニ外ナラズ是ニ於テ其教訓モ實際ニ於テ人ヲ救フノ力アルモノトハナリス若シ夫レ然ラズシテ主人類ニ代テ十字架上ニ死シ給フノ事ナクンバ人切ニ其罪ヲ悲シミ神ニ向ヒテ悔改メンコトヲ望ムモ畢竟是レ徒勞タランノミ吾人は是ニ於テキリストノ十字架ト赦罪トノ關係ノ頗

ル深甚ナルコトヲ知ル之レヲ以テ主ガ全生涯ヲ通シテ説キ給ヒル教訓モ行動モ共ニ人類ノ赦罪ノ上ニ關スルコト毫モ是レナキヲ知ルニ足ラシカ

キリストハ其死ノ衆ノ人ノ爲メナルコトニ就キ曾テ幾度モ語ラレタリキ獨リ彼ノ晚餐式場ニ於ケルノミニアラザルナリ主ハ其死ニ先ツコト三ヶ月前ニ於テ既ニ我ハ善牧者なり善牧者ハ羊の爲めに命を損つ(約十〇十一)ト宣べ給ヒキ或ハ父我を識る如く我も父を識る我羊の爲めに命を損(約十〇十五)ト語リ給ヒキキリストガ自ラヲ指シ言ヒ給ヒケル善牧者テフ語ハ舊約全書ニ神ヲ指シテ牧者ト云フコト能ク自ラニ適フヲモテ之ヲ取リテ此クハ語リ給ヒケン而シテ吾人ノ茲ニ注目スベキハキリストガ自ラヲ指シテ善牧者ト語リ給フ時ニ當リテ語一モ牧羊者ノ任務即チ其羊ヲ導テ緑ノ野邊ニ臥サシメ清キ水濱ニ伴ヒ行キ或ハ兇暴ナル狼ノ牙ヲ防ギ其群ヲシテ安全ナラシムルガ如キ重要ナル任務ニ及ブコト無シ然モ屢唯羊の爲に命を損つト宣ヒキア、此

簡單ナル一語ハ恰モ是レ畫龍點睛ノ如ク然ルニハアラザルカ
蓋シ命ヲ捐ルトハ恰モ彼ノ神ノ公會ノ守護者ナル預言者若クハ使徒
ノ如キ或ハ宗教改革者傳道者異邦傳道者ノ如キ人々ガ兇暴狼獅ノ如
キ惡人ノ爲メニ慘酷ナル最期ヲ遂ゲシガ如ク然ルニ非ズシテ更ニ一
段ノ深意ヲ有ス彼等ハ其主管タル羊ヲ守護センガ爲メニ且ツ其群羊
ヲシテ安全ナル逃路ニ就カシメンガ爲メニ奮闘シ遂ニ兇暴ナル毒手
ノ下ニ斃ル、ニ至リヌ然レモ基督ニ於テハ其能力優ニ之等ノ醜類ヲ
超越シテ敢テ其毒手ニ煩ハサル、ガ如キテ曾テアルトナキガ故ニ縱
令如何ナル手段ヲ回ラスモ到底基督ノ生命ヲ奪フコトハ人力ノ得テ及
ブ所ニアラザルナリ約翰第十章十七、八節ニ曰ク「吾父我を愛す蓋我再
び命を得んが爲に命を捐るが故也我より之を奪ふ者なし我自ら之を
捐るの權能あり亦能く之を得るの權能あり」下由此觀之主ハ自ら好シ
テ其命ヲ捐テ給ヒシモノニシテ敵ノ兇暴ナル力ノ制シ難ク之レガ爲
メ遂ニ其慘死ヲ遂ゲ給ヒシニハアラザル也故ニ曰ク「人誰も我命を奪

ふこと能はず」下

約翰第十五章十三、四ニ曰ク「人其友の爲に己の命を捐るは此より大なる愛はなし凡て我爾曹に命ずる所のことを行はば則ち我友なり」下此ハ主が弟子等の爲に死し給フベキヲ語り給ヘルノ言ナリトス而シテ吾人ハ今主ノ死シ給フノ理由ニ付キ馬可ガ其第十章四十五節ニ記サレタル左ノ一句ヲ記セザルベカラズ蓋人ノ子ノ來ルモ人ヲ役フ爲ニ非ズ反テ人ニ役ハレ且多ノ人ニ代リ其命ヲ予へ贖トナラン爲也ト如何ニ其理由ノ明白ニシテ一讀直チニ主ノ死ノ眞義ヲ悟了セシムルニハアラザルカ

基督ガエルサレムニ上リ給フヤ其弟子等ハ途次天國ノ位地ノ高貴ナル事ドモヲ互ニ語り給ヒキ(太十九〇廿八)主ガエルサレムニ上リ給ヒタル唯一ノ目的ハ其死ヲ受ケンガ爲メナリキ馬可第十章三十三、四節ニ曰ク我儕エルサレムニ上リ人ノ子ハ祭司ノ長ト學者等ニ付レン彼等之ヲ死罪ニ定メ異邦人ニ付シ之ヲ嘲弄シ鞭チ唾シ且之ヲ殺サン斯

テ第三日ニ甦ルベシト然レモ弟子達ハ主ガ我死スト宣ヒタルヲ譬喩ノ言トシテ解シ居タリキサレバ主ガ其途中ニ於テ確ク其死ヲ決セラレタルノ状態ヲ視テ怪訝ノ情ニ禁ヘザリキ

馬可第十章三十二節ニ曰クサテ彼等エルサレムに上る途間イエス弟子に先ち行ければ彼等驚き且畏れて從ヘリト弟子等ハ主ガエルサレムニ上リ給フハ危険ノ甚キ者ニ豫テヨリ主ヲ嫌忌セル一群ノ徒ガ主ヲ殺サンコトヲ謀リツ、アルヲモ知リ居タリキ特ニ主ガ語り給ヘル口氣ニ由テ之ヲ察スルモ主ノ一身上ニ何事カ危険ノ起リ來ランコトハ豫想スルニ難カラザリキ然レモ主ハ是レメシヤナリ豈ニ容易ニノ殺サレ給フ可ケンヤ主ガ我死スト宣ヘルガ如キ唯是レ譬喩ノ言ナルノミト信ジ居タリキ而シテ當時弟子等ノ胸中尙一事ノ蟠ルモノアリシ此ハ神國建設ノ事業ニシテ彼等ハ唯々其事ノ頗ル難事ナルヲ思ヒキ然レモ彼等ハ一意主ガ速ニ此世ニ於テ神國ヲ建設シ給ハンコトヲ望ミタルガ故ニ主ガ自家ノ死ニ就キ語り給ヒタル重要ナル言語ニサヘ

左迄意ヲ注グコモセザリシナリ彼等ハ唯神國建設ト其應報及ビ尊貴ナル地位ニ其坐位ヲ占ムルノ希望ヲ有スルニ過ギザリキ之ヲ例スルニ雅各約翰ノ母ガ其二人ノ子ニ天國ニ於テ最高位ヲ與エタル、ヲ許サレンコトヲ願ヒタルガ如キ聊カ其ノ思想ノ一斑ヲ窺フニ足ランカ然レモ主ハ其ノ請ヲ容レ給フコトハナカリシナリ却テ彼等二人ノ子ガ將來ノ運命ヲ説テ疾痛慘憺ノ生涯タルベキヲ示サレキ而シテ主ハ其時ヲ機トシテ明カニ天國ニ於ケル位地ノ此ノ世ニ於ケル位地ニ異ナルコトヲ告ゲ尙説キ給ヒケルハ然レド爾曹ノ中ニテハ然ス可ラズ爾曹ノ中大ナラント欲フ者ハ爾曹ニ役ル、モノトナラン又爾曹ノ中首タラント欲フ者ハ凡ノ人ノ僕トナラン蓋人ノ子ノ來ルモ人ヲ役フ爲ニ非ズ反テ人ニ役ハレ且多人ニ代リ其命ヲ予テ贖トナラン爲也(可一〇四三―四五)ト

吾人ハ今少シク贖罪テフ文字ニ付キ語ル所アラントス試ニ舊約書ヲ緝テ神ユダヤ人ノ爲ニ設ケ給ヒタル律法ノ篇ニ至ランカ吾人ハ幾度

モ贖テフ文字ニ接スルコアルベシ譬バ人アリ一度其相續スベキ土地ヲ賣リテ之ヲ他人ノ手ニ渡スヤ若シ之ヲ受戻サンコトヲ望メバ相應ノ金子ヲ之レガ爲ニ拂ハザルベカラズ此ノ金子ヲ指シテ之ヲ贖ノ金ト云フ(利未記二五〇二五—二七)又奴隸ヲ所有スル者アリ若シ其ノ奴隸ヲシテ此人ノ手ヨリ自由ニ解放セラレンコトヲ欲セバ之レガ爲ニ贖ヒノ金子ヲ拂ハザルベカラザル也(同二五〇四七—四九)又獸類ノ初生兒ヲシテ法律上ノ屠殺ノ厄ヲ脱セシメントセバ定メノ金ヲモテ宮殿ニ獻ルノ例ナリキ(民數記一八〇—一五)又長男長女ノ生命ノ守護セラレンガ爲メ宮殿ニ五圓ヲ獻シ(同一八〇—一六)又人長ジテ二十歳以上ニ及ブヤ神ノ保護ヲ受ケンガ爲ニ毎年五十錢ヲ納ムルノ例ナリキ(出三〇〇一二、一三、一六)是等ハ皆贖ニ關スル事柄ニシテ此外尙ホ記スベキコトナキニ非ズト雖モ今ハ唯タ簡ニ從フノミ之ヲ要スルニ贖ノ金ヲモテ奴隸ヲシテ自由ノ身トナシ又死罪ニ定メラレタル者ヲシテ赦罪ノ恩典ニ與カラシメ或ハ神ヨリ受クベキノ刑罰ヲ逃レテ其正ニ死ニ當ルヘキ

罪ヲ赦サル、ガ如キ事皆贖罪ニアラザルハナシ蓋シ贖罪ハ多クノ場合ニ於テ唯金ヲモテ其罪ヲ贖フノ例ナリシト雖モ特別ナル場合ニ於テハ亦異例ナキニ非ラズ(民數一八〇—一七)出一三〇—一三)又人ノ死罪ニ擬セラレタル時ノ如キ之ヲ贖フニ羔ト贖トノ命ヲ以テスルコトアリキ故ニ主ハ我命ハ衆ノ人ノ罪ヲ贖フノ犠牲タルベキヲ宣ベ給ヒキ嗚呼實ニ主ハ其朋友ノ爲ニ其僕ノ爲ニ其命ヲ捐テ給ヒキ彼ハ善牧者トシテ羊ノ爲ニ其命ヲ捐ツルコトヲ吝ミ給ハザリキ是等數多ノ事實ヲ湊合シ靜カニ精思シ來レバ主ガ自家ノ死ニ由テ贖罪ノ大業ノ舉ルベキヲ告グ給ヒキヲ知ル主ハ實ニ十字架上ニ其肉ヲ擘キ其血ヲ迸ラシメ命ヲ捐テ、人ノ罪ヲ赦シ主ヲ信ズル者ヲシテ永却無限ノ亡ヲ逃レテ永遠ノ生命ニ入ラシム

抑モ主ガ十字架上ノ慘死ハ其由テ來ル處何處ニアルヤ或ハ之ヲ主ガ熱心ニ道ヲ傳ヘ異端ヲ攘斥シ給ヒシニ由ルトセンカ或ハ之ヲ彼ノ當時ニダヤ國風教ノ中心トシテ自ラ詔リタル僞善者等ノ面皮ヲ剝ギ其

驕傲ヲ挫キ給ヒシニ由ルトセンカ是レ固ヨリ其一因タルニ相違ナキ
 モ抑モ亦主ハ其十字架上ノ死ニ由リテ衆人ノ罪ヲ償フニ充分ノ價値
 アルヲ顯揚センガ爲メ自ラ甘ジテ其慘死ヲ受ケ給ヒシニ非ラザルカ
 實ニ然リ主ハ一點ノ瑕ナク亦玷ナク從容トシテ神ノ聖旨ニ適フノ人
 ニシテ其高貴ナル行動其不可思議ナル事蹟及ビ其至純ナル主ノ生涯
 モ唯之レノミヲ以テハ人類ヲ救ヒテ之ヲ神ニ導クコトハ固ヨリ能ハザ
 ルノコトナリキ人類ヲ救拯スル尙一ノ要件アリソハ主ガ十字架上ニ其
 肉ヲ擘キ其血ヲ流シ給フノ一事是ナリ即チ神ノ聖子ナル主キリスト
 ガ人性ヲ稟ケテ人類ノ爲ニ自ラ殺シ給フニ及ビ茲ニ會テ神人間ニ置
 カレタル深淵モ取り除カレ人ハ自由ニ神ノ寶坐ニ進ムヲ得ルニ至リ
 キ此ハ吾人が既ニ章首ニ掲ゲタル「之ハ我血にして罪を赦さん」と多
 くの人の爲に流す所の者なり」トノ主ノ聖言ト同様ノ意味ヲ有スルニ
 アラズヤ
 人ヲシテ再ビ神ニ歸ラシムルノ道唯一アルノミ其罪ヲ洗フテ之ヲ潔

クシ舊垢ヲ去テ新性ヲ受ケシムルニアリ而シテ此ハ固ヨリ主ガ人類
 ノ爲ニ流シ給ヒタル寶血ヲ假テ之ヲ滌グニアラズンバ天下他ニ一ノ
 途アルベキナシ爰ヲ以テ主ガ十字架上ノ慘死ハ直ニ是レ贖罪ノ大業
 タルベキナリア、主ガ十字架上ニ其身ヲ捐テ給ヒタル此一事ハ優ニ
 人類ノ罪ヲ贖フテ之ヲシテ神ニ歸ラシムルノ價値アルモノナリトス
 是レ豈ニ人類救拯ノ基礎ナラザランヤ故ニ誠心斯教ヲ信ズルノ徒ハ
 波瀾湧々タル浮世ノ航海モ徐ニ舵ヲ按ジテ進ムベク例令無情ノ風ニ
 誘ハレテ殘リノ花ト散リ行クモ自若トシテ歸スルガ如クアルベキノ
 ミ實ニ斯道ヲ傳フルモノ、其ノ足ハ美シキ哉

上來引證シ來リタル諸例ノ外尙他ニ幾多ノ證アリテ存ス例バ約翰第
 三章十四五節ニモ「野ニ蛇ヲ舉ケシ如ク人ノ子モ舉ゲラルベシ凡
 テ之ヲ信スルモノニ亡ルコトナクシテ永生ヲ受ケシメンカ爲メナリ
 トルアルガ如キ又主ハニコデモニ對ヒテ人類ハ新ニ生ルベキナリ而
 シテ人ハ神國ニ入ランガ爲メ神ノ生命ヲ受ケザル可ラズ此ノ神ノ生

命ヲ與フルガ爲メ神ノ子ハ死セザル可ラズト語リ給ヒキ何トナレバ
由來ノ人類ハ神ノ聖旨ニ背反シ將ニ其震怒ノ下ニ在リ例令痛哭懊改
切スラ赦罪ヲ哀求スルヲアリトスルモ其赦罪ヲ受クルニ相當スベキ
價値ナキヲ如何スベキ或ハ主キリストガ優渥ナル上帝ノ光寵ニ浴シ
胸裡常ニ怡々トシテ喜ビ給フヲ見テ自己ノ罪惡ニ染タルヲ耻ヂ欽羨
措ク能ハズ其至福ニ肖カラントヲ擬スルヲアリトスルモ豈ニ夫レ得
可ケンヤ或ハ神ガ人類救拯ヲ遂ゲ給フベキ契約ヲ立テ給ヒタル事實
ニ由テ赦罪ヲ哀求スルヲアリトスルモ到底是レ徒勞ナランノミ或ハ
主ガ自ラ卑フシテ天ヨリ降り人性ヲ稟ケ吾人ノ爲メニ至純至聖ナル
摸範ヲ遺シ其教訓ハ例令他ノ諸教ヲ抜キテ別ニ載テ樹ツルモノナル
ヲ信ズルヲアリトスルモ其信ハ以テ永遠ノ生命ヲ贏テ得ルノ力ア
ラザルナリ讀者諸君吾人ハ如何ニシテ吾人ノ救ヲ全フスベキカ吾人
ハ唯一ケノ道ノ外更ニ道ナキヲ信ズ即チ主キリストガ其身ヲ捐テ、
十字架ニ釘セラレ給ヒシト是ナリ十四節ニ「モーセ蛇を擧げし如く

人の子も擧げらるべし」トアルガ如ク若シキリスト吾人々類ニ代リテ
十字架ニ釘セラレ給フニアラズンバ世界ノ萬衆一人トシテ遂ニ永
遠ノ生命ニ入ルヲ得ベカラザル也三章十六節ニ曰ク「され神は其生た
まへる獨子を賜程二世の人を愛し給へり此は凡て彼を信する者に亡
ると無くして永生を受けしめんが爲めなり」トキリスト十字架ノ死
ハ人類ヲシテ滅亡ノ淵ヨリシテ救ヒ出シ其罪ヲ贖フニ余リアルモノ
ナルヤ固ヨリ明カナリ

約翰傳第十二章卅一二節ニ曰ク「斯世はいま罪に定めらる斯世の主は
いま逐出さるべし我もし地より擧られなば萬民を引て我に就せん」ト
會テ暗黒世界ノ主權者タリシ惡魔モ主キリストガ十字架上ニ釘セラ
レ給フノ時ニ於テ全然其權力ヲ打破セラレタリキ何ノ法カ能ク其權
力ヲ打破スルヲ得タル此ハ固ヨリ言フ迄モナク三十二節ニ明示セ
ラレタルガ如ク即チ主ガ最後ノ架上ニ上リテ其死ヲ受ケ給フノ時ニ
於テ成就セラレタルモノナリトス蓋シ主ガ其死ヲ受ケ給フノ以前ニ

於テヤ世界ハ恰モ常闇ノ如ク人皆眞神ノ拜スベキヲ知ラズ却テ已ガ手ニ成ルノ偶像ヲ崇ビ拜シ惡魔ハ其權ヲ擅ニシテ世界ノ萬衆其前ニ跪キタリキ當時ニ在リテ獨リ眞神ノ存在ヲ認メ之ニ事フルヲナセルモノ唯一ノ猶太國人アリシノミ然レモ主ガ一度十字架上ニ尊貴ナル其身ヲ捐テ、贖罪ノ大義ヲ顯揚シ給フヤ會テ奴隸ノ境界ニアリシモノ忽チニシテ自由ノ身トナリ罪累ノ繫縛ヲ脱シテ一躍直チニ上帝ノ御許ニ進ミテ其坐下ニ逍遙遊スルヲ得ルニ至リヌ三十一節ニ記サレタル此世ハ今罪ニ定ラル云々ノ文句中ニ於テ吾人ハ特ニ今「テ」フ文字ニ着目スルヲ要ス實ニ主ガ十字架上ニ死シ給ヒタル今ト云フ今コソハ此人類世界ニ一大變革ノ來リタル將サニ特筆スベキノ時ナリトスア、其死ニ由リテ神ノ王國ハ初建セラレタリ世界ノ諸ノ歴史ニ於テ主キリストノ名ガ赫々トシ光耀スル所以ノモノ蓋シ其聖誕ノ爾ク人類ニ慶福ヲ與フルガ爲ニ非ズシテ其十字架上ノ慘死ニアルヤ固ヨリ論ナキナリ吾人ガ既ニ幾度カ繰返セル如ク吾人々類ガ罪累ノ繫縛

ヲ脱シテ自由境裡ニ周旋スルヲ得ル所以ノモノ斷ジテキリストノ言教ノ力ニ由ルニアラズシテ其死ニ由ルヤ明白ナル事實ナリトス主ガ十字架上ノ慘死ハ粗心ニシテ之ヲ一見スルキハ主ガ惡魔ノ勢力ノ爲ニ壓伏セラレ給フタルガ如キノ觀ナキニシモ非ズト雖モソハ固ヨリ謬見ノ甚ダシキ者ニシテキリスト十字架上ノ死コソ全然惡魔ノ勢力ヲ滅ボシタルモノナレ聖徒パウロガ會テ哥林多前書第二章八節ニ「此世の有り之即ち神の秘密たる智慧を識もの一人もあし若し識ば榮の主を十字架に釘ざりしならん」トハ是レ素ヨリ神ノ廣大ナル智能ヲ言ヒ表ハシタルニアラズヤ本節ニ記サレタル此世ノ有司トハ方伯ピラトノ如キ若シクハヘロデノ如キ當時ノ所謂政事上ノ有司ヲ指スニ非ズシテ全ク是レ惡魔及諸ノ鬼ヲ指シタルノ稱呼ニノパウロノ意ニ謂ラク神ハ當初ヨリシテキリストヲ立テ、之ヲ十字架上ニ死セシメ而ノ贖罪ノ大義ヲ成就シ給フノ聖旨ナリキ故ニ若シ惡魔ニシテ神ノ計畫ノ裏ヲカキ主ノ事業ヲ挫カントセバ寧ロ主キリストヲ十字

架上ニ釘セザルコソ其策ノ最モ得タルモノナルベカリキ然ルニ事此ニ出ツルヲナサズシテ主ヲ十字架ニ釘シテ自ラ成功ヲ誇リテ得々タルガ如キ偶以テキリストヲシテ成功セシメタルノミ吾人主ニ至ルヲ得ルニハ主ノ生涯ヲ通シタル慈愛同情及其教訓ハ益ナシ實ニ此ハ主ノ十字架上ノ代贖ニヨリテノミナリトス而シテ此ノ慈愛同情教訓ノ人ヲ救フノカアルモ亦萬人ノ爲メニ死セシ主ノ死ニヨリテノミナリトス此ハ頗ル重要ナル事ニ屬スルヲ以テ吾人ノ細心留意ヲ要スルモノトス吾人ガ誠意ニシテ主ヲ愛スル所以ノモノハ主ガ吾人ヲ愛シ之レガ爲メ其身命ヲ捐テ給ヒシニ由ルニ非ズヤ主ハ曾テ其將サニ濺グベキ血ヲ指シテ此ハ罪ヲ赦サントテ衆人ノ爲ニ流所ノモノ也又衆ノ人ニ代リテ生命ヲ與エソノ贖トナラン爲ナリト宣ヒキ終末ニ又主ハ世ノ爲ニ無限ノ生命ヲ與エンガ爲ニ其自ラ死スルヲノ緊要ナルヲ説キ給ヒケルヲモアリキ

約翰第六章五十一節ニ曰ク「我は天より降りし生るパンなり若し人此

パンを食はば窮なく生べし我與ふるパンは我肉なり世の生命の爲めに我之を賜へん」下同五十三、四節ニ曰ク「イエス曰けるは誠に實に爾曹に告ん若し人の子の肉を食はず其血を飲ざれば爾曹に生命なし我肉を食我血を飲者は永生あり我末の日に之を甦らすべし」下同即チ主ノ死ハ吾人々類ニ無限ノ生命ヲ與フル唯一ノ道ナル哉

人或ハ疑フテ云ハンは是レ贖罪ノ道ナルヤト然リ是レ贖罪唯一ノ道ニシテ此ノ他別ニ救ヒアルヲナシ彼レ猶太人ガキリストノ血ヲ飲ミ其肉ヲ食フ可シ云々ノ説話ヲ聞クニ方リテヤ胸中大ニ怪訝ノ情ヲ懷キタリキ故ニ主ハ彼等ガ竟ニ誤解ニ陥ランヲ恐レテ我肉ヲ食フ可シト云フ者ハ是レ天ヨリ降りシ我靈ヲ受クベシトノ意ニシテ約翰第六章三十五節ニ記サレタル「イエス曰けるは我は生命のパンなり我に就る者は餓す我を信する者は恒に渴くとなし」下同アルガ如キハ主キリストヲ信ズルハ恰モ是レ主ガ許ニ至リ主ノ血肉ヲ飲食スルガ如キト云フ意ニシテ同四十節ニ「凡る子を見て之を信するものは永生を得云々」

ノ如キ或ハ五十一節ニ我ハ天より降りし生るパンなり若人此パンを食ハ窮なく生べシトアルガ如キ皆同一ノ意ヲ述ベラレタルモノナリトス特ニ五十一節ノ言ノ如キハ最モ注意ス可キ語ニシテ主ハ吾人々類ニ無限ノ生命ヲ與アルガ爲ニ必ズトモ其死ヲ見ザルベカラザリキ以上吾人ノ引用セル主ノ說話ハ是レ主ガカペナウンノ會堂ニ於テ語リ給ヒタル所ニシテ主ガ此一場ノ說話ヲ試ミ給フノ前日主ハカペナウンノ向ニ當リタル湖邊ニ於テ唯僅カニ五個ノパント二尾ノ小魚ヲ以テ女ト小兒ヲ除クノ外尙五千人ノ壯夫ニ飽シメ給ヒタルアリキ當時此饗應ニ預リタル人々ハ此ハ必定神ガ約定シ給ヒケル古偉人モ一セノ如キ預言者ナルベシト信ジタルガ故ニ若シ主ニ隨從セバ日々ノ糧ハ造作モナク與ヘラレベキモノナリト思ヒタリキ故ニ彼等ハ主ニ管ニ一回ニ止マラズ日々其ノ食物ノ與ヘラレンコトヲ願ヒタリキ主ハ彼等ニ答ヘテ我ハ此世ノパン我肉ハ爾曹ノ食物なりト宣ヒケリ如此パンナル基督ハ世界ノ萬衆ヲ救フテ無限ノ生命ニ與カラセンガ

爲ニ其身命ヲ捐テ給ヒキ

如斯主ハ最初ニ其死ハ生命ノパンナルコトヲ說示シ給ヒタル後時恰モユダヤ人ノ踰越ノ節ニ邁キ約六〇四居ケレバ其死恰モ彼ノユダヤ人ガ埃及ヲ出ツル時ノ晩ニ羔ノ屠ラレタルニ似タルコトヲ說給ヒキ舊エホバ夜半にエチプトの國中の長子たるものを位に坐するバロの長子より牢獄にある俘虜の長子まで盡く撃給ふに當り出一二〇二九ユダヤ國人ハ一人モ此不幸ニ出會ハザリシ何ガ故ニ彼猶太人ハ其死ヲ免カルコトヲ得タル乎此ハ彼等ガ踰越ノ日ニ當リテ羔ヲ宰シテ其血ヲ門ノ柱ト鴨居ニ塗リ且内ニ在リテハ羔ノ肉ヲ食ヒ偏ニ神命ヲ畏カシコミタルガ故ナルノミ主キリストハ實ニ神ガ昔猶太國人ニ與ヘ給ヒタル羔ニシテ主ガ十字架ニ上リテ其逝ラシメ給ヒタル鮮血ハ恰モ羔ノ血ガ猶太國人ヲ救ヒタルガ如クニ主ヲ信ズルノ徒ヲシテ其罪ヲ赦シ死ヲ逃レテ新生命ト能力トヲ得ルニ至ラシメ給ヒス

るパンなり若人此パンを食は、窮なく生べし云々ノ如キ或ハ我肉を食ひ我血を飲む者は永生あり夫れ我肉は誠の食物又我血は誠の飲物なり云々ノ如キ當時之ヲ傾聽シタルモノ少シモ神會スル所ナクシテ已ミタリキ其後主ガ世ヲ去リ給フノ前夜即チ次ノ踰越節ノ時弟子ヲ集ヘテ晚餐ヲ施シ給フノ時馬太第二十六章以下二十八節ニ至ルニ曰ク彼等食する時イエスパンを取て祝し之をさき弟子に予て曰けるは取て食へ此は我身なり又杯を取て謝し彼等に予て曰けるは爾曹皆此杯より飲め是新約の我血にして罪を赦さんとて衆の人の爲に流所のもの也ト此時ニ至ルマデ弟子ハ其深意ノ啓發ヲ得ザリキ然レモカヘナウンニ於ケル主ノ説話ガ其弟子ニ由テ遺憾ナク解釋セラレタルハ主ノ甦生後神ガ默示セラレタル舊約全書ノ記録ト相對照シテ茲ニ始メテ氷解セラレタリキ主キリストハ恰モ昔時逾越節ニ於ケル羔ガ其血ヲ以テパロ王ノ權下ニ在リテ奴隸ノ境界ニ沈淪セル猶太國人ヲ放テ自由ノ民トナシ其死ヨリ逃レシメタルガ如ク自ラ十字架上ニ鮮血

ヲ濺ギテ衆ノ人ノ罪累ヲ洗滌シ人ヲシテ永遠ノ死ヲ脱シテ無限ノ生命ニ入ラシメ給ヒヌ而シテ其肉ハ其民ノ新キ自由ト幸福アル生命ヲ養フモノトナリヌ故ニ主ガカペナウンノ會堂ニ於テ説カレタル一大説教モ都城エルサレムノ某樓上ニ於テ施コシ給ヒタル聖餐モ等シク是レ主ガ其死ニ由リテ贖罪ノ大業ヲ成就シ給フモノナルヲ教誨セラレタルニ外ナラザル也

主キリストガ十字架上ニ死シ給フノ一事ハ神ガ豫メ定メ給ヒタル事ニシテ蓋シモ一セ會テ曠野ニ在ルノ日蛇ヲ擧ゲタルハ後來キリストガ宛モ其蛇ノ如ク十字架上ニ釘セラレ給フ事ヲ神ガ豫メ示シ給ヒタルモノナリトス實ニ主ガ一度十字架上ニ釘セラレテ贖罪ノ大業ヲ成就シ給フタルノ故ヲ以テキリストノ徒ハ偏ニ永生ノ命ニ與リ得ルノ幸運ヲ望ミ居常怡々トシテ感謝ノ情ニ禁ヘザルナリ爰ヲ以テ苟モ身ヲキリストノ徒ニ伍スル者誰カ奮然トシテ贖罪ノ喜音ヲ宣傳セズシテ可ナランヤ

或場合ニ於ケルキリストノ言教中ニモ尙主ガ犠牲ヲ以テ贖ヲ爲シ給フヲ示シ給ヒタルヲナキニ非ズ則チ馬太第五章十七節「吾律法ト預言者を廢る爲に來れりと意ふ勿れ吾來て之を廢るに非ず成就せん爲なり」トアルガ如キ此ハ全ク律法ト預言者ノ書ニ記サレタル犠牲的贖罪ヲキリストカ成就シ給フベキヲ言ヒ表ハシタルニアラザルナカラシヤ果シテ然ラバ主キリストト犠牲トハ其間如何ナル關係カアル昔時猶太ノ宗教ニ於テ最モ重要ナル一事ハ犠牲ヲ献ジテ赦罪ヲ受クルノヲナリキ此ハ神ガ猶太人ニ與エ玉ヒタル律法ト預言者等ノ書ニ屢々記サレタル所ニ主キリストノ聖誕ニ由リテ茲ニ始メテ成就ヲ見ルニ至リヌ前記ノ節ノ如ク主ハ實ニ此犠牲論ニ對シテ毫モ反對スル所ナカリキ主ハ即チ衆ノ人ノ爲ニ供ヘラレタル犠牲ニシテ是レ吾人々類ノ爲ニ最後ノ犠牲ナリキ如此主已ニ吾人ノ爲ニ犠牲トシテ贖罪ノ大業ヲ遂ゲ給ヒヌ吾人豈ニ何物カ他ニ求ルヲセシ主キリストガ此世ニ降り給フヤ其居所トシテ先ツ猶太ヲ撰ビ給ヒキ

蓋シ猶太ノ地タルヤ古來眞神ヲ禮拜スルノ國柄ニシテ神人ノ關係ハ他ノ國民ニ比シテ一層深キ者アリ去レバ主ハ曾テ神ハ預言者ヲ猶太ニ遣リ其旨ヲ傳ヘシメ且ツ猶太ノ律法ノ如キハ是レ人爲ノモノニ非ズシテ神ガ特ニ猶太國民ニ與ヘ給ヒシモノナルヲ語リ給ヒキ而シテ當時神ノ宮殿トシテ存在シツル者ハ首都エルサレムニ唯一ノ宮殿アルノミニシテ主キリストハ此ハ我父ノ家ナリト宣ヒキ主キリストハ祭ノ日ニ當テハ宮殿ニ詣デ、其日ヲ守ルヲ爲シ給ヘリ或時主ハ癩病人ヲ癒シ給ヒシガ主ハ彼ニ向ヒテ汝宮殿ニ詣テ祭司ニ行キテ病ノ癒ヘシヲ見セ且モ一セノ律法ニ從ヒテ犠牲ヲ献グルヲセヨト命ジ給ヒキ實ニ主ガ天ヨリ降りテ生ヲ塵世ニ稟ケ給フタル所以ノモノ豈律法ト預言者トノ教訓ヲ成就スルガ爲メニアラザランヤ吾人ハ確カニ猶太國人ノ犠牲ハキリストニ於テ大成セラレタルモノナルヲ信ズ

古來猶太國ニ於テ幾多禮典格式ノ存スルガ中特ニ犠牲ノ一事ハ最モ

尊重セラレタル所ノモノナリキ故ニ犠牲ハ特ニ選拔セラレタル祭司等ガ掌ル所ニシテ其禮典ノ細目ハ委サニ舊約書中ニ記サレタリ犠牲ヲ献ズルノ理由ハ多々之レアリト雖_レ凡_レ之ヲ例スルニ吾人ガ其心靈ヲ全ク神ニ委任スル時ノ如キ或ハ新ニ神ト偕ニ居ラントノ約ヲ立ツルノ時ノ如キ或ハ感謝ノ意ヲ表センガ爲メニ或ハ法律違犯ノ罪過ヲ償ハンガ爲メニ之ヲ献スルヲ爲シタリキ特ニ吾人ガ罪過ヲ償ハンガ爲メニ献グル犠牲ノ方法ナルモノハ豫メ犠牲トスベキモノヲ撰ビ之ヲ携ヘテ祭司ノ許ニ抵リ靜ニ赦罪ノ恩典ヲ待ツ祭司ハ之ヲ献者ノ手ヨリ受取リテ神ニ献ゲ其罪ノ赦ヲ受クルヲナシタリキ爰ヲ以テ犠牲ヲ献ズルノトト赦罪ノ關係トハ明白一時ニ直接ニ知ルヲ得ルニ至リキ而シテ這般ノトハ利未記第四章ニアリテ仔細ニ録サレタリ特ニ第四章末節ニ「斯祭司彼の犯せる罪の爲めに贖をなすべし然せば彼は赦されん」ト記サレタルガ如キ其關係ヲ最モ明白ニ道破シタルモノニ非ズヤユダヤノ律法ヲ案ズルニ神ノ定メ給ヒタル十誡ヲ犯シタル罪ノ

赦ノ爲メニハ何等ノ規定サヘナク犠牲ノ制ノ如キ更ニ之レナシト雖_レ凡_レ然モ毎年一度赦罪ノ爲メニ犠牲ヲ献スルノ制アリキ當日ハ是レ一般國民ガ祭司ノ長ニ頼リテ罪ノ懺悔ヲ爲スノ日ナリシ利未記第十六章三十四節ニ曰ク是汝等ガ永ク守ルベキ例ニシテイスラエルノ人民ノ諸ノ罪ノ爲ニ年ニ一度贖罪ヲナス者也ト然レ_レ如此ハ是レ眞實ナル贖罪ニ非ラズシテ唯是レ模型タルニ過ギザルノミ故ニユダヤ國人ハ敢テ之ニ満足スルヲナク完全無缺ナル犠牲ノ彼等ガ爲ニ供ヘラレシト切望シタリキ當時ユダヤ人ノ腦中ニハ赦罪ノ犠牲ヲ献ズルノ切要ヲ感スルノ念深ク刻マレタルノ故ヲ以テ雷ニ彼等ハ年ニ一度贖罪ノ祭ヲ執リ行フノ外毎月々首ニ於テ或ハ其三大節ニ於テ赦罪ノ犠牲ヲ献ズルヲナシタリキ故ニキリスト時代ノユダヤ人ハ赦罪ノ爲メニ犠牲ヲ献スルノ必要ヲ感スルヲ最モ深刻ナルモノアリシ也今之ヲ左ノ章句ニ徴センカ希伯來第九章二十二節ニ曰ク「血を流すこと有らざれば赦さるゝ事なし」ト同十章第十八節ニ曰ク「既に此等即ち罪

と惡の赦めらんには復罪の爲めに献ると無るべし」下同九章二十八節ニ曰ク「如此キリストも多の人の罪を負んが爲に一度犠牲とせらる」下同十章十二節ニ曰ク「然れど此人即キリストハ一次罪の爲に一の犠牲を献て窮なく神の右に坐し云々」下是皆ユダヤ人ノ思想ニ赦罪ハ必ず犠牲ニヨラザル可カラザルノ深ク浸潤シ居ルモノニアラザルカ若夫レ然ラズンバ何ゾ如此屢筆ヲ此ニ染ムルノ要アラシヤ元來ユダヤ人ハ神ニ犠牲ヲ献グルニヨリテ赦罪ハ得ラル可キモノナルヲ考へ居タリキ此ハ素ヨリ當然ニシテ事實然ルベキヲ信ズ主キリストハ此事ニ關シテ嘗テ宣ヘルヲアリキ即チ其死ニヨリテ神人類ノ罪ヲ赦シテ無限ノ生命ニ入ラシメ給フモノナルヲ若然ラズシテ犠牲ハ到底人類ニ赦罪ヲ與フル權ナキモノトセバ主ハ彼バリサイ人ニ向テモ犠牲論ニ付キ彼等ノ誤謬ヲ是正シ更ニ教へ給フ所アルベカリシナリ或時使徒等食事ヲナセルノ折柄其前ニ手ヲ洗フヲナサズシテ箸ヲ執リタリキ學者トバリサイノ人々ハ此ノ光景ヲ目撃シ其古例ニ乖ル

ノ所爲ナルヲ嚴シク詰問シ始メヌ主キリストハ此時ニ當リテ敢テ使徒等ヲ譴責シ給フヲナク之ヲ機トシテ却テ宗教上ノ最大緊要事ヲ道破シ給ヒヌ素ヨリ食事ノ前ニ當リテ先ヅ其手ヲ洗フガ如キ万事情潔ヲ尊重スルハ事頗ル善習トシテ稱スベキヲナリト雖モ此事宗教上ノ禮式ニ取リテハ何等ノ關係ヲ有スルモノニ非ザルナリ故ニ主ハ馬可第七章十三節ニ於テ「斯爾曹ハ其教ふる所の遺傳をもて神の道を廢らす又多ク此類の事を行ふ」下コソハ譴メラレキ如斯主ハ彼等ガ懐ケル誤謬ニ對シテハ寸毫モ假ストヲナサズノ其誤謬ヲ正ストヲ爲シ給ヒキ或ハ之ヲバリサイノ徒ガ安息日ノ守法トキリストノ守法トノ相違ノ點ニ見ンモ復此間ノ消息ヲ解スルニ余師アラシカ主ハ實ニバリサイ人等ノ遺傳ニ反シテ安息日ニモ尙不思議ノ行爲ヲ爲シ或ハ屢病者ヲ癒ストヲ爲シ給ヒキ主ガ曾テエルサレムナルベテズダノ池ニ於テ癱瘋ヲ病メル人ヲ癒シ給フヤ恰モ是レ安息日ニシテバリサイノ徒ガ主張セル安息日論ノ立脚地ヨリスレバ將ニ是レ違法ノ所爲ナルヲ以

テバリサイノ徒并ニ有司等ハ之ヲ見テ勃然トシテ怒リ無法ニモ主ヲ
 殺害センコトヲ相約スルニ至リヌ約翰第五章十六節ニ曰ク是に於てユ
 ダヤ人イエスを窘迫て殺さんと謀る蓋彼が此事をせしは安息日なり
 ければ也ト言フ迄モナク此ハキリストガ彼等ガ安息日ノ精神ヲ誤解
 シ屑々トシテ末節ニ流レ枝葉ヲ逐フテ走ルノ謬ヲ正シ之ヲ嚴譴シ給
 フタルニ起因セズンバアラザル也若夫此筆法ヨリノ論及セバ主ガ犧
 牲論ニ關シテモ亦銳刃ヲ揮ヒ給フベキハ將ニ期ス可キノコニアラザ
 ルカ何トナレバ犠牲論ハ人類ニ對シテ至大ノ關係ヲ有スルモノナレ
 バナリ人或ハ曰ハン若シ人類ノ罪過ニシテ唯タ一ケノ贖罪法ニヨリ
 赦免セラル、モノナリトセバ是レ神ノ榮光ヲ無視シ神ヲ不義ナルモ
 ノトナシ且ツ人智ヲ以テ廣大ナル神ノ教ヲ曲グルノ嫌アルニアラザ
 ルカト然レモ若シ此犠牲論ニシテ首尾毫毛ノ理ナキモノナリセバ彼
 バリサイヤ教法師ヲ捉ヘテ斷々トシテ譴メ給ヒタル主キリストハ何
 ズ特ニ此ノ場合ニ於テノミ獨リ黙止シ給フノ理アルベキヤ試ニ四福

音書ヲ把テ之ヲ看ヨ主ハ嘗テ赦罪ノ爲メ犠牲ヲ献スルノ非理ナルコ
 トヲ説破セラレタルトコロアリヤ吾人未ダ之ヲ見出スヲ得ザル也
 主ガ始メテ公然教ヲ説キ給フノ當初バブテスマノヨハ子ハキリスト
 ノ行キ給フヲ見テ世ノ罪ヲ負フ神ノ羔ヲ觀ヨトハ云ヒキ即チ彼ハ主
 ヲ目シテ罪ノ犠牲トハナシタリキ然レモ主ハ當時ヨハ子ノ言ヲ不當
 ナリトシテ之ヲ咎メ給フタルコアルコトナシ主ハ確カニ往古以來預言
 者等ガ世々言傳ヘケル預言ヲ成就センガ爲メニ聖誕マシマシキ而シテ
 彼ノ預言者等ガ傳ヘタル教ノ中ニ於テ犠牲的贖罪法ナルモノハ屢説
 カレタル所ナリキ嗚呼主イエスキリスト彼ハ實ニ吾人ノ正ニ頼ルベ
 キノ贖主ナリトス
 主ハ此世ニ在給フノ時人々ニ教示スラクモーセノ律法ダビデノ詩篇
 及預言者ノ書ハ皆是レ自己ニツケル預言ヲ書キ記ルシタルモノナリ
 ト路加第二十四章四十四節ニ曰ク彼等に曰けるはモーセノ例預言者
 の書又詩の篇に録されたる我事につく凡の言の必らず應べきは我も

と爾曹と偕に在しとき語れる所なり」ト同四十六、七節ニ曰ク「如此キリストハ苦難を受け第三日に死より甦るべし又其名に託て悔改と赦罪ハエルサレムより始まり萬國の民に宣傳られん」ト又主ハ其死ニ就キ給フノ前日以賽亞第五十三章ヲ引用シ我ハ恰モ此書ニ記サレタルガ如クニ死ニ賣サルベシト豫メ其最後ヲ告ゲ給ヒキ路加第二十二章三十七節ニ曰ク「我爾曹に告ん彼は罪人の中に算られて有しと録されたる此言は我に於て應らるべし」ト此ハ以賽亞第五十三章十二節ニ預言セラレタル言ニシテ如何ニシテ此預言ハ遂ゲラレタルカ看ヨ主ハ二人ノ盜賊ト共ニ十字架ニ釘セラレ其刑罰ヲ受ケ恰モ符ヲ合スルカ如クニ其預言ヲ成就シ給ヒキイザヤハ其書ニ於テ盡クキリストニ就ケル預言ヲ記シタリ第五十三章ニ於テ何人カ人類ノ罪ト愆ノ爲ニ苦ヲ受ケ死セサルベカラザルノ義ヲ記ルシアリ吾人ハ誰ヲ指シテ果シテソノ何人ナリト云フヲ得ベキカ吾人ハ唯ダ主キリストヲ指シテ其所謂何人ナルヲ確言ス去レバコソ主ハ「我ハ善牧者なり善牧者ハ羊の爲

に命を捐つ」トハ宣ヒキ或ハ人其友の爲に命を捐つ之より大なる愛はなし」ト云給ヒキ預言者イザヤ曰ク「エホバの僕は吾儕の愆の爲に傷けられ吾儕の不義の爲に碎かれ自から懲罰を受けて吾儕に平安を與ふ」(五三〇五)其の代の人の内誰か彼れが治るもの、地より絶れしことを思ひたりしや彼ハ吾民の愆の爲に撃たれしなり(八)ト主ハ又曾テ「我の此世に降るは多の人に代りて命を與へ其贖とあらん爲なり」ト宣ヒキ(太二〇〇二八)イザヤ又曰ク「誠に彼即ちエホバの僕は我等の病患ひ負ひ我等の悲を擔へり(四)その撃たれし痕に由りて吾儕は癒されたり(五)トバプテスマ、ヨハチキリストヲ指シテ曰ク「世の罪を任ふ神の羔を見よ」トイサヤ又曰ク「エホバハ彼れの靈魂愆の献物をなすに至る」(一〇)ト主ガ其弟子ニ宣ヒケル語ニ曰ク「我血ハ人々の罪を赦るす爲めに流がす所のものなり」トイサヤ又曰ク「吾儕ハ皆羊の如く迷ひて各、己が道に向ひゆけり然るにエホバハ吾儕凡てのもの、不義を彼れの上に置たまへり(六)彼ハ多の人の罪を負ひ給へり(一二)わが義き僕はその智識に

よりにて多くの人を義とし又彼等の不義を負はん(二)ト由是觀之イザヤノ預言ハ主イエスキリストガソノ人間ノ罪ヲ贖ヒ給フニツキソノ苦楚ヲ嘗メ給フヲ語り給ヒタル聖語ト一致スルヲ符ヲ合スルガ如シ取モ直サズキリストノ死ハイザヤノ預言ニ適應シタルモノナリトス主ガ我レ罪ノ人ノ爲ニ死スト宣ヘル言ヲ約シテ更ニ之ヲ左ノ數條ニ列シンカ

第一主キリストノ死ハ其起因スル所主ガユダヤ國人ノ風習ニ乖キ彼等ノ思想ニ反抗シ給ヒシガ爲メ自ラ招キ給ヒタル所ニアラザルヲ

第二主キリストハ自ラ甘ジテ死ニ就キ給ヒシヲ

第三主キリスト降世ノ理由ノ一ハ其身命ヲ擲テ人ヲ救ハンガ爲メナルヲ

第四主キリストヲ信スル者ハ主ノ死ニ由リ其罪ヲ赦サル、ニ至リ且ツ主ハ共死ニヨリテ諸ノ人ニ主トナリ給ヒシヲ

第五主キリストハバブテスマ、ヨハ子ガ主ノ行ルキ給ヘルヲ觀テ世ノ

罪ヲ負フ神ノ羔ヲ觀ヨト告白セルノ時之ヲ許容シ給ヒシヲ又逾越節ニ於ケル犠牲ノ羔ト主ノ死ノ間ニハ深甚ノ關係アリト言ヒ給ヒシヲ

第六主キリストハソノ死スルハ他人ノ爲メ即チ衆ノ人ノ贖罪ノ爲メナリト言ヒ給ヒシヲ

第七主キリストハ其ノ三年六ヶ月ノ傳道期中ニ於テ其死ノ刻々相迫マリ來ルヲ思念シ給フノ時尋常ナラヌ恐懼ヲ懷キ給ヒシヲ而シテ主カ悲惨ノ極點トモ云フベキハ十字架上ニ於テ神ガキリストヲ遺テ給フニ當リ與義アル悲ノ極ミ彼ヲシテ我神々々何ゾ我ヲ棄給フヤト絶叫セシメシ時ニアリシヲ

以上開陳セル條々ハ主ガ何等ノ目的ヲ以テ其死ヲ遂ゲ給ヒシカヲ説明スルニ於テ十分ナリト信ズ吾人聖公會ノ信徒ハ千有八百年ノ間未ダ會テ渝ルヲナク主ノ死ハ全ク人類ノ罪過ヲ贖フノ爲ニシテ其苦ト其死トハ凡テ之ヲ信ズル者ノ赦罪ニ於テ十分ナル者ナルヲ信ズ四福音書ニ記サレタルキリストノ言教中ニ贖罪ノ教理ハ最モ明白ニ顯ハ

サレタリキ故ニキリストノ教會ハ其始ヨリ今日ニ至ル長日月間心ヨリ其罪ヲ悔改ムルノ人ヲシテ救ノ望ヲ與ヘシメタリキ此ハ是レ人生喜樂ノ根元ニハアラザルカ故ニ吾人ハ生涯ヲ通シテ此希望ト喜樂トヲ有スルモノナラズンバアルベカラズ而シテ苟モ主ノ福音ヲ宣傳セシ者ハ須ラク先ヅ贖罪ノ大義ヲ掲ゲテ之ヲ宣傳スルニ忠勤ナルベキナリ

有名ナル神學士ジヤウエツト其贖罪ト挽回テフ論文中主イエスキリストノ教中贖罪ノ教理ニツキ明白ナル語句ナキヲ論ジテ曰ク福音ヲ説示スルニハ主キリストノ言ヨリ一層真正ナル語ナシ且ツキリストノ言ニアラザルモノハ福音ニ必要ナリトハ思惟難シ凡ソ弟子ハ師ヨリ優ラズ僕ハ主ヨリ優ラサル也(太一〇〇二四)トアル如クプラトノ弟子ハプラトノ哲學ヲ其師プラトヨリ一層ヨク了解セザル如クキリストノ福音ヲ使徒等ノ書簡ニ由テ説明スルハ不可ナリキリストノ山上ノ説教ハキリスト教ノ半バノミナルヲ以テ之ヲ完成スル爲ニ聖パウロ

及ビ布伯來書記者ノ默示ヲ要ストハ亦思惟難キトコロナリト然レモ此論中プラトニ就キ大ナル錯誤アリ即チ主イエスキリストトソノ使徒トノ關係ハプラトトソノ弟子トノ關係ニ大差アリプラトハ其教ヲ以テ人間ノ道德ト智識ヲ増進セシムルハ其話中ニ含有シアルト雖モ主キリストガ人間ニ對シ神ノ性質ヲ彰ハシ玉フハ主キリストノ言ノミナラズキリストノ洪大ナル性質及ヒ諸種ノ人々トノ關係困苦ニ在ルモノヲ助ケン爲メ行ヒ給フタル奇跡及ヒ自己ヲ受苦ニ委テ給フトニ由テナリトス次ニ主イエスキリストノ語中贖罪ヲ指示スルノ節ナシトスルハ亦誤ナリ贖罪ノ事實ハ主キリストノ教即チ主ノ言行ニ由テ明示セラレタル者ナルハ前述ノ論ヲ以テ明白ナリ最後ニ四福音書ト書簡ノ關係ニ就キテハ書簡中ニ記サレタル教理ハ聖靈ナル神ノ語ニシテ四福音書ニ記サレタル聖子ナル神、主キリストノ語ト同一ニ信仰セララルヘキ權能ヲ有スル者ナリトス然レモ聖公會ノ贖罪ヲ信仰スルニ充分ナル理由ハ只主イエスキリストノ聖語ノミナリトス

贖
罪
論

第
四
章

主耶蘇基督贖罪論

第四章 贖罪ノ事實ニ關シ聖彼得ノ證明

彼即ち基督木の上に懸りて我儕の罪を自ら己が身に任ひ給へり
吾人ハ今進ンデ贖罪ノ事實ニ付キ聖徒彼得ノ證明ヲ問フニ當リ先ツ
之レヲ使徒行傳第二章ヨリ第十章迄ノ間及彼得前書ニ於テ之ヲ見出
サントス若シ以上ノ兩書ヲ把テ交互相比シテ仔細ニ讀ミモテ行カバ
釋然トシテ主基督ハ何ノ爲ニ死シ給ヘルカノ明白ナル理由ヲ解スル
ヲ得ン然レモ古來贖罪論ニ付キテハ一二神學者間ニ異論ナキニシモ
アラズ或ハ贖罪說ハ不合理ノ教理ニシテ是レ全ク神ノ正義ヲ無視ス
ルモノナリト或ハ主基督ノ教ハ是レ固ヨリ神ノ教ニシテ其間寸分ノ
疑ヲ插ムベキナシト雖モ彼レ使徒等ノ說ク所ニ至テハ徹頭徹尾信ヲ
措クニ足ルベキモノト言フヲ得ズ何トナレハ彼等モ均シク是レ孱弱
ナル人性ヲ稟ケシモノニシテ素ヨリ不完全ナルヲ免カレサルヘキヲ

以テ也ト然レモ此等ノ異論ハ固ヨリ取ルニ足ラザルノ僻論ニシテ吾人ハ此等ノ僻論ニ對シテ最モ堅固ナル一ケノ循ヲ有ス即チ新約全書ハ神ノ默示ニヨリテ録サレタルモノニシテ其記者ノペテロ、パウロ、ヤコブ、ヨハ子、タルハ固ヨリ問フベキニ非ザルト是レ也何トナレバ彼等ハ皆聖靈ノ默示ヲ受ケテ其筆ヲ執リタルモノナレバ也故ニ彼等ノ言フ所ハ即チ是レ聖靈ノ言ニシテ聖書ハ神ノ聖旨ノ載セラレタル唯一ノ書冊ナリ而シテ神若シ其自ラ言フ所ヲ復自ラ否定スルトヲ得ザルモノナリトセバ神ノ示シ給ヒタル教理ト其至純ナル性質トハ相容ル、モノナルト疑ノ存スベキモノアルナシ

或ハ言フ神ノ完全ナル聖旨ノ點ヨリシテ見來ル時ハ罪ハ特ニ贖ヲ要スルトナクシテ赦サル、ガ故ニ贖罪ハ神ノ聖旨ニ合フモノニ非ズト然レモ此ハ全ク罪ヲ贖フ者アルニアラズンバ例令人ハ其罪ヲ悔改スルトアリトスルモ赦罪ノ恩典ニ與ルトヲ得ザルトノ聖書ノ明文ヲ無視シタル謬論ニシテ聖書ニ記サレタル罪ヲ犯セシモノハ死スベシト

ノ言ヲ忘却シ去リタルモノニ非ズヤ爰ヲ以テ神若シ悔改ヲ赦罪ノ條件トナシ給フモノトセバ神コソハ不正ニ陥リ給フニハ非ザルカ然レモ神ハ全ク正義ニシテ亦自ラヲ否定スルトヲモ爲シ給ハザル也實ニ人ノ罪ノ赦ヲ得ンガ爲ニハ罪ナキモノ一人罪アル人類ニ代リテ死セザルヲ得ザル也

然レモ贖罪ノ道ニ由ラズンバ神人類ノ罪ヲ赦シ給ハザルトノ如キ若クハ神ガ無罪ノ者ヲ立テ、罪人ニ代シムト云フガ如キ教理ニ付キテハ是レ容易ニ首肯シ難キノ說ナリトスト去レハ此ル論者ハ四福音書ニ記サレタル贖罪ノ教理ヲ疑フコトヲナス而シテ其理由トスル所ハ四福音書ニ載セラレタル贖罪ノ教理ハ是レ全ク使徒時代ノ後漸々ニシテ書キ加ヘラレタル所ニシテ後人ノ作ニ係ル者ナリトス若シ又右ノ理由ナラズトセバ福音傳ノ記者等ガ其腦中ヨリ描キ出セル一ケノ假說ナランノミト加之彼等ハ尙ホ贖罪ノ教理ハ神ノ正義ト慈愛ノ性質ニ矛盾シ且ツ人類ノ道德的精神ニ相反スルモノナリトシテ論難ス然

レモ吾人ハ今此等ノ難者ニ向ヒテ一々其誤謬ヲ指摘スルヲナサバ
 ル可シ何トナレバ若シ少シク聖書ニ就テ研究ヲ試ンモノハ其ノ所論
 ノ誤謬ナルヲハ自ラニシテ明白ナルベケレバナリ然モ吾人ガ茲ニ注
 意ス可キハ立論ノ根據ヲ聖書ニ取リテ贖罪ノ教理ヲ難ズルノ徒アル
 コト是也是レ吾人ノ寬假スベカザル所ノモノナリトス
 其說ニ曰ク基督ハ固ヨリ神ノ愛子ニシテ其ノ言ハ直ニ是レ神ノ言其
 ノ思想ハ即チ是レ神ノ思想ナリト云フヲ得可シト雖モ使徒ニ至テハ
 毫モ吾人ト異ナルナキ不完全ナル人物ニシテ自家ノ語リタル思想ト
 其時代ニ流通セル誤謬ノ說ヲ混同シテ之レヲ聖靈ノ默示ニ據レル言
 中ニ書キ加フルコトヲ爲セルガ故ニ贖罪論トテモ等シク其誤謬ヲ免
 カル、ヲ得ザリシナリト而シテ彼等ハ全然主キリストノ言ト使徒等
 ノ言ノ間ニ區別ヲ立テタリシナリ然レモ吾人ハ此點ニ付キ特ニ注意
 ヲ要ス蓋シ誠意ニシテ贖罪ノ教理ヲ考究センカ其人若シ眞神ヲ信ズ
 ルノ人ナリセバ之ヲ容ル、トニ於テ多クノ困難ヲ見ザル可シ然モ尙

之ヲ信ズルヲ得ズトセバ其奉ズル宗教ニ於テ多大ノ相違アリトセ
 ザルヲ得ズ故ニ贖罪ノ教理ヲ信ズルト否トニ由リ更ニ其宗教ニモ相
 違ヲ來タスハ理ニ於テ免カレサルノ所ナリトス如此既ニ互ニ相異リ
 タル信仰ヲ懷テ其所信ヲ張ラントス宗教上議論ノ調和ヲ得ザルモノ
 亦已ムヲ得ザルナリ

若シ論者ノ言フガ如ク使徒等ハ基督ノ教ニ付キ造詣スル處甚深カリ
 シト雖モ獨リ贖罪ノ教理ニ至テハ其書キ記シタル所悉ク誤謬ナリセ
 バ主キリストハ確カニ是レ不完全ナル師ナリキト言ハザルヲ得ズ然
 レモ試ニ使徒等ニ就テ之ヲ見ヨ彼等ハ主キリストニ親炙シ其ノ教ニ
 由リテ神ノ性質ヲ明カニシ且之ヲ人々ニ傳ヘタリ贖罪ノコトニ付テモ
 彼等ハ大ニ考究スル所アリシヤ疑ヲ存ス可ラズ然ルニ何カ故ニ僅々
 タル歲月ノ間ニ此ル大ナル誤謬ヲ生スルニハ至リタルカ吾人ハ容易
 ニ之ヲ信スルヲ得サル也實ニ贖罪ノ教理コソ正義ニシテ且ツ慈愛
 ナル神ノ性質ニ適合シ吾人ノ道德的性情ヲ満足セシムルモノナリト

ス
吾人ハ斷シテ主キリストノ教理ト使徒等ノ説キタル教理トノ間ニ區別ヲ置クヲ能クセザル也主ハ曾テ使徒等ニ命シテ曰ヒ給ヒケルハ「又其名(キリスト)に託て悔改じ赦罪はエルサレムより始まり萬國の民に宣へ傳へられん」(路加第二十四章四十七節)此クテ彼等ハ其命セラレタルガ儘ニ贖罪ノ福音ヲ到處ニ宣傳ナシタリキ而シテ此ハ確ニ主キリストヨリ授カリタルニ相違ナキナリ看ヨ彼等説ク所ハ悉ク皆丹心其罪ヲ悔改ムルヲナシタルノ徒ハ主ノ死ノ功ニヨリテ罪ノ赦ヲ受クルモノナルヲ骨子トシテ説キタルモノニ非ズヤ而シテ彼等ノ思想ノ源泉ハ皆キリストヨリ發生セルモノナリトス若シ贖罪ノ教理ヲ拒ムトセバ是レ取モ直サズキリストノ教ニ反對ヲ試ムルモノナリト云フ可キナリ故ニ苟モ主キリストヲ信センモノハ亦是レト共ニ此教理ヲ信受スルヲナス可キ也
偕本論ヲ進ムルニ方テ吾人ハ敢テ聖書默示論ヲ説クヲ要セサルベシ

何トナレバキリストノ教理ハ吾人々類ニ取リテ貼切ニシテ且ツ肝要ナル事實ニツキ教ユルモノニシテ其教理ハ永久不變ノモノタルベキヲ以テ也即主キリストハ十字架ニ死シ且ツ葬ラレ三日目ニ甦リ給ヒキ其世ニ在ルヤ多ノ不思議ナル業ヲ行ヒ又屢々人ニ告ゲテ我ハ神ノ遣ハシ給ヘル師ナリト宣ベ或ハ神ハ我父ニシテ我ハ其獨生子也ト仰セ給ヒ又或ハ罪ハ人ヲ滅亡ニ陥ラシムルモノナルガ故ニ天國ニ入ルベキモノ、必要ナル條件ハコノ罪ヲ悔改メ新生命ト新性質トヲ受ク可キヲ以テシ或ハ人ハ唯主キリストヲ信ズルニ由リ赦罪ノ恩典ニ與カリ永死ヲ脱シテ無限ノ生命ヲ得ヘキヲ教ヘ此外別ニ救拯ノ道ナキヲ教示サレキ而シテ上來陳ベ來リタル此等ノ教理ハ主ノ説キ給フ所ノモノト使徒等ノ説ク所ニ於テ其間更ニ異點ヲ發見スルヲ得ズ何トナレバ使徒等ノ説ク所ハ是レ主ニ由リテ學ビ得タル所ノモノナレバナリ爰ヲ以テ吾人ハ爰キニ既ニ言ヘルガ如ク特ニ聖書默示論ヲ説クノ要ヲ見ザルナリ之ヲ要スルニ赦罪ハ偏ニ主キリストノ死ニ由ルモ

トス
ノニシテ即チ是レ新約全書ガ吾人ニ教ユル所ノ贖罪唯一ノ道途ナリ

吾人ハ今使徒行傳第二章以下十章ニ至ルノ間ニ於ケル聖徒彼得ノ説教ニ付キ少シク語ル所アラントス彼得ノ第一ニ語リタル説教ハペンテコステ^ア日ニ當リテ宗教熱心家ニシテ各々言語ヲ異ニセル諸州ノ猶太人ニ向ヒテ爲サレタル所ノモノナリトス第二ハ宮殿ノ美ト名ツケラレタル門ニ於テ人ノ情ヲ求メケル跛ヲ癒セル時ソロモンノ廊ト名ル所ニ群カリ來リテ駭ノ目ヲモテ見守レル聽衆ニ向ヒテ爲サレタルモノ第三ハ祭司ノ長ノ判庭ニ於テ爲サレタルモノ而シテ第四ハ主ノ教ヲ傳ヘタルノ故ヲ以テ訴エラレタルキ同シク判庭ニ於テ爲サレタルモノ蓋シ是レ道ノ爲メニ訴エラレタル第二回目ナリシ也第五ハコルチリオ及ビ彼ガ家族ニ對シテ爲レタルモノ是レナリトス而シテ以上五回ノ説教ハ基督ニ付キテ證ヲナサング爲メ特ニ未信者ニ向ヒテ爲レタルモノナリ而シテ其價值ニ至テハ果シテ其何レカヲ兄弟ト

セン彼即チ説テ曰クナザレより出たるイエスは爾曹即ち猶太人の善く知る如く是れ神基督によりて爾曹の中に行ひし妙なる能力と奇跡と休徴とを以て爾曹に證かし給へる所の人^{二〇二二、一〇〇三八}ニシテ^二彼はモーセ以下多の預言者に由りて示されたる所の基督なり^二〇三〇—^{三六}彼得ハ更ニ其論歩ヲ進メテ曰クユダヤ人及彼等ノ祖先ハ數百年間主キリストノ降誕ヲ待望セシニモ拘ハラズ主ガ一度此世ニ現ハレ給フヤ日頃ノ希望ヲ打捨テ、却テ其過チニヨリ彼ヲ十字架上ニ掛ケテ大罪ヲ犯カスニ至リキ然レモ神ハ主ヲ墓ニ棄テ置キ給ハズ三日ノ後之ヲ死ヨリ甦ラセ天ニ昇リテ神ノ右ニ坐セシメ之ヲ尊メテ世界ノ王トナシ諸ノ人ノ主トナシ救主トシテ之ニ審判ノ權威ヲ與ヘ給ヒキサレバ吾人々類ハ速カニ其曾テ主ヲ棄テ、顧ミザリシ罪ヲ悔改シ主ノ聖名ニ由テ聖洗ノ禮ヲ領シ萬事ヲ主ノ權威ニ任カセ其救ヒヲ全フセンガ爲ニキリストニ信賴スベキモノナリトス若シ悔改テ主イエスヲ信セバ罪ノ赦ヲ受ケ常ニ聖靈ヲシテ吾等ノ心裏ニ宿ラシ

メザル可ラズ我儕に此外救ひなし蓋天下の人の内我儕の依り頼みて救はるべき外の名を賜はざればなり徒四〇一二此ハ彼得ガ五ケノ説教中ニ説キタル最肝要ノ點ナリトス今五ケノ説教ニ付テ委シク其内容ヲ窺フニ其説教中主イエスキリストガ其ノ十字架上ニ受給フタル苦ト死ニ由テ人間ノ罪ヲ贖ヒ神ノ義ニ對シ挽回ノ献物トナリ又罪人ノ爲メニ赦シヲ受クルヲ得ルヲ付キテハ一言ノ之ニ及ブナシ何ヲ以テ彼得ハ此ル大切ナル教義ニ就キテ語ルヲナカリシカ惟フニ是レ彼ガコルネリオト其家族ニ向テ爲タルノ外悉ク皆ユダヤ人及有司等ニ對シテ説キタルモノニ係ルガ故ニハアラザルカ彼レユダヤ人及有司等ハ此説教ノ前二ヶ月ニ於テキリストヲ捕ヘテ之ヲ死ニ解タシキ而シテ彼等ガ主ヲ十字架ニ釘スルニ至リシハ主キリストガ自カラ詐テ神ノ子トナセシト誤解セシニ起因ス若シ彼得ノ説ク所ニシテ如此既ニ先入ノ誤想ヲ懷キ居ル者ニ向ヒテ神ノ恩惠ヲ論ジ主ノ死ハ人類ノ罪ヲ贖ハンガ爲メナリトセバ彼レユダヤ人等ハ遂ニ其語ヲ解スル

ヲナクシテ已ミナンノミ此ル理由ヲ以テ彼ハ主キリストヲ殺スノ畏ルベキ大罪ナルヲ痛論シユダヤ人ヲシテ大ニ其罪ヲ悟ラシメントセリ故ニ使徒行傳第二章二十三節ニ曰ク此人は即ち神の定めし旨と豫しめ知り給ふ所に合ひて解たさる汝等は無法の手を以て之を捕へ十字架に釘けて殺せり下同ク三十六節ニ曰ク汝等が十字架に釘けし此イエスを立て、神は之を主となし基督となし給ひしとを確かに知れト同シク第三章十四、五節ニ曰ク爾曹は聖者義者(即チキリスト)を拒み人を殺せしもの(即チバラバ)を己れに與へられんとを求め且生命の主を殺せり神は之を死より甦せ給へりト又第五章三十節ニ曰ク我等の先祖の神は汝等が木に懸けて殺し、所のイエスを甦せ給へりト此等諸節の前後ヲ一考シ來レバ彼得ハ十字架上ノキリストヲ説テ聞ク者ヲシテ其心ニ我ハ大罪ヲ犯シタル者ナリトノ念慮ヲ惹起シ大ニ畏怖警醒ノ情ヲ起サシメタリキ彼ハ五回ノ説教中固ヨリキリストノ死ニ由リテ人ノ罪ハ赦サルベキヲ告シトハ雖モ然モ主ノ死ト赦罪ノ關係

ニ付キテハ少シモ語ル所アラザリシ也試ニ第二章三十八節ヲ見ヨ彼
 得彼等に云けるは汝等各悔改めて罪の赦しを得んが爲にイエスキ
 ストの名に由りて洗禮を受けよ然らば汝等も聖靈の賜を受く可しト
 又第三章十八、九節ニ然れども神は凡の預言者の口によりてキリス
 トの苦を受くるとを豫示し其とを斯く合せ給へり此故に汝等罪を悔
 心を改めて其罪を消さるゝとをせよト又第五章三十、三十一節ニ我等
 の先祖の神は汝等が木に懸けて殺せし所のイエスを甦せ給へり神は
 之を君とし救主として其の右の方に擧ぐこれイストラエルに悔改めど
 罪の救を與へんが爲也ト此等ノ諸節ヲ見バ彼得ハ明白ニ主キリス
 トノ死ヲ信ズル者ハ赦罪ノ恩典ニ與カル可キヲ語リタル也故ニ主キ
 ストヲ信ゼシ者ハ亦永遠ノ赦拯ニ入ル可キモノトス彼等ハ主ヲ十字
 架ニ釘スル大罪ナルヲ責メ彼等ヲ促シテ先ツ其罪ヲ悔改メンコトヲ以
 テセリ而シテ人若シ衷心其罪ヲ悔改ムルニ及バ、贖罪ノ教理ノ如キ
 若クハ神ガ人類ヲ愛シ給フ如キ切要ナル教理ハ自然ニシテ氷解スル

ヲ得ベケレバナリ彼得ハ例令其口ニ於テ贖罪ノ教理ヲ説クコトヲナサ
 ヲリシトスルモ其心ノ中ニハ確カニ其教理ヲ蓄ヘテ幾微ノ間之ヲ説
 クコトヲナシタリシナリ當年彼得ガ説キシ所ノモノハ主トシテ彼等ユ
 ダヤ人ガ主キリストヲ死ニ解タシタルヲ責ムルニアリキ然レモ之ト
 同時ニ神ハ彼等ノ大罪ニ報ンガ爲ニ怖ル可キ刑罰ヲ下シ給フベシト
 ノ事ハ説カズシテ却テ神ハ主キリストノ死ニ由リテ彼等ノ罪ヲ赦ル
 シ給フベキヲ説キタリキ彼ハ人類ノ赦罪ハ神ノ憐憫ニ出ヅル者トシ
 説カズ唯是レ主キリストノ名ニヨリテ赦サルベキヲ語リキ使徒行傳
 第二章三十八節ニ曰ク汝等各悔改めて罪の赦を得んが爲にイエスキ
 リストの名に由りて洗禮を受けよト或ハ跛ノ者ヲ癒ヤス時ニモナザ
 レのイエスキリストの名によりて此人健かなることを得汝等前ニ立
 ちたりト或ハ此外別に救ひあることなしは天下の人の内に我等の
 依り頼みて救はる可き他の名を賜はされはなりト使徒行傳第十章四
 十三節ニ曰ク凡の預言者も凡る彼を信する者は其名によりて罪の救

しを受くべし」ト蓋シ本文ノ意味スル所ハ人ハ罪ヲ悔改メテ赦罪ヲ受ク可キ者ナリ而ノ赦罪ハ是レ悔改ノ結果ナルノミトノ事是レナリ彼ハ又赦罪ハ神ノ憐憫ニ由ルト云ハズシテ主キリストノ名ニ由ルヲ言ヒキ

彼得ガ説キタル此ノ新規ナル教理ハ舊約聖書ニ記サレタル預言者等ノ言ト亦タ能ク適合スルモノナルヲ説キヌ使得行傳第十章四十三節ニ曰ク「凡そ預言者も凡そ彼を信する者は其名によりて罪の赦を受く可し」ト古代ニアリテ信者ハ皆詩ノ第五十一篇一、二節ニ記サレタル「嗚呼神よ願くば汝の慈によりて我を憫み汝の憫の大によるも我諸愆を消し給へ」トノ語ノ如ク神ノ憫ニ由リテ罪ノ赦ヲ得ンヲ望ミ居タリキ然レドモ彼得ノ時ニ及ビテヤ信徒ハ皆神ノ憫ヲ只主キリストノ聖名ニヨリテ望ムベキトナシタリキ其ハ神其憫ヲ只主キリストノ死ヲ通ジテ吾人々類ニ與ヘ給フベキヲ以テ也ペンテコステノ日ヨリシテ今日ニ至ル吾人ハ唯ダ其殺サレテ後チ甦サレ天ニ昇リ神ノ右ニ

座シ給ヒタル主キリストノ權能ト恩惠トニ頼ラザル可カラザル也使徒行傳第五章三十一節ニ曰ク「神は之を君とし救主として其右の方に擧ぐ是人々に悔改めと罪の赦を與んが爲めなり」ト

由之觀足彼得ガ説キタル語中ニハ確ニ主キリストノ贖主ナルコトハ明亮ニセラレタルヲ信ズ主ガ一度贖主トナラレシヨリ爾來神ノ恩惠ハ常ニ主キリストニヨリテ來ルコトトハナリヌ故ニ若シ赦罪ノ恩典ニ與ラントセバ主キリストヲ信ズルヲナサル可カラザル也彼得ガ試ミタル五回ノ説教ニ於テ未ダ曾テ贖罪ノ教理ニ付キ系統的議論ヲ聞クヲ得ズト雖モ其語中ニ含マレタル意味ニ於テ贖罪ノ理ハ明白ニ顯ハレタリキ

吾人ハ今少シク論歩ヲ改メテ彼得ガ自ラ書シタル書簡ニ付キ更ニ一考ヲ下サントス蓋シ上來考究シ來リタル五箇ノ説教ハ是未ダ主ヲ知ラザルモノ時ニ其幾多聽衆ノ中ニハ親シク主ニ敵シタル者サヘアル人々ニ向フテ説キタルモノニ係ルト雖モ彼ガ手カラ書キ送りタル書

簡ニ至テハ既ニ主ヲ信ジ其道ニ熱心ニナル信徒ノ爲ニ物シタルモノナルヲ以テ多少其趣ヲ異ニスル所アリ而其書簡ノ物セラレタル目的トモ云フベキハ其書ヲ讀シモノ、精神ヲ堅確ニシ又之ニ多クノ慰藉ヲ與フルガ爲ナリキ何ガ故ニ其必要ヲ生ジタルカ當時彼得ニヨリ書簡ヲ受タルノ彼等ハ斯教ヲ奉ズルガ爲メ非常ノ困危ニ陥リ剩サヘ其財產ヲ將ニ失ハントスルノ危機ニ迫リヌ或者ハ貧困ト戰ヒ或者ハ窘逐ヲ甘シヌ事情已ニ如此彼得タルモノ豈一言ノ慰言ナカラシヤ然レモ彼得ハ其書中ニ於テキリストノ教訓及ビ其約束若クハ主ノ語リ給ヒタル譬喩談ノ如キ敢テ之ヲ筆スルヲナサバリキ此ハ素ヨリ彼等ガ已ニ彼得ノ口ニ由リテ親シク聞ク所アリシヲ以テ也彼得ハ本書ニ於テ慰藉ノ恩惠ノ下ル可キヲ記シタリト雖モ亦更ニ主キリストノ貧困ナル生涯ヲ描キ其軀恤ノ深キニ付キ語ルヲナサバリシナリ然レモ本書ニ記サレタル八ケノ特異ナル説語中ニハ主キリストガ其鮮血ヲ濺ギ給ヒタル死ノ苦痛ハ正ニ是吾人々類ノ慰藉ノ根元ナリトノ

妙旨ヲ記シタリキ即テ彼得前書第一章十一節ニ曰ク「預言者は其内に居るキリストの聖靈キリストの受んとする苦とるの後得んとする榮光を豫め證したり」ト全第五章一節ニ曰ク「キリストの苦を親しく（ベテロ自身ヲ云フ）見て證をなし」ト全第一章二節ニ曰ク「即ち父なる神福音に順はしめイエスキリストの血に灑れしめんとして選び給へり」ト又第十九節ニ「疵なく汚なき羔の如きキリストの寶血に由りて贖はれたる」とを知らばなり」ト又第二章二十一節ト二十四節ニ曰ク「蓋キリスト爾曹の爲に苦を受け、木の上に懸て我等の罪を自ら己が任給へり」ト又第三章十八節ニ曰ク「キリストも一次罪の爲に苦を受く彼義者（キリスト）不義者に代れり是吾等を引て神に至らん爲なり彼其肉體は殺され其靈は生されたり」ト彼得ハ以上ノ諸節ニ書レタル言ヲモテ苦痛ノ内ニ呻吟セル信徒ヲ勸奨セリ又第四章一節ニ曰ク「キリスト既に吾等の爲に肉體に苦難を受け給ひたれば汝等も亦其心をもて自ら鑑ふべし」ト又十三節ニ曰ク「キリストの苦に與るをもて歡樂とすべし」ト以上ノ諸節

ニ由リ一考シ來レバ彼得ノ主トスル所ハ主キリストノ十字架ト其甦生ニアルガ如シ而ノ言少シモキリストノ教訓及ヒ奇蹟ニ及ブ事ナシ蓋シ主キリストノ死ト其死ニ打勝チテ甦生シ給ヒシガ如キハ事頗ル重要ナルヲモテ獨リ彼得ノ書簡ニ於テ書サレタルノミナラズ新約全書中到ル處トシテ其記載ヲ見ザルナシ之ヲ例スルニ使徒等ハ政府ノ命令ニ從順ナルベキヲ以テ信徒ニ勸告セシト雖モ主ガ會テ教ヘ給ヒケルカイザルノ物はカイザルに返せ神ノ物は神に返すべしトノ肝要ナル教訓ニ付キテハ更ニ之ヲ説述スル所ナカリキ或ハ親子ノ倫道ニ付キ懇々トシテ語ル所アリシト雖モ主キリストガ孩提ヲ善待シ給フトニ言ヒ及ブトナシ又屢々孝道ヲ論スルヲアリト雖モ未タ一言モ主キリストガ其兩親(マリヤ、ヨセフ)ニ事ヘテ至孝ナリシヲ言フトナシ又信徒ニ勸メテ人ヲ善ク待フベシト説クヲアリト雖モ主キリストノ模範ヲ擧ゲテ之ヲ誨ユルヲナカリシナリ彼得カコヲ開テ信徒ノ義務ヲ談ジ其心ニ希望ヲ與ヘ又苦難ニ居ル者ヲ慰ムルニ當テヤ唯主キリス

トノ慘死ノ苦ト甦生及ビ其昇天ノ事ヲ以テシタリキ猶太ノ國風ニ據ルキハ縱令預言者若クハ聖人ノ死ナリト雖モ其死ニ付キテ深ク考究スルガ如キハ其ノ爲サハリシ所ナリシナリ吾人今主キリストノ生前一生涯ノ行事ニ付キテ之ヲ見ルモ將タ其死ノ有様ニ付キテ之ヲ見ルモ共ニ竄ニ群ヲ拔キ類ヲ絶シテ超然タルモノアルヲ見ル然ルニ使徒等ハ其生涯ノ行事ニ付キテ語ルヲナサズシテ自ラ好ンデ猶太ノ國風ニサヘ相合ハザルノ死ヲ説クヲナセリ是レ頗ル異ム可キトニ屬スルヲ以テ今少シク其理由ヲ説カントス

蓋シ彼得ハ其書ヲ筆シテ之ヲ亞細亞ノ五ヶ國ニ散住セル信徒ニ遣リタリ彼等ノ祖先ハ當時ヲ遡ルト凡ソ七百年前ニアツスリヤ王ノ爲ニ亞細亞ノ諸處ニ散サレタリシモノ故ニ彼等ハ既ニ猶太人タルノ特權ヲ失ヒテアリキ彼得ハ其猶太人ト異國人トニ拘ラズ散住セル一般ノ人々ニ向ヒテ其書簡ヲ遣ルヲナセリ彼等ハ此ノ世ニ於テハ神ニ由リテ散サレタルモノ實ニ外國ノ旅客ニテアリキ此ノ世ノ國ニ屬セズ

シテ籍ヲ天國ニ屬スルモノナリキ此等ノ信徒ハ將ニ來ントスル世ニ於テ皆共ニ第一章四節ニ記サレタルガ如ク天に藏ある朽す汚れず衰へざる嗣業ヲ得シメラルベキ者ナリキ又第二章九節ニ記サレタルガ如ク彼等は選れたる族王なる祭司聖民神に屬する者にして亦神の靈の宮ナリキ第二章五節ニ曰ク爾曹彼に(キリスト)來り活石の如く建られて靈の室となり亦潔き祭司となりイニス、キリストに由りて神に悦はるゝ靈の祭物を献べし下此ハ主ヲ信ズルノ徒ガ將ニ受ク可キノ利益ハ昔時猶太人が受ケタルガ如キ利益ニアラズシテ靈ニ屬スル無限ノ利益ナルヲ道破シタル者ニ非ズヤ昔時猶太人ハ何ノ時ヨリカ其利益ニ與リヌ如何ニシテ神ト共ニ約束ヲ立ツルヲ能クセンヤ其猶太人が埃及ヲ出テタルノ後シナイ山麓ニ於テモーセガ犠牲ヲ献ゲ其血ノ半バヲ聖壇ニ滌ギ又ソノ殘レル半バヲ以テ人々ニ滌ギ諸テ他ノ民ヲ離レテ神ト約束ヲ立ツルヲナシタルノ時ニ始マル恰モ如此彼得ハ其第一章二節ニ於テ父なる神(信者ヲ)福音に順はしめイニス、キリスト

の血に灑れしめんとて撰び給ひき下云ヒ此灑ガルト記セルノ意ハ是レ主キリストノ犠牲ノ血ニ由リテ灑ガレタルヲ指シテ言フニ外ナラズ信徒ハ皆此ノ犠牲ノ血ニ灑ガレテ神ト共ニ新約ヲ結ビ以テ他ノ群ヲ離レテ獨リ神ノ新ナル民トセラル、ニ至ル故ニ此語ヨリシテ推ス時ハ主キリストハ自ラ其血ヲ濺ギテ贖罪ヲ遂ゲ給フヲ知ル可キ也尙一ツ吾人ノ茲ニ注意スベキ事アリ其ハ彼得ガ主イエスキリストノ死ノ性質ト結果ヲ表示センガ爲メ古昔ニ於ケルユダヤノ犠牲ニツケル語ヲ以テキリストハ人間ノ代ハリノ犠牲ナルヲ指示シタルヲナリ第二章二十節下半ヨリ廿四節マデニ記シタルされど(爾曹)若し善をなし苦められて此を忍はし神に嘉稱を得可し爾曹の召されたるは之が爲なり蓋スキリスト爾曹の爲めに苦を受け爾曹をして己の跡に隨はしめんとて式を爾曹に遺し給へば也彼罪を犯さず又其口に詭譎なかりき彼訴られて訴られず苦られて厲言を出さず唯義を以て鞫く者に之を託たり彼木の上に懸て我儕の罪を自ら己が身に任給へり是我儕を

して罪に死て義に生しめん爲めなり彼の鞭扑れしに因て爾曹醫れたり下アル即チ是也如此記サレタル理由ハ當時主ヲ信ズルノ徒中ニハ多ノ奴隸アリキ縱令キリストノ教ハ人ヲ奴隸トシテ使役スルガ如キハ大ニ反對スル所ナリシト雖モ苟モ之レガ一國ノ風習トシテ存スル時ハ叛逆ニ等シキ手段ヲ以テ改革スルガ如キハ亦贊スル所ニハアラザリシヲ以テ其身ヲ奴隸ノ境界ニ置クノ信徒ニ勸メテ尙ホ耐へ忍ビ柔和ナル心ヲ以テ神ノ聖旨ニ合フベキヲ以テシタリキ奴隸制度ノ如キ固ヨリ不正ナル制度ニ相違ナキモ主キリストサヘモ其在世ニ方リテヤ尙ホ多ノ不正ナル事態ノ下ニ忍ブコトヲナシタマヒキ故ニ吾人信徒タルモノ縱令不正ノ事情ノ下ニ重荷ヲ負セラル、トアリトスルモ亦柔和ヲ以テ之ニ當ルヲセザルベカラズ彼得ハ主キリストガ其苦難ヲ受ケ給ヒタル所以ノモノハ爾曹今奴隸ノ境ニアル者ノ爲ナルヲ確言シヌ此ニ記シタル爲テフ文字ハ頗ル必要ナル語ニノ舊約時代ニ於ケル預言者若クハ信徒ガ神及ソノ國ニ事ヘテ教ニ殉シタルガ

如キ其死ニ付キテハ會テ記スルヲナシト雖モ獨リ主キリストノ人類ノ爲メ死スルヲニ付テハ屢々其筆ヲ執ルヲナセリ而ノ爲テフ文字ハ果シテ是レ如何ナル意味オカ合ム或ハ之ヲ謂ヒテ完全ナル模範ヲ與ヘンガ爲ナリト言ハンカ或ハ人ニ利益ヲ與フルガ爲ナリトセンカ將タ人ノ爲ニ代リテ死シ給ヒシモノナリトセンカ吾人ハ猶豫ナク吾人々類ノ爲ニ代リテ死シ給ヘルモノナルヲ斷言セントス茲ニ一ケノ疑問アリ新約全書ハ何ガ故ニ主キリストハ我儕ノ爲ニ生ルトハ言ハズシテ死シ給ヒシトハ言フ惟フニ主キリストノ一生涯ハ忍耐ト勇氣ト及ビ體恤ト柔和ナルヲノ連串セル一生涯ニアラズヤ此ハ吾人ノ正ニ遵フ可キ完全ナル模範ニシテ其生涯ハ確ニ吾人々類ノ爲メナルヲ言フ俟ザルナリ然レモ是レ吾人ニ與ヘ給ヒタル忍耐ノ模範ト見ルヨリ外他アラザルヲ信ズ獨リ主キリストガ吾人ノ爲メニ死シ給フト言フニ至テハ前者ニ比シテ更ニ一層深長ナル意味ヲ有スルヲ信ズ若シ夫レ主ノ死ニシテ單ニ宗教上ノ利益別言スレバ即チ道德

ヲ教ユル爲ノミナリトセバ焉ゾ強テ死スルヲノミ要トセンヤ例令
 バ主キリストガ野ニテ試ミラレ給ヒシガ如キ或ハ其安住ノ家屋サヘ
 ナカリシガ如キ或ハゲツセマ子園中ニ於ケル血ノ汗ノ滴ランバカリ
 ノ苦痛ノ如キ或ハ奇蹟ヲ行ヒ給ヒシガ如キ或ハ譬喩ヲ以テ教訓シ給
 ヘルガ如キ是皆吾人々類ノ爲ニアラザランヤ是豈ニ吾人ノ爲ニ特ニ
 道德ヲ誨ユルガ爲ニアラザランヤ然レモ新約全書ニ就テ之ヲ見レバ
 凡ソ此等ノ言教行爲ハ特ニ吾人ノ爲ナリトハ書サル、事ナフソ唯主
 キリストノ死ノミ吾人ノ爲メナルヲ書サレタリ主キリストノ死ノ意
 味スル所ハ明ニ吾人々類ノ身代トリ云フヲイニ即チ人類ノ罪ヲ其身
 ニ負ヒテ其慘死ヲ遂ゲ給ヘル也第二章二十四節ニ曰ク彼木の上に
 懸リて我儕ノ罪を自ら身に負ヒ給ヘリト猶太國ニ於テ若シ罪ヲ負フ
 ト云フヲアリトセバ其ノ意味唯一即チ罪ノ爲ニ死罪ニ行ハル、ト云
 フヲニ出デザル也之ヲ例スルニ舊約利米記第二十四章十五六節ニ曰
 ク凡て其神を讒る者は其罰を蒙る可し(ヘブル語ニテハ其罪ヲ負フ可

シ)エホバの名を潰す者は必ず誅されんト又民數記略第九章十三節ニ
 曰ク然と人其身潔くあり又征途にもあらずして逾越節を行ふとをせ
 ざる時は其人民の中より斷れん即殺れん斯る人は其期に及びてエホ
 バの禮物を持來ざるか故に其罪を任可き也ト此外尙ホ枚擧ニ違アラ
 ズ之ヲ要スルニ罪ヲ負フトハ罪ノ爲ニ殺サル、ヲ言フ者タルヤ明白
 ナリキ民數記畧第十四章卅三四節ニ曰ク汝等の子女等は汝等が屍と
 なりて曠野に朽るまで四十年の間曠野に流蕩て汝等の悖迷の罪に當
 らん汝等は彼地を窺ふに日數四十日を経たれば其一日を一年として
 汝等四十年の間其罪を負ひ我が汝等を離たるを知べしト此ハ猶太人
 ガ埃及ヲ逃レテ曠野ニ出デタル後神ノ命令ニ背キタルガ爲メ四十年
 ノ間曠野ニ流蕩シ罪ヲ負フテ皆死亡セル後其子孫漸ク成長シ四十年
 ノ終ニ於テ竟ニカナンノ樂地ニ到着セルヲ云フ又以西結書第十八章
 第二十節ニ曰ク罪を犯せる靈魂は死べし子は父の惡を負す父は子の
 惡を負ざるなりト此ハ人ハ其誰タルヲ問ズ他人ノ罪ヲ其身ニ負ヒ能

ハザルヲ説ケル者ナリトス然レモ彼得ニ至リテハ即チ言フ「主キリストは信徒に代りて自ら其罪を負ひ給へり」ト敢テ語ヲ讀者諸君ニ寄ス冀クハ主キリストガ吾人ニ代リテ自ラ其罪ヲ負ヒ給ヘルノ眞理ヲ深ク玩味セラレン事ヲ人或ハ謂フ主キリストガ人ノ罪ヲ負ヒ給ヒシト云フ所ノモノ是レ主カ人類ノ罪過重疊シテ殆ンド脱ス可カラザルノ淵ニ沈論セルヲ見テ同情ノ念ヲ喚發シ人類ノ爲メ恐レ給フノ深キヲ言ヘルモノニ過ギザルナリト然レモ此ハ誤謬ノ見ニシテ固ヨリ取ルニ足ラザルナリ何トナレバ彼得ハ「主キリストは其身に我儕の罪を負ひ給へり」ト明言ナシタリキサレバ主ガ單ニ同情ノ念ヲ喚發シ給ヒキト云フハ誤謬ノ見タルヲ言フ迄モナキノナリ主キリストガ人類ニ同情ヲ表シ且ツ身ヲ以テ人類ニ代リテ其受クベキ罰ヲ甘受シ給ヒシニ付キテハ彼得ハ其書ニ於テ「主は木の上に掛り我儕の罪を已が身に負ひ給へり」ト此ハ主キリストガ人類ニ代リ十字架上ニ上リテ人類ノ正ニ受ク可キ死ノ刑罰ヲ受ケ給ヘルヲ云フ換言スレハ主バ我儕人類ニ

代リテ贖罪ノ大業ヲ成就シ給ヒキト云フ是也彼得前書第二十章十八節ニ曰ク「キリストも一次罪の爲めに苦難を受け彼義者不義者ニ代れり」ト

以上論シタル二章二十節ヨリ二十四節迄ト三章八節トハ彼得説示スルノ目的ニ於テ相異ナル所アリ即前者ニ於テハ主イエスキリストガ受クベカラザル悲痛ニ耐忍ンデ自ラ任カセ玉ヒシ如ク信者ハ耐忍ンデ凡テノ困難ニ任スベキヲ教エ後者ニ於テハ主キリストガ受クベカラザル悲痛ヲ受ンニ此ハ神ガ自己ニ利益ヲ與フ爲メ此悲痛ヲ備エ玉ヒシヲ服膺スベキヲ教エタリ彼得前書第三章十節ヨリ十三節ニ曰ク夫れ生命を愛して佳日を送らんと欲ふ者は舌を禁て惡を言ず唇を減て詭譎を言ざらんとをせよ惡を避けて善を行ひ和睦を求めて之を追べしそは主の目は義人の上に止り其耳は義人の祈禱に傾き主の面は惡を行ふ者に向ひて怒れば也爾曹若し熱心に善を行はば誰が爾曹を害はん乎」ト本節ノ主意トスル所ハ人善事ヲ行フコトヲセバ慶福必ズ到ル

可シ是レ神ノ聖旨ナリトノ是ナリ神ノ聖旨ハ萬古不易ニシテ義者ハ平和ト安全ト富ト尊敬トヲ受ク可キ者トシテ定メラレキ然レモ今ノ世ニ於テ往々ニシテ義者却テ困危ノ裡ニ苦シメラル、ガ如キ冠履顛倒ノ事ナキニシモアラズト雖モ人ハ神ノ聖旨ヲ遵守スルコトニ於テ忠實ナラザルベカラズ縱然正義ノ爲メニ窘迫ヲ受ルコトアリトスルモ是レ一時ノ小波瀾ニシテ榮冠ハ遂ニ彼ノ頭上ヲ脱スルコトナカル可キ也彼得前書三章十四節ニ曰ク「縱ひ義き事の爲に苦めらるゝども爾曹福なる者なり人の爾曹を威嚇を畏るゝ勿れ亦憂る勿れ又全十七節ニ曰ク「若シ爾曹が善を行ふによりて苦を受くると神の聖旨ならば惡を行ふに由りて苦を受るに勝れり」ト然レモ讀デ次節ニ至レバ話頭少シク轉ジテ主キリストノ苦難ヲ説キ贖罪ノ大切ナルヲ説キタリキ彼得ハ主キリストガ善ヲ行ヒ給フガ爲メニ苦難ニ遭際シ給ヘルヲ説ズシテ却テ主ハ罪ノ爲ニ苦難ヲ受ケ給ヒキトハ言ヒヌ嗚呼彼ガ心裡ハ贖罪ノ教理ヲ以テ正ニ充盈セルニアラザルカサレバ彼ハ屢々主ガ人ニ

代リテ苦難ヲ受ケ給ヘルト論ジタリ故ニ彼ハ此處ニモ主ハ人類ノ罪過ノ爲ニ大ニ憂ヒキトハ言ハズシテ其十字架ニ懸リテ人ノ爲メニ刑罰ヲ受ケ給ヘルヲ記シタリ

三章十八節ニ曰ク「キリストも一次罪の爲めに苦を受く義者(キリスト)不義者に代れり是我儕を引て神に至らん爲めなり彼其肉體は殺され其靈は生されたり」ト此ハ是レ主キリストガ人ノ詐術ニ因リテ訴ヘラレ其誣罪ノ爲メニ苦ミ給フタルニ非ズシテ吾人々類ノ罪過ノ故ニシテ斯クハ苦ミ給ヒシナリ即チ彼ハ義キ身ヲ以テ義カラザル吾人ノ爲メニ其命ヲ捐テ給ヒキ

儲テ十八節ニ記サレタル「義からざる者の爲めに」トアル其爲テフ語ヲ解シテ此ハ主ガ我儕ト共ニ苦難ヲ受ケ給フコトニシテ主ガ天ヨリ降りテ人性ヲ稟ケ給ヒタル至大ノ理由ハ此世ニ降りテ多ノ人ト共ニ苦難ヲ受クルノコトナリト謂フモノアリト雖モ是レ亦誤謬ノ見タヲ免レズ何トナレバ新約全書ヲ緝テ之ヲ見ルモ主キリストガ人ト共ニ苦ヲ

受ケ給ヒシト云フガ如キハ未ダ會テ一回モ記サレタルヲ見出スヲ得ザル也特ニ主ガ吾人人類ノ爲メニ苦難ヲ受ケ給ヒシト云フト吾人々類ト共ニ苦難ヲ受ケ給ヒキト云フ其ノ間意味ノ徑庭スル所決シテ少小ニアラザル也使徒等ハ未ダ會テ共テフ事ヲ言ハズシテ主ハ我儕ノ爲ニ苦難ヲ受ケ給ヒキトハ言ヘリキ爰ヲ以テ吾人モ亦使徒等ニ倣フテ主ハ人類ヲ救ハンガ爲ニ其身ヲ十字架上ニ釘シテ代贖ヲ遂ゲ給ヘルヲ宣揚セザル可ラザルナリ實ニ主ノ目的トシ給フ所ハ吾人ヲ導テ上帝ノ許ニ到ラシメ吾人ヲシテ常ニ上帝ト心交セシメンガ爲メナリ吾人ハ元罪ニ因リテ上帝ノ寶坐ニ進ムコトヲ得ザル者ナリト雖モ主ハ圓滿ナル性情無垢ナル身ヲ以テ自ラ甘ジテ十字架上ニ献物トシテ供ヘ人類ニ代リテ贖罪ヲ成就シ給ヒヌサレバ吾人々類ハ一ノ功アルニアラズノ特ニ赦罪ノ恩典ニ與リ颺拜讚歌恒ニ上帝ヲ頌スルヲ得ルニ至ル是レ偏ニ吾人ニ垂レ給フノ慈祥ニアラザランヤ如此吾人ヲノ上帝ノ寶前ニ跪ク樂ヲ荷ハシメ之ト心交スルノ權利ヲ賦セラル、ハ人

類ニ取り無上ノ幸寵ナリト云ハザルベカラズ此ノ幸寵コソ主キリストトノ贖罪ノ結果也故ニ彼得ハ其書中ニ於テ主キリストノ苦難ハ贖罪ノ犠牲ナルヲ明言セリ便チ彼得前書第一章十八九節ニ曰ク蓋爾曹贖はれて先祖より傳りたる徒さ行より離れしは銀や金の如き壞る者に由に非ず疵なく汚なき羔の如きキリストの寶血に由るとを**知ば也**ト彼得ガ本書ヲ贈リタル信徒等ハギリシヤ人ユダヤ人ニシテ凡テ其心靈上奴隸ノ域ニ在リシモノナリキ蓋シ猶太人等ハ先祖ヨリ傳來セル徒キ行トモ謂フベキ自國ノ歴史ト其外部ニ屬スル禮典戒律ヲ恪守シ之ニ依リテ以テ無限ノ生命ニ與ランコトヲ冀望シ異邦ノ信徒等ハ亦先祖ヨリ遺傳シ來リタル徒キ行即チ諸種ノ偶像ヲ拜スルコトヲナシ其心全然奴隸ノ態ニアリキ然レモ彼得ガ本書ヲ贈ルノ時ニ方リテハ既ニ業ニ此等ノ徒モ心靈的奴隸ノ態ヲ蟬脫シテ亦贖罪ニ與リタルモノナリキ如何ニシテ此等ノ信徒ハ舊態ヲ去テ新生命ニ入ルコトヲ得タルヤ願フニ是レ當時ノ福音宣傳者ガ神ノ性質ハ金銀若クハ木石ニ由テ彫刻

第四章

贖罪ノ事實ニ關シ聖彼得ノ證明

百五十二

セラレタル偶像ノ能ク其眞態ヲ顯現セシメ得ルモノニ非ザルヲ説キ
或ハキリストノ生涯ニ於ケル言教聖爲ニ由リテ神ノ眞實ナル性質ヲ
顯現シ若クハ主キリストノ教ハ人ヲノ諸善奉行ノ倫理ノ模範ナルガ
爲ニ或ハ未來ノ希望ヲ與ヘ或ハ末日審判ノ畏ルベキヲ示シ或ハ聖靈
ノ恩祐ニ由リ罪累ヲ脱却シテ上帝ニ事フベキヲ宣傳セルガ爲ナルカ
抑亦他ニ其理由アリテ存スルカ彼得ハ此等ノ外ニ尙加ヘテ人ノ正ニ
異端ヨリ離ルベキヲ以テセリ即チ人類カ罪ノ寰套ヲ脱シテ自由ノ身
トナルヲ得ル所以ノモノ主キリストガ其身ヲ獻シテ犠牲トナシ給ヒ
シニ由ルヲ宣言セリ別言スレバ罪ナキ汚ナキキリストナル羔ノ血ニ
ヨリ罪ヨリ放タルベキヲ得ザレバ主キリストハ吾人信徒ニ取リテハ
唯一ノ贖主ナリトス實ニ罪人モキリストノ血ニ由リテ神ト偕ニ在テ
平安ヲ享ケ又神ノ榮光ヲ見テ異端ヲ離ルハ得ルニ至ル或ハ主ノ血
ニ由リテ暗黒窟裡ヲ逃レテ天ノ靈光ヲ拜シ積習ヲ脱ノ新ニ純實ノ風
ニ化セラレ古藤ノ如ク纏蝨セル舊性質ヲ解ヒテ自由ニ上帝ニ事フル

ヲ得皆是レ主キリストノ寶血ニ由テ來ル若シ夫レ主キリストノ寶血
ナカラシカ此ノ喜バシキ神ノ福音若シクハ罪人ヲ赦サントノ約束心
ノ弱キ病者ヲノ康強ナラシムルノ約束死ス可キ者ニ無限ノ幸福ヲ與
ヘントノ約束ハ悉皆波上ノ泡沫ト等シク無益ナランノミ神ハ主キリ
ストノ犠牲ニヨリテ人類ヲ救フヲナセリ主キリストノ血ニ由リテ
今日迄モ反逆人タルノ地位ニアリタルモノ特赦ノ典ニ與リ心閑ナル
ヲ得天道人粹ヲ知ルヲナキガ爲ニ將ニ亡ビナントスルモノモ神榮ヲ
拜シテ救拯ヲ蒙リ粗鄙猥褻ナルモノモ清高ノ人物ト化シ道心微ニノ
常ニ嗜慾ノ情ニ制セラル、モノモ靈ノ活力ヲ賦ヘラレ前後恍トノ兩
人ノ如キニ至ラシムルモノ偏ニ是レ主ノ寶血ノ賜ニアラザランヤ實
ニ主ノ犠牲コソハ神ト罪人ナル吾人々類トノ間ニ新シキ關係ヲ作り
成シタリキ此ル理由ナルヲ以テ彼得ハ主キリストノ贖罪事業ハ人類
ニ取リ最重要事ナルヲ信ジ主ヲ信ズルノ徒ハ是レ主キリストノ血ニ
濺カレテ他ノ群ヲ離レタル神ノ選民ナリトハ言ヘリキ彼得前書一章

第四章

贖罪ノ事實ニ關シ聖彼得ノ證明

百五十二

十一節ニ曰ク「彼等其衷に居るキリストの靈キリストの受んとする苦難と其後得んとする榮を預め證したる此は何の日如何なる時を示せると推究ねたり」下「彼又聲言シテ曰ク「我任務ば主の苦難を親く見て證をなすとは是也」下此等ノ言ニヨリテ彼得ノ意ヲ察スレバ確ニ主キリストノ死ハ贖罪ノ犠牲ナルヲ信ジタルヤ言ヲ俟タザル也

試ニ本書ノ目的トスル所ニ就テ一考ヲ下サントス蓋シ本書ノ目的トスル所ハ苟モ主ヲ信ズルノ徒ハ永遠ノ幸福ニ與ルヲ得ルノ冀望ヲ堅確シテ縱然今世ニ於テ慘憺タル痛苦ニ際會スルヲアリトスルモ主キリストノ先蹤ニ鑒ミ恒ニ耐ヘ忍ブベキヲ誨ユルニアリキサレバ彼ハ主ノ死ノ摸範ヲ示シテ信徒ガ身ヲ廉潔ニ持シテ世ヲ渡ランヲ勸獎セリ而シテ主ノ死ノ目的ハ一ニ亦人類ヲシテ聖成セシムルノ方法ヲ教ユルニアルヲモ説キタリキ或ハ主ノ苦難ヲ描キテ主ハ人類ヲシテ義タラシメンガ爲ニ人類ノ罪ヲ其身ニ負ヒ死シ給ヘルヲ屢々語リタリキ吾人今以上ノ言ニ徴シテ彼得ガ主キリストノ死ニ就ケル理

解力ノ進歩ヲ察シ使徒行傳ニ書サレタル五ケノ説教ト更ニ三十年ノ歲月ヲ經過セルノ後ニ著作セラレタル本書ヲ比較シテ彼ガ進境ノ著シキニ驚歎セズンバアラザル也然レ「ペンテコステ」ノ日ニ於テ彼得ハ固ヨリ主ガ血ヲ流シ給フ所以ノ目的ハ人類ノ罪ヲ赦サンガ爲ナルヲ明白ニ理解セリ故ニ本書ヲ以テ使徒行傳ニ書サレタル五ケノ説教ヲ説明スルヲ得試ニ今少シテ之ヲ例センカ使徒行傳第二章二三節ニ曰ク「此人は即ち神の定し旨と預め知給ふ所に應て解され爾曹は無法の手をもて之を捕へ十字架に釘て殺せり」下全第五章三十節ニ曰ク「爾曹はイエスを木に懸て殺したり」下此ノ如ク神ガキリストヲ仇敵ノ手ニ解タシ給フタルコトヲ彼得前書第二章二十四節ニ記サレタル「彼木の上に懸りて我儕の罪を自己が身に負ひ給へり」下アルニ對照シ來レバ前意ヲシテ頗ル明亮ナラシムルモノアルニアラスヤ且此節ハ徒五〇三十一節ニアル「神がキリストを其右に擧げて之に罪の赦るしを與ふるの權威を有たしめ給ふ」テフ尙他ノ事實ヲモ説明スルモノ

ナリ或ハ使徒行傳第四章十二章十二節ニ於テペテロガユダヤノ有司等ニ向ヒテ彼等ガ十字架ニ釘ケタルナザレノイエスニツキテ此外別に救あるとなし蓋天下の人の中に我儕の依頼して救はる可き他名を賜ざれば也トノ言ヲ以テ之ヲ彼得前書三章十八節ニ記サレタル基督も一次罪の爲に苦を受く彼義者(即チキリスト)不義者に代れり是れ我儕を引テ神に至らん爲なりトノ言ニ對比シ來レバ恰モ是レ符ヲ合スルガ如キカ或ハ使徒行傳第十章四十三節ニ於テペテロガコルネリオ及ビ彼ト共ニ集マリタル人々ニ向ヒ云フタル凡の預言者も凡る彼を信するものは其名に由りて罪の赦を受べしと彼に就て證せりトアル語ヲモテ彼得前書一章十一節ニ記サレタル彼等即預言者其衷に居るキリストの靈キリストの受んとする苦難と其後得んとする榮を預め證したる此は何の日如何なる時を示せると推究ねたりトノ言ニ對シ見ンモ此間ノ消息ヲ解スルニ足ランカ

然レモ五ヶノ説教ト其書簡トヲ對照スルニ當リ茲ニ一ツノ異點ヲ發

見ス即チペンテコステノ日ニ當リテヤ彼得ハ滿腔ノ熱血ヲ吐テ彼猶太人等ガ主キリストヲ殺セルノ罪過ヲ痛責シタリキ然レモ書簡ニ至リテハ猶太人及其有司等ノ此ノ罪惡ニ付キテハ何ニヲモ語ルコトナサハリキ是レ寧ろ異ムベキニ似タリト雖モ使徒等モ信徒等モ等シク自家ノ赦罪ヲ全フセンガ爲ニ常ニ主キリストノ十字架上ノ苦難ト其死トヲ頼ルコトヲ爲スガ故ニ人情トシテ他ヲ嚴譴スルガ如キハ自己ガ新ニ受ケタル性ニ不適當ナルコトナランカ

猶彼得ハ元來猶太人ナルガ故ニ其心恒ニ神ガ其先祖ヲ危險ヨリ救玉ヒシコト神ノ一ツノ殿ノ宏大ニノ神聖ナリシコト神ノ命令ニ由テ建テラレタル聖職ノ務メ及ビ神ノ命令ニ從テ引續キテ獻ゲラレタル犠牲ノ奧義アルコト等凡テ其國民ガ古昔ニ於テ有シタル榮光ヲ記憶シキ是等ハ實ニ彼レガ一生ノ道德的宗教的基礎タリシナリ而シテ其心恒ニ之ヲ考フルガ故ニソノ聖公會ノ幸福便益ヲ指示スルノ語ハ凡テコレ等ノコトヨリ引出サレタルモノナリ而シテ彼ハ神ノ默示ニ由リ異邦人ハ

モノセノ禮式ノ律法ヲ受ケズ只信仰ニ由テノミ天國ニ與カルヲ得ルヲ信シタリシガエダヤ人ハ神ガ約シ給フタル榮光ヲ受クルヲ望ミキ即チ未來ニ來ルベキキリストノ權能ト義ト慈惠ヲ以テ凡テノ惡事ヲ抑壓シ凡テノ不義ナルヲ止メ又樂ニ在ル民ニ限無キ幸福ト尊敬ト救ヒヲ與エ給フヲ望ミキ試ニ之ヲ他ノ二使徒ニ比センカ保羅ハ專ラ信仰ニ付テ語ルヲナシ約翰ハ愛ニ付テ教訓ヲ垂レ彼得ハ望ニ付テ説クヲナセリト云フモ大過ナカル可シ彼得前書第一章三四節ニ曰ク神は我儕をしてイエスキリストの甦り給ひしとに由て活る望を得させ亦我儕の爲に天に藏ある朽す汚れず衰へざる嗣業を得しめ給ふなりト全十三節ニ曰ク然ば爾曹心の腰に帶して慎みイエスキリストの顯はれ給ふ時誠に來らんとする恩惠を疑はずして望む可しト此ハ彼得ガ主ノ再臨ヲ説テ將ニ來ラントスル榮光ヲ待望ス可キヲ誨ヘタル者トス又全第四章十三節ニ曰ク卻てキリストの苦に與るを以て歡樂とす可し然ば其榮の顯ん時又爾曹喜び躍らんト此ノ榮トハ

キリストノ榮ヲ云フ即チ主ガ凡ノ信徒ノ爲ニ此ノ榮ヲ得セシメ給フヲ云フ而ノ吾人ガ此ノ未來ノ榮光ニ與ルヲ得ル所以ノ者ハ主キリストノ十字架上ニ於ケル死ノ好果ナリトス故ニ縱然吾人信徒タルモノ世ニ於テ悲惨ノ事ニ遭遇シ苦難ニ會スルヲアリトスルモ耐ヘ忍ンデ其行歩ヲ進メ主キリストノ苦難ニ由テ生ジ來ル無限ノ光榮ヲ望ミテ其安慰ヲ受ケズンバアルベカラザルナリ彼得前書第一章七節ヨリ九節ニ曰ク爾曹の信仰を試みらるゝは壞る金の火に試みらるゝよりも寶くして爾曹イエスキリストの顯はれ給はん時に稱讚と尊貴と榮光を得に至らん爾曹イエスを見ざれども之を愛し今見ずと雖ども信じて喜ぶ其快樂は言がたく且榮光あり蓋汝の信仰の効即ち靈魂の救を得るに因るト彼得ハ以上ノ三節ニ於テ吾人信徒タルモノハ信仰ト愛ト望トヲ共ニ抱キ無限ノ榮光ヲ享ルモノナルヲ語リテ此榮光ノ由來スル所唯主キリストノ十字架上ノ死ニヨリテ贖罪ノ全フセラレタルガ爲ナリトハナシタリキ若シ夫レ基督教會ノ歴史ニ就テ尤モ信

ズベキ教理ノ考究ヲ試ンカ贖罪ノ教理即チ主キリスト十字架上ニ死シテ凡テ人ノ罪ヲ赦消スルノ犠牲ナルコガ其ノ首位ヲ占ムルコヲ發見スルヲ得ン而ノ是レ取リモ直サス聖徒彼得ノ教ヘタル所ナリトス吾人苟モ使徒等ノ蹤ニ隨ツテ進マンコヲ期スルモノ亦同一信仰ヲ抱持スルヲ要ス

贖罪論

主耶蘇基督贖罪論

第五章 贖罪ノ事實ニ關スル聖約翰ノ證明

吾人ハ今聖ヨハ子ノ書キ遺シタル語ヲ考究スルニ先ダチ豫メ公會設立ニ關スル聖ヨハ子ノ地位如何ヲ論ズル所アラントス加拉太書二章七節ニ曰ク「反て彼等使徒等」ハペテロが割禮を受けたるものに福音を傳ふことを託られし如く我がパウロ割禮を受けざる者に福音を傳ふことを託られしを見_下由是觀之福音宣傳ノ事業ハ特ニペテロパウロノ兩人ニ神ガ託ラレシ所ノモノニシテペテロハ專ラ東方バビロン地方ニ散布セルユダヤ人ニパウロハ西方亞細亞及歐羅巴ニ在ル異邦人ニ福音ヲ宣傳シ公會ノ基礎ヲシテ廣濶ニ且堅固ニ成立セシムルコトヲナセリ翻テヨハ子ノ事業ヲ見ルニヨハ子ハ熱心忠實ニシテ能ク主キリストニ奉事シ福音書中ニ於テハ主ノ愛し玉へるものなり_テフコトヲ記録セラルル程ニシテ彼ハ兩使徒ガ既ニ確立セル公會ヲシテ倍

々成長發達セシムルノ任ニ膺リタリキト察セラル若シ之レヲ證セン
トナラバ約翰福音書ト他ノ三福音書トヲ對觀スルニ如クハナシ即チ
約翰福音書及其書簡ハ已ニ久シクキリスト教徒タルノ簡歷ヲ有セル
者ノ爲メニ筆録セシ所ノモノヲ馬太馬可路加ノ三福音書ハ重ニ最
初ノ傳道者等ガ幾度カ未信ノ徒ノ爲メニ詳說セルキリストノ說話ト
譬喩ト行事ヲ含蓄スヨハチガ其福音書ヲ著ハスヤキリスト昇天ヲ去
ル殆ンド六十年ノ後ナリキ而シテ當時信徒ノ數頗ル多キヲ加ヘ其ガ
中ニハ已ニ物故セル信徒ノ子孫モ尠カラザリキ彼等ハ固ヨリ純粹ナ
ルユダヤ人ノ子孫ニシテ其少時ヨリキリスト信徒タルノ故ヲモテ毫
モ猶太教ニ復歸スルノ虞ナカリキ又假令異邦人ノ子孫ト雖モ其少時
已ニキリスト教的教育ヲ以テ薰陶セラレタルヲ以テ再ビ偶像ニ拜跪
セル昔時ニ立チ復リ異端ニ陷ルノ虞ナカリキサレバコソヨハチノ物
シタル書中ニ於テ這般ノ事情ノ爲メニ更ニ心ヲ苦メタル痕跡ナク又
何ノ指シ示ス所ノモノモナカリキ

聖ヨハチノ著書ニ於テ其最モ多ク教ユル所ノモノハ主キリストノ愛
及神ノ愛ニ關スルコトニシテ其ノ異端ヲ攻撃シ邪說ヲ抵排スルガ如
キハ頗ル僅少ニ屬ス此ヲモテ試ニ聖パウロノ諸書ト聖ヨハチノ書ト
ヲ較センカ其教示スルノ點ニ於テ相異ル所アルヲ見ル蓋シ聖ヨハチ
ハ其著書ニ於テ單ニイエス、キリストノ神性及ヒ其人類救拯ノ事業ト
神ガ人類ヲ愛シ給フノ如何ニ深厚ナルカヲ教示セリ而シテ聖パウロ
ニ至リテハ其書中教主ノ行爲ニ關シ屢々各種ノ反對論ヲ拈出シ而シ
テ之レガ解明ヲ付シテ垂示セリ故ニ爾來歐州ニ於ケル基督教會ハ其
神學基礎ヲ多ク聖パウロノ教示セル教理ノ上ニ置クニ至リヌ但シ贖
罪ノ教理ヲ輕ジ之レヲ無用視スル基督教徒ハ之レガ爲メ大ナル誤解
ヲ來シ即チ曰ケラク主キリストニ關スル聖ヨハチノ教誨ハ頗ル高尚
且聖靈的ニシテ聖パウロノ教誨ニ拔クコト更ニ一等ナリト故ニ彼等
ハ更ニ極言シテ曰ク神ガ人類ノ罪ヲ處スルヤ正義ノ方面ヲ以テシ而
シテ人ノ罪ヲ赦スヤ挽回ノ祭物ニヨリ贖罪ノ義ヲ立テ給ヒシカ如キ

若シクハ神人間ノ約束并ニ仲保ノ事ノ如キ此ハ吾人ガ聖パウロニヨリテ得タル賜ニシテ基督教會ハ正ニ感謝ノ念ヲモテ之ヲ領ケヌ然リト雖モ以上聖パウロノ垂示セル教理ハ是レ素ト初歩ニ屬スル教理ニシテ到底聖ヨハ子ノ教理ノ甚ダ深遠高尚ナルニ如カザルナリ故ニ吾人ハ須ラク聖パウロノ卑近ナル教理ヲ去リ聖ヨハ子ノ高尚ニシテ意味深遠ナルモノニ就カザルベカラズト

彼等ハ言フ聖ヨハ子ノ教理ニ據レバ基督ノ徒ハ等シク神ニヨリテ養ハレ且護ル、神ノ愛子ニシテ神ハ生命ニシテ亦タ愛ト光ナリ人類ハキリストニ緣リテ神ニ繋ガレキリストノ贖ハ亦タ凡テノ人類ヲ神ニ復歸セシムルモノ蓋シ是基督敎ノ神髓ナリト然レモ此ハ其全體ヲ遺テ僅ニ其一部ヲ取りテ満足スルモノニシテ固ヨリ誤解タルヤ明ケシ讀者ノ知レルガ如ク基督教會ノ歴史ニ於テ多クノ聖徒ハ此教理ノ重要ニシテ完全ノモノナルヲ知ルガ故ニ能ク確守スルヲナセリ然リ若シ眞ニ聖ヨハ子ノ書ヲノミ能ク究メ確カニ之ヲ守ルモノナラシ

メバ吾人ハ斷ジテ其所信ノ眞實無妄ナルヲ言ハントス今試ニ偏執論者ノ誤解ヲ來セル其理由ヲ探究スルニ彼等ハ謂ヘラク神ノ生タマヘル獨子ノ人性ヲ取りテアレマセルハ是レ基督敎唯一ノ基礎ナリ即チ神子人性ヲ取り給フノ事ニ由テキリストヲ信ズルモノ神ノ聖前ニ亙ナキ生命ヲ享ルヲ得ト彼等ハ唯ダ單ニ神子成肉ノ一事ヲ固守シ以テ萬事ヲ了スルニ足ルト信ズルヲ以テナリ蓋シ神子成肉ハ神ガ人類ニ對シ給フ目的ノ成就セルモノ贖罪ニ由リテ初メテ罪ノ赦ヲ受クルト言フハ是レ道德ニモ聖靈ノ御旨ニモ適合セザル所ニシテ贖罪ノ教理ノ信ズベカラザル所以也ト世若シ此ル偏執論者ニ同感ヲ表スルモノ夥多ナランカ吾人ガ聖ヨハ子ノ著書中ヨリ特ニ贖罪ノ事實ニ就キ彼ガ證明スル所ヲ挺キ出シ之ヲ考究スルハ必ズシモ徒勞ノ業ニアラザルベシ

聖ヨハ子ガ其福音傳及書簡ヲ述作スルヤ全然ユダヤ敎ノ臭味ヲ脱却シタリキ彼ハ固ヨリユダヤ敎ノ神ヨリノ出デタル者ナルヲ知レリ

然レモ神ハユダヤ人ニ一層立優リタル宗教ヲ與ヘンガ爲メニ主キリストヲ送遣シ給ヒキ宛モ是レ時到レバ蝸蝓ヲ破リテ蛾ト化スルガ如ク機熟シ時到リユダヤ教此ニ一轉化ヲナシ基督教トハナリヌ而シテ蝸蝓素ト是レ同物ニシテ其形狀異ナルガ如ク聖ヨハ子ノ著書ノ文體舊約全書ノ記事ト相照シテ異點ノ著シキヲ見ルヲ得故ニ若シ聖ヨハ子ノ教示セル贖罪ノ教理ニシテ主キリストノ靈ノ教ユル所ト相異ナル所アラシカ抑モ亦タ唯ダ單ニ古キユダヤ教ノ思想ノミナランニハ是レ決シテ聖ヨハ子ノ手ニ就リシ書ニハアラザルベシ

贖罪ノ教理ニツキ異論ヲ挿ムノ論者ハ聖ヨハ子ノ福音書ト其書簡トヲ基督教理ノ最モ高尚ニシテ且シ心靈的ナルモノ、含マレタル述作ナリトス故ニ彼等ハ聖ヨハ子ノ著書中ヨリ特ニ聖ヨハ子ノ所見テフ者ヲ拔萃シ自家ノ論據ヲ堅フセントス曰ク聖ヨハ子ノ教ニ由レバ神ト人類トノ關係ハ唯タ人類ノ悔改メニ由テ其間大ニ融合ヲ來タシ神ハ人類ヲ憫ミテ其罪ヲ赦ルシ給フト又曰ク主キリストト人類トノ間

ニ結バレタル強ナキ關係ハ外部的贖罪ノ一事ニ由テ消失セリト又曰ク主キリストノ死ハ神ノ政治上ニ取リテ何等ノ必要アルコトナシ蓋シ主キリストガ人類ヲ贖ヒ給フトハ其意味スル所吾人々類ガ主キリストノ十字架上ノ刑死ヲ仰ギ見テ座ニ敬愛ノ情ヲ惹キ起シ主ガ己ヲ捨テ、世ノ爲ニシ給ヒシガ如ク吾人ヲシテ奮テ其模範ニ倣フツ心ヲ興サシメ何時シカニ感化シ了ラシム是レ蓋シ贖罪ノ意味スル所ナラント

主キリストノ死ヲ以テ贖罪ニ非ズト主張スル論者ハ以上ノ言ヲ以テ聖ヨハ子ノ教示セル教理ノ簡要ナリト云フ然レモ其實際ハ聖ヨハ子モ亦聖ペテロノ如ク常ニ主キリストノ死ヲ以テ重要ナル者トナシキ即チ約壹三〇十六ニ曰ク主は我儕の爲に生を捐たせへり是に由て愛と云ふ事を知りたりト由是觀之若シ主キリストノ死ナカリセバ吾人ハ竟ニ神ノ恩愛ノ如何ニ深厚ナルカヲ知コト能ハザルベキモノニアラズヤ又約壹一〇七ノ後半ニ曰ク其子イエスキリストの血すべて罪

より我儕を潔む」ト此ニ主キリストノ血ト特筆スル所以ノモノ蓋シ人類ノ罪ヲ取り除キ得ルノ力ハ主基督ノ救訓ト其聖キ生涯ニ於テ神ノ性質ヲ顯現セシメ給ヒシ事及聖靈ノ感化ニ由リテ吾人々類ノ心ヲ新ナラシメ給フニ由ニ非ズ只ダ偏ニ主キリストノ十字架上ニ流ガシ給ヒタル鮮血ノ功ニ由ルコト也故ニ罪ヨリ潔トハ實ニ吾人ノ道德心ヲシテ高潔ナラシムルノミナラズ且吾人ノ當ニ受ク可キ刑罰ヨリ免レシムルヲ云フ若シ夫レ聖ヨハ子ノ著書ニ於ケル思想ノ系統ヨリシテ之ヲ論ズル時ハ吾人ノ所見ヲシテ尙一層明白ナラシムルヲ得ベシ約壹一〇五、六、七、ニ曰ク神は光なり少の暗處なし若我儕神と同心なりと言て暗を行かば我儕が言どころは謊にして眞理を行ふに非ず若し神の光に在が如く光の中を行かば我儕互に同心となるを得」ト此言ニヨリテ見レバ凡ソ主キリストノ徒ハ父ナル神及ビ子ナル神ト相交通スルニ由テ始メテ能ク信徒互ニ相愛シ其交情ヲ保ツヲ得即チ使徒信經ニ聖徒ノ交ヲ信ズト記サレタルト同意ナリト知ラル聖ヨハ子ハ更ニ

上來ノ語ヲ續ケテ曰ク且つ其子イエスキリストの血すべて罪より我儕を潔む」ト蓋シ是レ吾人ノ冀望スル所ナル光の中を行き神と同心なるに由リ罪の羈絆を脱却す」トハ事態自ラ相異レリキリストノ血ニヨリ罪ヨリ潔メラル、トハ即チ罪ヲ赦スコトナルハ第九節ニ由リテ知ルヲ得曰クもし己の罪を認はさば神は信實なる公義なる者なるが故に必ず我儕の罪を赦し諸の不義より我儕を潔むべし」ト故ニ假令キリスト信徒ニシテ光ノ中ニ行キ神ノ言葉ヲ研究シ其誠ニ遵ヒ父ナル神及子ナル神ト偕ニ聖靈ノ我儕ニ宿リ給フコトニヨリテ相交通スルコトヲ得ルト雖モ吾人ハ其生涯ヲ通シテ只タ基督ノ死ニ由テノミ罪ヲ潔ラルベキモノナリトス吾人ガ世ニアルヤ屢誘惑ニ遭遇シ又將ニ罪ニ陥ラントスル危機ニ會スルコト尠カラズトス故ニ次章一、二節ニ曰ク若し人罪を犯せば我儕の爲に父の前に保惠師あり即ち義なるイエスキリスト彼は我儕の罪の挽回の祭物なり」ト約壹二〇一、二此等ノ語ヲ以テ吾人ハ確ニ基督ノ死ハ贖罪ノ基礎ナリト知ルヲ得今更ニ他節

ヲ引テ吾人ノ所説ヲシテ一層確カメンカ約壹二〇十二、ニ曰ク主の名に縁テ罪を赦されたりト主ノ名ニ縁テノ語ヲ一考シ來レバ罪ノ赦ハ獨リ人類ノ悔改ト神ノ憐憫ニ縁テノミ得ラルベキニ非ズ此二條件ト共ニ亦タ別ニ第三條件ナル主キリストノ死ヲ必要缺ク可ラザルモノナリトス明カニキリストノ内ニハ人間ノ罪ヲ赦ル人間以外ノ理由アリ聖ヨハ子ノ教示スル所ニ由レハ主キリストノ死ナカリセバ人類ノ悔改ノ聲ハ上天ノ寶坐ニ達スル能ハズ又神ノ恩惠モ因リテ來ルノ道途ナシ蓋シ主キリストノ聖キ生涯ニ於テ神ノ性質ノ最モ顯現セシメラレタル結果ハ我儕人類ヲシテ心深ク神ノ愛ヲ信ゼシメ自家ノ罪愆ノ爲ニ悲ムノ情ヲ起サシメ深キ本心ニ歸ラントノ念ヲ起サシム然リ而シテ苟モ心ニ此等重^ニ大ナルケ條ヲ了解シ心ヲ翻シテ其罪ヲ懺悔セントスル者ハ皆等シク唯タ主キリストノ名ニ縁リテノミ神ノ救拯ニ與ランコトヲノミ冀フ

約壹二〇一、ニ曰ク若し人罪を犯せば我儕の爲に父の前に保惠師あり

ト保惠師トハ頗ル重要ナル語ニシテ此ハ人ノ代理トナリ若クハ人ノ爲メニ祈リ又父ナル神ニ向ヒ人類ノ爲メニ辨護ノ勞ヲトリ赦罪ノ理由ヲ表白スル者也本語ハ聖ヨハ子獨創ノ語ナリト知ラル聖ヨハ子ハ其第壹ノ書四〇十六、ニ於テ神は愛なりトノ語ヲ記セルガ之ヲ以テ前ノ二〇一ノ語ニ比スルニ吾人ハ明カニ人類ノ罪ノ將ニ赦サレントスル其前ニ當リテ保惠師ノ必要ナルヲ知ルヲ得聖ヨハ子ハ何處ヨリ此ル思想ヲ得來リタルナランカ或ハ古キユダヤ教ヨリナランカ否彼ハ既ニ之ヲ脱シテ基督教ニ入りタルモノナレバナリ然ラバ羅馬法律ノ思想ヨリシテ得來リタルモノナランカ否何トナレバ彼ハ聖パウロカ慣用セルガ如キ言語ヲ使用ヒザリシナリ然ラバ則チ彼レ聖ヨハ子ハ必ズヤ主キリストヨリ直接ニ之ヲ學ビ得タルモノナリトナサザル可ラザル也誠ニ主キリストハ吾人々類ノ爲ニ保惠主トナリ且ツ人類ニ向ヒテ神ノ洪大ナル愛ヲ表示シ給ヒキ是ニ於テ神ガ人類ノ罪ヲ赦シ給フノ理由ハ只タ主キリストノ内ニ在テ存ス故ニ聖ヨハ子ハ約壹二

○二、ニ記シテ曰ク「彼は我儕の罪の挽回の祭物なり第に我儕の爲のみならず徧く世の爲の挽回の祭物なり」ト蓋シ挽回ノ祭物トハ頗ル緊要ナルモノニシテ挽回トハ或犯罪者ノ罪ヲ自ラ代リテ之ヲ負ヒ或ハ之ヲ取除キ而シテ被害者ノ怒ヲ宥メ罪ノ刑罰ヲ脱レシムルヲ云フ凡ソ何レノ宗教ト雖モ挽回テフ語ヲ解スルヤ多クハ之ト全様ナル意義ヲ付ス挽回ノ祭物トハ重キ價值ヲ有スルモノニシテ此ル價值アル者ヲモテ之ヲ神ニ献ゲ或ハ祈禱ヲモテ衷情ヲ訴ヘ以テ神ノ怒ヲ避ルヲ得之ニ就キ預言者ミカ記セルアリ曰ク「モアブの王バラク曰ク我エホバの前に何をもちゆきて高き神を拜せん燔祭の物及當歲の贖をもてるの御前にいたるべきかエホバ數千の牡羊萬流の油を悦びたまはんか我愆のために吾長子を献げんか我靈魂の罪の爲に我身の産(子孫)を献げんか」(下米迦六〇六七)バラクハ神ノ怒ヲ宥メンガ爲メニ己ノ代トシテ其長子ヲ献ゲントシキ然レモ此ハ甚ダシキ誤解ニシテ寧ロ恐ルベキ事ナリト雖モ其思想ノ根底ニハ神ノ怒ヲ宥メンカ爲ニ最モ價值アル

モノヲモテ之ヲ神前ニ献スルノ心アリシヤ明ケシ蓋シバラクノ身ニ取リテハ其長子ヨリハ他ニ何物モ之ヲ越ヘテ高價ナルモノナケレバナリ

挽回テフ語ノ意義ニツキ基督教徒内ニ反對ノ意見ヲ持スルモノアリ彼等ノ意ニ謂ヘラク主キリストガ其大ナル苦楚ト死トヲ以テ神ニ對スル人類ノ心ヲ變ヘシムルヲ云フ即チ吾人々類ハ元ヨリ神ヲ畏懼レ且ツ疑ヒ甚クシク之ヲ忌嫌フコトヲナセリ然レモ主キリストノ圓滿具足セル慈愛ヲ十字架上ニ見ルニ當リテハ頑冥ナル吾人ノ心モ東天紅ヲ告ゲテ世界ノ景象一變セルガ如クニ一大光明ヲ來タシ神ヲ信ジ神ヲ愛シ神ト偕ニ相和ギテ再ヒ神ノ懷ニ還ルモノトナルヲ得ト此ノ說ヤ主キリストノ事業ノ結果ノ一ヲ説明スルモノトシテハ遺憾ナシト雖モ挽回ノ祭物ノ眞意義ヲ闡明セルモノナリトシテハ吾人ノ容易ニ首肯シ能ハザル所也舊約全書ノ慣用ニヨレバ挽回テフ語ハ常ニ贖罪ヲ意味ス其眞意義ハ「罪ヲ負フ」神ノ怒ヲ止ム「刑罰ヲ滅却シ罪ノ赦ヲ得

ル等ノ數義ヲ含蓄ス取モ直サズ挽回ナル語ハ被害者ノ心ニ對スルノ謂ニシテ加害者即チ罪人其者ノ心ニ對スルニハ非ザル也例令ハ出埃及記三十二〇三十、三、明日モ一セ民に言けるは汝等は大なる罪を犯せり今我エホバの許に上りゆかんとす我なんぢらの罪を贖ふを得ることともあらんトアルカ如キ是也蓋シモ一セノ意ハ明ニイスラエル人ノ心ヲ變スルコトニ非ズ神ガ罪ヲ罰シ給フノ聖旨ヲ宥メンコトニアリキ即チモ一セガ神ニ向ヒ嗚呼この民の罪は大なる罪なり彼等は自己の爲に金の神を作れり然れどかなは彼等の罪を赦し給へ然すば願くは汝の書きしるしたまへる書の中より吾名を抹さり給へトハ言ヒキ(出三二〇三一、三二)モ一セハ自己ノ生命ヲ捐テ、イスラエル人民ノ代トシ其罪ノ刑罰ヲ止メンガ爲ニ挽回ノ祭物トシテ獻ゲンコトヲ言ヒキ是レ明ニ挽回テフ語ハ罪人ナル人類ニ就キテノ語ニアラズシテ神ニ對シテ用ヒラレタルノ語ナルコトヲ知ルニ足ル更ニ一例ヲ以テセンカ利未記十六〇十六、二曰クイスラエルの人民の汚穢どろの諸の

悖れる罪とに縁て聖所の爲に贖罪を爲べし即ち彼等の汚穢の中間にある集會の幕屋の爲に斯なすべき也ト下惟フニ聖所ハ是レ一ノ建物ノミ焉ゾ能ク罪ヲ犯スコトヲ得ン然ドモ神ノ聖キ幕屋ト祭壇及聖所トハ共ニ罪アルイスラエル人ノ中ニ在リテ建ラレタルモノナルガ故ニ其包圍ノ罪ニ縁テ穢サレザルヲ得ザリキ是ヲモテ豫メ之ヲ淨潔ニシ而シテ後ニ祭物ヲモテ神前ニ事へ奉ルベキ也此潔ハ年毎ニ獻グル所ノ祭物ニヨリテナサレタリキ蓋シ挽回ノ祭物ヤ唯タ單ニ神ノ聖旨ニ對シテ關ハル所ノモノナルノ事實ハ之ヲ以テ見ルモ明白ナリト謂ザルベカラズ何トナレバ彼ノ幕屋ト云ヒ祭壇ト云フ均シク是レ無心ノ器物ニシテ何等ノ感覺モアルベカラザルベケレバ也

故ニ吾人ハ斷シテ聖ヨハ子ノ所謂挽回ノ祭物テフ語ヲモテ是レ人類ノ心意ノ變化ヲ意味スルニ非ズシテ神ノ怒ヲ宥メ罪ノ笞鞭ヨリ脱ル、ヲ意味スルノ語タルヲ言ハントス聖書ハ屢神ノ聖旨ト其權能トヲ説明スルニ當リテ往々擬人的筆法ヲ用ヒタリ即チ神人類ニ近ヅキ

聖手ノ大能ヲノベテ之ヲ助ケ耳ヲ傾ケテ其祈ヲ聽キ罪ヲ見テ怒ヲ含ムナド殆ド人ノ爲スガ如クニ爲シ給フノ旨ヲ記シタリ或ハ言ハン神ハ吾人人類ノ如ク形骸ノ見ルベク觸ルベキモノナキ虚靈ニシテ在ス如何ゾ此ノ如ク然ルヲ得ント然トモ吾人ハ神ノ權能ノ無限ニシテ凡百ノ事豫メ之ヲ知り且之ニ徴證ヲ與ヘ給フベキヲ信ズ故ニ吾人ハ神ガ人類ヲ擁護シ之ヲ惠ミ憫ミ給フトハ其眞實ニ人類ヲ擁護シ之ヲ惠ミ憫ミ給フノコトナルヲ知ル神ガ人類ノ罪ニ對ヒテ怒ヲ發シ其罪ヲ罰シ給フトハ其眞實ニ人類ノ罪ヲ忌ミ給フノコトナルヲ知ル神ノ答鞭ト赦罪トハ全ク異ナレリ聖書ニ示サレタル神ノ慈悲愛憐ト人類ノ懺悔悔改トハ全ク異ナレリサレバ「神の前に保惠師あり即ち義なるイエスキリスト」ト下ノ意味ハ主キリストガ神ニ對シテ挽回ノ祭物トナリ亦ハ亦主キリストノ行爲ニ由リテ悔改メ神ニ歸スル人ノ罪ヲ赦シ給フコトヲ意味スルヤ蓋シ明カナリ

論者或ハ云フ聖ヨハネノ所謂挽回ノ祭物テフ語ヲ辿リテ推究スル時

ハ神モ亦異邦人ノ神々ノ如ク其將ニ赦罪ヲ與フルノ前ニ當リ豫メ種々ナル挽回ノ祭物ヲ徵メ其心ニ憐憫ノ情ヲ惹キ起スコトヲナスト然ドモ此ハ決シテ聖書ノ眞意ニ非ズ吾人ハ聖書ニ就テ神ヲ宥ムルテフコトノ録サレタルヲ見ズシテ却テ罪ノ爲ノ挽回ノ祭物ナリト云フ語ノ録サレタルヲ見ル例令バ出埃及記三十二章ニ録サレタル金ノ犢ノ條ニ曰ク「我神ヲ云フ」彼等に向ひテ怒を發して彼等を滅し盡さん」ト「三十二〇十」其時モ「セイステル人ニ向ヒテ曰ク」汝等は「大なる罪を犯せり今我エホバの許に上りゆかん」とす我汝等の罪を贖ふを得ることもあらん」トモ「セハ決シテ我神ヲ宥メンガ爲ニ上リ行クトハ云ハザリキ蓋シ屢聖書中ニ記サレタル神ガ罪ニ對シテ怒リ給フトハ是レ合理的正當ノ事ニシテ彼ノ異邦ノ神々ノ悲合理的ノ怒トハ固ヨリ月籠ノ差アリトス故ニ世ノ多クノ宗教ニ於テ用ヒラレタル語ハ神ヲ宥メルテフ語ニシテユダヤ人ニ由テ用ヒラレタル語ハ罪ヲ贖フテフ語ナリキ何トナレバ彼等ハ深ク眞神ヲ信シ其正義ニ在スコトヲ知レバ也

聖ヨハテ説テ云ヒケラク「神は造りたる一物をも惜まず悔改むる罪人を悉く赦し給ふ」ト神ハ自ト罪人タル吾人ノ間トニ保惠師ヲ立テ給ヒキ即チ罪ヲ贖フ挽回ノ祭物ハ神ノ恩賜ニ屬ス約壹四〇十、ニ曰ク「我儕神を愛するに非ず神我儕を愛し我儕の罪の爲に其子を遣して挽回の祭物とせり是即ち愛也」ト

吾人ハ茲ニ約翰福音傳中ノ數語ヲ引用スルヲ得ルト雖モ此ハ既ニ前文ニ記セル所ナルヲモテ之ヲ復ビスルノ要ナキヲ信ズ然リト雖モ其福音傳中未ダ曾テ説明ヲ加ヘザリシ一點アリ即チ約翰傳第十一章四十七節ヨリ五十一節ニ録サレタル是に於て祭司の長等とバリサイの人と議員を召集めて曰けるは我儕如何すべきや此の人多くの奇跡を行なりもし彼を此まゝに棄置ば人みな彼を信せん然ば羅馬の人來りて我儕の地をも民をも奪べし其中の一人にて此歳の祭司の長なるカヤバと云る者彼等に曰けるは爾曹何をも知ず又民の爲に一人死て擧國はるびさるは我儕の益たる事をも思ざる也此言は已より出しに非

ず此歳の祭司の長なるに由リイエスの斯民の爲に死るとを預言せるなりトアル是也カヤバハユダヤ人ノ祭司ノ長ニシテ主キリストノ奇跡ニ就キ考究センガ爲ニ議員ヲ召集スルヲナシキ蓋シ主キリストガ死シテ既ニ四日ヲ經過セルラザロラ甦ラセ給ヒシ奇跡ハ時恰モ逾越節ノ直グ前ニ際セルヲモテ二千萬ノユダヤ人及異邦ニ流寓セル多クノユダヤ人等ハ俱ニ首都エルサレムニ參集シ或ハ親シク其奇跡ヲ見或ハ其評判ヲ聞キ主キリストノ奇跡談ハ往ク處トシテ傳ヘラレザルハナク物情容易ナラザルガ如ク見ヘキ是ニ於テ祭司等ハ一大恐慌ヲ惹キ起シヌ惟ヘラク此ノ參集セル多クノユダヤ人等ガ主キリストヲ擁シテ反旗ヲ繚シ一大騷擾ヲ起スニ至ラバ其結果果シテ如何ト故ニ彼等ハ蒼皇トシテ之ヲ處スルノ道ヲ講ゼンガ爲メ一會議ヲ開キニキカヤバハ極惡無道ノ白徒ニシテ我意ヲノミ振舞ヒケレバ此ニモ主キリストヲ殺サントハ主張ナシタリキ然リト雖モカヤバハ神ノ律法ニ準レル祭司ノ長ニシテユダヤ人ニ對シ神ノ聖旨ヲ傳ヘ顯ハスベキ

モノナリキ故ニ其言ヘル民の爲に一人死て舉國亡びざるは我儕の益たる事をも思はざる也トハ蓋シ聖靈ナル神ノ默示ニ由レル眞預言ナリシナリ讀者ノ知レルガ如ク神ガ一度シナイ山ニ於テ律法ヲ授ケ給ヒシヨリ爾來祭司ノ長ハユダヤ人ニ對シテハ地ニ於ケル宗教上ノ精神ニシテ且ツ頭腦ナリ故ニ神ニ對ヒテハユダヤ人ノ代表者タリユダヤ人ニ對ヒテハ神ノ代表者タリキ年毎ニ唯一回至聖所即チ神ノ奧義ノ印象ノ前ニ出ヅルヲ得ルハ獨祭司ノ長ノミナリキ或ハ一國ノ危急存亡ニ際シ神ガ其國民ノ如何ニ處スベキカヲ指示シ給フヤ亦タ祭司ノ長ヲ介シテナリキ而シテ主キリストノ時代ニ於テ其古昔ノ光輝ヲ存スルモノ獨リ祭司長ノ職ノ依然タルコトナリキ此時ニ當リテヤモ一セノ如キ偉大ナル立法者モナク王ノ系統ハ已ニ久シク絶ヘ一ノ預言者サヘナカリキ然リト雖モ祭司ノ長ノ職位ハモ一セヨリ主キリストニ至ル十六世紀間曾テ變化スルヲナク連綿トシテ存シタリキ然リト雖モ此ノ榮譽アル神職モ亦將ニ廢絶ニ歸スルノ時至ラントス神ハ

其會テ立テ給ヒタル禮拜ノ組織ヲ變ジテ之ニ代ユルニ猶一層善美ナルモノヲ以テセントス即チ美麗ナル宮殿ハ毀タレ日毎月毎ノ犧牲ハ正ニ廢止セラレ至聖所ニ掛ケラレタル幔ハ天ヨリノ手ヲモテ真中ヨリ裂レ去ラレントス嗚呼時ハ迫リテ今ヤ此ニ到ル此ノ時ニ當リ神ハ祭司長ヲシテ預言セシメ給ハク民の爲に一人死て舉國はるびざるは我儕の益たる事をも思ざる也トカヤハハ彼自身ニ於テ本語ノ意ヲ了悟スル所ナシト雖モ之ニ由リテユダヤ國ニ於ケル諸ノ犧牲ノ代トシテ唯一眞正ニシテ永遠ナル犧牲ノ何物ナルカヲ指示シタリキ而シテ彼ハ亦タ之ニ由リテ世界万民ニ關ハレル眞正ナル祭司ノ長ノ誰ナルカヲ指示シタリキ彼ハ其稟性ノ專横放恣ナルニ任セ此ル大會議ノ議場ニ於テ輕々シクモ恐ルベキ大罪ヲ犯スベキヲ勸告セリ即チ彼ハ全ク罪ナキ人ヲ殺スベキヲ主張シタリキ而シテ彼ハ聖靈ナル神ノ暗黙ナル指導ニヨリ主キリストノ贖罪的事業ヲ明示シタリキ五十一節ニ曰ク此言は己より出しに非ず此歳の祭司の長なるによりイエスの斯

民の爲に死るとを預言せる也。但シ此ハ固ヨリ聖徒ヨハ子ノ説明ニ係ルモノナリト雖モ若シ此説明ニシテ主キリストノ聖旨ニ適フモノニアラザランニハ彼ハ之ヲ録スルヲナサバリシナルベシ。上來論ズル所ニ就キ一考シ來レハ吾人ハ聖ヨハ子ノ畫簡及其福音傳中ニ於テ明カニ主キリストノ贖罪ハ世界万民ノ爲メナルノ旨ヲ闡明セルヲ知ルヲ得

贖罪論

主耶蘇基督贖罪論

第六章 贖罪ノ事實ニ關スル聖ヤコブノ證明

今聖雅各ノ語ヲ研究スルニ先チ吾人ハ豫メ何時如何ナル狀態ノ下ニ雅各書ノ記サレタルヤヲ研究シ置カサル可ラズ夫レ雅各書ノ著述セラレタルハ主キリスト昇天ヲ去ル殆ンド三十年ノ後ナリキ而シテ主キリストノ教會ハ「ペンテコステ」ノ日ニ當リテ聖靈ノ降臨ニ由リ既ニ成立スルコトヲ得多クノ處ニ於テ擴張セラレツ、アリキ此ノ新教會即チ新約ノ上ニ立テラレタル教會ハ舊約ノ上ニ立テラレタル舊教會ニ代リテ其位置ヲ占メ彼ノ一國民ニ限ラレタルモノニ反シテ此ハ萬國民ニ通有セララル、モノトナリ舊約ニ由リテ前ニハ野ノ幕屋ニ住ミ後ニハエルサレムノ宮殿ニ住ミ給ヒタル神ハ今ヤ新約ニ由リテ萬國民ノ心ノ裡ニ宿リ給フニ至リキ故ニ神ハ此ノ新約ノ教會ニ由リテ吾人類ニ近キ給フト云フベキ也然レモユダヤノ信者等ハ舊約ニ由リテ

立テラレタル公會及ビ祭司職宮殿及ビ獻物等其効益ヲ失シテ遂ニ消
失ニ歸スベキ者ナルトハ漸次ニシテコソ悟了スルニ至レリ故ニユダ
ヤ人ニノ主キリストヲ信ズル者ハ其信仰ト共ニ又祖先ノ遺風ヲ守リ
キ此ル事情ハ遂ニエルサレムニ於テ一特異ノ例ヲ見ルニ至ラシメキ
即チキリスト復活年ノ「ペンテコステ」ノ日ヲ去ル二十年ノ後エルサレ
ム教會中ニ在リテ有力ナル一派ハ凡ソ異邦ノ人ニノ信徒ノ群ニ入ラ
ントスル者ハ又割禮ヲ受ク可キ也トシキ「バササイ」宗の中なる信者數
人たちて曰けるは彼等に必ず割禮を施し且命じてモーセの例を守し
むべし「徒十五〇五」ペンテコステの日を去る凡ソ二十九年後エルサレ
ムに在りしユダヤ人たる幾萬の信徒の内多くはモーセの律に熱心な
るものなりき「徒二一〇二〇」而してエルサレム當時ノ監督ハ主イエス
キリストノ兄弟ナル聖ヤコブナリキ而シテ彼ヤコブ自身ハユダヤ人
ナルヲ以テバリサイ信者等ハ多分彼ノ宗教上日常ノ行爲ヲ非難スル
コト能ハザリシナラン若シ異邦ノ人ニシテ信徒トナルモノアリト雖

凡此ハ強テモーセノ律法ニ從フヲ要セザルモユダヤ人ニシテ信徒ト
ナルモノアラシニハ其ノ傳來セル古昔ノ風俗ヲ棄テザルヲ可シトス
トハ云ヘリキ當時聖ヤコブノ勢力ノ偉大ナリシハ聖ペテロ若クハ聖
パウロノ友ナルバルナバト雖凡彼ガ勢力ニ反對スルヲ得ザリシヲ以
テモ知ルベキ也加拉太書二〇十二三ニ曰ク「蓋ヤコブより來る者の未
だ至らざる前にはペテロ異邦人と共に食したれども彼等が至るに及
びて割禮を受くる者を懼れ退きて異邦人と別たれば也其餘のユダヤ
人も彼と偕に偽の行をなしバルナバも遂に其偽の行に誘れたる」ト蓋
シ此ノ事實ハアンテオケニ於テ起リタル事ナリトス史家ヨセフアス
ノ證明スル所ハ聖ヤコブニ就キ聖書ノ證明スル所ト相合ス即チヨセ
フアスノ言ニ曰ク「エルサレムノ包圍攻撃ト其ノ擒囚セラレタル者ノ
困難ノ甚ダシキ天刑罰ノユダヤ人ノ上ニ加ヘラレタルモノト見ルノ
外容易ニ其解釋ヲ得ザルベシ如何トナレバ彼ユダヤ人等ハキリスト
ノ兄弟ニシテ且ツ正義人ナルヤコブヲ無殘ニモ殺害セルヲ以テ也ト